

C8
4

+2万-5/

法令全書

達

○海軍省達第一號

海軍志願兵身禮檢査格例第二條第一項中「水兵」ノ下ニ「信號兵」ノ三字ヲ加フ
明治二十四年一月十日

○海軍省達第二號

海兵團徵募官服務規則第十一條第一表中水兵ノ次ニ「信號兵」軍樂手、軍樂生ノ各欄ヲ加ヘ第十四條第三表第四表中水兵ノ次ニ「信號兵」ノ欄ヲ加ヘ信號兵ノ次ニ「軍樂生」ノ欄ヲ加ヘ第十一條第二表中水兵部ノ次ニ左ノ欄ヲ加フ（追加欄略ス）
明治二十四年一月十日
海軍大臣子爵樺山資紀

○陸軍省達第一號

要塞砲兵小銃射擊演習教令別冊ノ通定（別冊略ス）
明治二十四年一月十二日
陸軍大臣伯爵大山 巖

○海軍省達第三號

下士學術檢査規格中兵曹項目ノ次ヘ信號手項目左ノ通追加ス
明治二十四年一月十三日
海軍大臣子爵樺山資紀

科目全點數		信號手項目	
二〇	譜號位格方		
四〇	諸敬禮及一般陸軍並並諸招呼吹奏		
三〇	日課並諸行進諸吹奏		
十	五	百	十

明治二十四年一月十日 海軍省達第一號 第二號 第三號 陸軍省達第一號

10.5.28
海軍大臣子爵樺山資紀

明治二十四年一月 海軍省第四號

武		信					叭	
點十五		點四十					點百	
一五	一五	二〇	三〇	二〇	一〇	二〇	二五	三〇
拳銃操法	船刀操法	銃隊操式第一部第一章第二章	發音信號	萬國船舶信號及所用橫文字	輝發信號	外國旗章	片假名信號原案ノ說明	內國旗章及其寸法
							普通信號旗及艦隊運動旗ノ寸法	譜學並譜綴方
								分別式吹奏

○海軍省達第四號
卒學術檢査規格中水兵ノ次へ信號兵ノ項目左ノ通追加ス
明治二十四年一月十三日

海軍大臣子爵樺山資紀

信號兵學術檢査規格

職名	科目	全點數	項目
		二〇	譜綴並其方

明治二十四年一月 海軍省第四號

兵		信					等		四	
科武		用運		號					叭	
點十五		點十三		點三十					點百	
一五	一五	一五	一五	三〇	一〇	二〇	一〇	二〇	二〇	二〇
拳銃操法	船刀操法	銃隊操式第一部第一章第二章	羅盤方位圖方	端舟標酒	萬國船舶信號及所用ノ橫文字	外國旗章	輝發信號	內國旗章	セマホフ信號	片假名信號
										普通信號
										徒步行進譜吹奏
										日課鼓譜吹奏
										音聲吹別並符號
										請歌禮吹奏
										四等三符信號兵項目
										一般隊號及諸招呼給吹奏

三

科武	用	兵 號 信 等		
		點	點	點
五	十	十	百	點
			七	點
五	十	十	一三〇	點
			二〇	點
五	十	十	二〇	點
			二〇	點
五	十	十	發音信號	點
			四等三等信號兵項目	點
五	十	十	四等三等信號兵項目	點
			四等三等信號兵項目	點

○海軍省達第五號
海軍艦船取外物品出納手續左ノ通定ム

明治二十四年一月十三日

海軍大臣子爵樺山資紀

- 第一條 部内艦船復舊修理及各部改造等ノ爲メ取外シタル物品ノ出納ハ此手續ニ依リ取扱フ可シ但兵備品竝一時ノ取外シニ係ルモノハ此限ニアラス
- 第二條 艦船修理等ニ際シ取外シタル器具器械其他諸物品ハ鎮守府司令長官造船部員ヲシテ造船用トシテ後來使用ノ適否ヲ検査セシム可シ
- 第三條 検査終了ノ上ハ検査ヲ爲シタル者ニ於テ其品名數量及使用ノ適否ヲ明記シタル報告書ヲ製シ司令長官ニ報告シ司令長官ハ物品ノ要否ヲ決定シ之ヲ造船部ニ移送ス可シ
- 第四條 造船部ニ於テ前條決定ノ報告書ヲ受タルトキ造船部材料トシテ後來使用ニ適スルモノハ其品種毎ニ送附票ヲ製シ造船部材料倉庫ニ送附シ該主管之ヲ保管出納スルモノトス但送附票書式ハ別表ニ依ル
- 第五條 造船部ニ於テ第三條決定報告書ヲ受ケ不用ニ屬スルト認定セラレタル物品ハ主計部材料

課ニ送附シ該課長ハ成規ニ依リ處分ス可シ

第六條 造船部材料倉庫主管造船部ヨリ取外物品ノ送附ヲ受タルトキ之ニ見積價格ヲ附シテ收置シ造船部資金支辨ニ係ル物品トハ別種ノ出納整理ヲ爲ス可シ

第七條 造船部ニ於テ船舶修理ノ爲メ取外品ノ入用アルトキハ使用ノ事故ヲ摘記シタル要求票ヲ以テ造船部材料倉庫主管ニ請求ス可シ

第八條 造船部材料倉庫主管前條ニ依リ取外物品ヲ造船部へ交附シタルトキハ其物品使用ノ事故理由等品名數量代價ヲ主計部出納課へ報告ス可シ

第九條 此手續ニ明文アルモノ、外ハ總テ海軍通常物品會計規程ニ依リ取扱フ可シ
(別表送附票書式略ス)

○海軍省達第六號
海軍技術會議規則第十一條左ノ通改正ス

明治二十四年一月十四日

海軍大臣子爵樺山資紀

第十一條 議長ハ各部ノ受持事項ヲ定メ又議員ニ委員ヲ命シ議案ノ調査及其他ノ事ヲ爲サシメ委員中先任ノ者へ委員長ヲ命スルコトヲ得

○陸軍省達第二號
砲兵聯隊中隊番號ノ稱呼ハ野戰及要塞砲兵トモ聯隊通シテ一連ノ番號ヲ附シ大隊中ニ在テモ其稱呼ハ變スルコトナシ

但操練上ノ稱呼ハ各操典ノ規定ニ據ル

明治二十四年一月二十四日

陸軍大臣伯爵大山 巖

○海軍省達第七號
出納官吏及物品會計官吏交代シ事務引繼ヲ了シタルトキハ其時日並官氏名ヲ詳記シ所轄長ヨリ其

都度第三局長へ通知ス可シ

明治二十四年一月二十七日

海軍大臣子爵樺山資紀

○海軍省達第八號
明治二十三年三月達第百二十九號通常物品出納命令官會計官吏表中鎮守府ノ部吳造船材料及小野濱分工場用器械器具物品ノ欄ヲ左ノ通改正ス
明治二十四年一月二十七日

海軍大臣子爵樺山資紀

鎮守府	品名	出納命令官會計官吏	
		主計部長	主計部副部長
吳造船材料	製造科	長	主計部副部長
小野濱分工場用	製造科	長	主計部副部長
器械器具物品	製造科	長	主計部副部長
	製造科	長	主計部副部長
	製造科	長	主計部副部長

○海軍省達第九號

明治二十三年四月達第百四十五號備人規則第二條ヲ削除ス

明治二十四年一月二十七日

海軍大臣子爵樺山資紀

○海軍省達第十號

明治二十二年八月達第三百九號ニ左ノ一項ヲ加フ

明治二十四年一月二十七日

海軍大臣子爵樺山資紀

○陸軍省達第三號

明治二十三年五月陸軍第八十九號陸軍里程表中左ノ通改正ス

明治二十四年一月二十九日

陸軍大臣伯爵大山 巖

一久留米原田間汽車路一鎖ヲ増ス
一久留米福岡間汽車路四鎖ヲ減ス

○海軍省達第十一號

海軍水路誌供給規則ヲ廢シ水路圖誌供給規則左ノ通定ム

明治二十四年一月三十一日

海軍大臣子爵樺山資紀

水路圖誌供給規則

第一條 水路圖誌ハ左ノ種類トス

海圖、海風及海流圖、世界全圖、水路誌、水路誌追補、水路告示、水路報道、巡洋報告、航海曆、航泊日誌、航海原、東洋燈臺表、其他航海ニ必要ノ圖誌類

第二條 北緯二十二度ヨリ同五十六度ニ至リ東經百十三度ヨリ同百六十度ニ至ル區域内ノ諸海圖

ヲ第一區域海圖トシ此區域外ノ諸海圖ヲ第二區域海圖トス

第三條 水路圖誌ハ各鎮守府之ヲ水路部ヨリ受取り其所轄艦船其他へ供給スルモノトス

第四條 水路圖誌ハ左ノ區別ニ據リ艦船其他へ供給スルモノトス但海圖ハ海軍海圖ヲ以テ之ニ充

ツヘシト雖モ其海軍海圖ナキ場所ハ英國海軍海圖ヲ以テ之ヲ補フ

一 在役ノ艦船ニハ第一區域海圖二部ヲ能ハサル者ハ一部及其水路誌一部海風及海流圖一部世界全圖一葉

但常備艦隊ノ旗艦ニハ本項外ニ太平洋全圖及印度洋全圖各一葉ヲ増加シ○地方ノ區域ヲ

限レル練習艦ニハ其區域内、聚留ノ艦船ニハ其港ノ海圖水路誌ノミヲ給シテ其他ヲ總テ

減省ス

二 豫備艦ニ備フヘキ圖誌ハ前項ニ據リ其艦數ニ應スルモノヲ所轄鎮守府ニ保管シ置クモノ

トス

但第九條ニ據リ新版改版若クハ大改正ノ圖ヲ水路部ヨリ受領シタルトキハ之ヲ補換シ又水路告示ニ據リ補正注記ヲ要スル者アルトキハ主管者直チニ之ヲ施シ以テ不時ノ供用ニ差支ナカラムヘシ

三 艦船第一區域外ニ航行スルトキハ其所要ノ圖誌ヲ一時貸與ス

四 水雷隊敷設部、攻撃部及水雷艇ニハ各所屬防禦管區ニ必要ナル海圖一部

五 航海曆ハ毎年航行ノ役務ニ服スル艦船ニ總テ二部ツ、緊留ノ艦船ニハ總テ一部ツ、ヲ給ス又少尉候補生ニハ實地練習ノ爲メ初メテ乘艦スルトキニ限リ二名ニ一冊ツ、ヲ貸與ス

六 航泊日誌ハ毎年各艦ニ甲板日誌二冊原稿及淨書日誌各四冊

七 東洋燈臺表ハ航行ノ役務ニ服スル艦船ニノミ毎年一部ツ、ヲ給ス

八 水路誌追補ヲ始メ其他臨時刊行ノ誌類ハ總テ各艦及口所要ノ各廳ヘ一部

但水路誌追補ハ其記事ニ據リ二部ヲ給スルコトアリ

第五條 各鎮守府ニハ不時ノ用ニ應セン爲メ第四條ニ掲クル外第二區域海圖各一葉及第一區域海圖ノ内須要ノ者各若干葉ヲ備ヘ置クヘシ

第六條 各鎮守府ハ毎年其所要圖誌ノ數量^{新經ニ整備スヘ}ヲ豫定シ年度ノ初メ之ヲ水路部ニ要求スルモノトス

第七條 各廳ニ於テ水路圖誌ヲ要スルトキハ地方ニ在テハ鎮守府東京ニ在テハ水路部ヨリ給與若クハ貸與スヘシ

第八條 艦船本管鎮守府管區外ニ在テ水路圖誌ヲ要スルトキハ最近ノ鎮守府ニ請求スルコトヲ得ヘシ

第九條 新版改版若クハ大改正ノ海圖アルトキハ隨時水路部ヨリ鎮守府ニ送付スルモノトス

但水路告示ニ依リ小改正ヲ要スル者ハ總テ第四條第二項但書ニ據ル

○海軍省達第十二號

備人規則第三條職名中監護ノ部使役ノ目的及定限欄内水路部ノ下ニ新原探炭所ヲ加フ

明治二十四年二月二日

海軍大臣子爵樺山資紀

○陸達第四號

明治二十一年十一月十一日陸達第二百一十一號本省並陸軍諸官衙吏關番以下定員表中陸軍大學校小使ノ區畫六ヲ五ニ改メ小使取締ノ區畫ニ一ヲ設ク

明治二十四年二月七日

陸軍大臣伯爵大山 巖

○陸達第五號

七珊瑚野山砲表尺ノ挿鉸中螺桿把耳ヲ一體ノ鋼製ニ修正ス

但既製ノ分ハ各所管兵器費定額内ヲ以テ漸次改正スルモノトス

陸軍大臣伯爵大山 巖

○陸達第六號

明治二十三年五月陸達第八十九號陸軍里程表中別紙ノ通改正ス

明治二十四年二月七日

陸軍大臣伯爵大山 巖

○海軍省達第十三號

常備艦隊軍艦浪速第二檢査施行ニ付常備艦隊ヲ除カル

明治二十四年二月七日

海軍大臣子爵樺山資紀

○海軍省達第十四號

海軍下士服役條例ニ依リ造兵廠 水路部在籍ノ技工ヲ豫備役ニ編入シ又ハ技工ノ兵役ヲ免スルハ該廠部長ニ於テ施行シ兵籍ハ横須賀鎮守府海兵團ニ移スヘシ

明治二十四年二月 達 海軍省第十二號 第十三號 第十四號 陸軍省陸達第四號 陸達第五號 陸達第六號 九

明治二十四年二月七日

○海軍省達第十五號

明治二十三年七月達第二百六十八號ヲ廢ス

明治二十四年二月七日

(參照) 海軍省達第二百六十八號明治二十三年七月二十四日)

○海軍省達第十六號

海軍准士官下士増俸規則中左ノ通改正ス

明治二十四年二月七日

海軍大臣子爵樺山資紀

第四條 准士官ノ増俸ハ毎年五月十一月ニ於テ所管長官海軍大臣ニ具申スヘシ

第五條 下士ノ増俸ハ毎年六月十二月ニ於テ所管長官專行スヘシ

第十一條ヲ第六條トシ同條中「刑罰」ヲ「處刑」ト改ム

○陸軍省達第七號

明治二十四年陸軍大學校入學始審並ニ再審検査課目別表ノ通定ム

明治二十四年二月十二日

陸軍大臣伯爵大山 巖

砲兵科	野戰砲典 野外要務令草案 野外要務令草案	砲兵科	野戰砲典 野外要務令草案 野外要務令草案
工兵科	歩兵操典 野外要務令草案	工兵科	歩兵操典 野外要務令草案
騎兵科	野外要務令草案	騎兵科	野外要務令草案
衛生科	野外要務令草案	衛生科	野外要務令草案

明治二十四年陸軍大學校入學始審並ニ再審検査課目表

備	外國	算		地理		工兵		砲兵		砲兵科	砲兵科
		何	種	何	種	何	種	何	種		
始審検査方法 (一) 始審検査ハ候補者平常ノ學力如何ヲ檢定スルヲ主旨トス (二) 始審検査ハ候補者ノ各所管ニ於テ其長官又ハ次官ノ監視ヲ以テ之ヲ行フ (三) 問題ハ一種ニ付二箇以上ノ各地共ニ同一ナルヲ要ス故ニ參謀本部ヨリ豫メ検査日割ヲ以テ之ヲ付ス (四) 検査ノ時日ハ (六) 陸軍省達及屯田兵科ニ在テハ歩兵科ト同一ノ検査ヲナス 陸軍省達及屯田兵科ニ在テハ歩兵科ト同一ノ検査ヲナス	法	代	代	代	代	代	代	代	代	代	代
	志願者ノ隨意タルヘシ	代	代	代	代	代	代	代	代	代	代

考

ニ進ス故ニ補選兵科ニ在テハ候
 補名簿ニ其原兵科ヲ記入スヘシ
 (一)検査課目ニ示ス各項ニ就キ筆記ノ問題ヲ與ヘ筆記シテ答解セシム其時間ハ各問題中ニ
 示ス (九)算學ハ主トシテ論理上ノ問題ヲ與フ (十)各所管ニ於テハ當日ノ検査額ハ直チ
 ニ其種類ヲ參照總長ニ進達ス但シ點數ヲ付
 再検査方法 (一)再検査ハ候補者中上ノ活用方如何ヲ檢定スルヲ主旨トス (二)再検査
 査ハ東京陸軍大學校ニ於テ行フ (三)検査課目ニ示ス各項ニ就キ筆記ノ解答又ハ口答ヲナサ
 シム (四)憲兵監軍兵及ヒ屯田兵科ニ於ケル再検査ハ始電検査ノ方法ニ同シ (五)算學ハ
 主トシテ應用ノ問題ヲ與フ

○海軍省達第十七號
 海軍兵學校規則左ノ通定ム

明治二十四年二月十二日

海軍大臣子爵樺山資紀

- 海軍兵學校規則
- 第一條 本校ノ紀律ハ専ラ艦内ノ例ニ準據ス
- 第二條 生徒ハ志願者中ノ及第者ヨリ選拔シ海軍大臣ノ認許ヲ得テ兵學校長之ヲ命ス
- 第三條 生徒ヲ命セラレタル者ハ海軍ニ從事シ決シテ他志ナキヲ誓約セシム
- 第四條 生徒ハ入校ノ日ヨリ修學及ヒ被服糧食等ノ費用ハ悉皆官費トス
- 第五條 生徒ハ分隊ニ編制シ各分隊中ニ名ヲ選拔シテ其部長部長補トス
- 第六條 生徒ノ學期ハ四期則チ四箇年トス而シテ其一期ハ毎年一月十日ニ始マリ翌年一月九日ニ
 終ルモノトス
- 第七條 每年七月二十一日ヨリ九月十日マテヲ夏季休業トシ十二月二十一日ヨリ翌年一月九日マテヲ冬
 季休業トス
- 第七條 將校生徒ノ學科ハ砲術水雷術運用術航海術機關術造船學普通學ノ七科トス
- 第八條 機關生徒ノ學科ハ機關術造船學普通學水雷術砲術ノ六科トス

第九條 生徒ノ學術試驗ハ左ノ三種トス

小試驗
 大試驗

卒業試驗

- 第十條 生徒試驗ノ及第點ハ各科全點數十分ノ五以上トス
- 第十一條 大試驗ニ及第シタル生徒ニハ及第證書ヲ與ヘ卒業試驗ニ及第シタル生徒ニハ卒業證書
 ヲ與フ
- 第十二條 大試驗及卒業試驗ニ落第スルモ前大小試驗ノ成績善良ニシテ卒業ノ目的アル者ハ一學
 期ヲ延ハス但卒業試驗ニ於テハ再試驗ヲ行フコトヲ得
- 第十三條 疾病ニ依リ大試驗及卒業試驗ヲ受クル能ハサル者亦同シ
- 第十四條 前條ノ延期ハ一學期ニ止ムト雖モ自身ノ不攝生ニ依ラサル疾病ニ罹ル者或ハ學術志操
 又ハ品行殊ニ優等ナル者ハ特別ノ詮議ニ附スルコトアルヘシ
- 第十五條 定期ノ課程ヲ終リタル者大試驗及卒業試驗ニ際シ疾病ニ依リ試驗ヲ受クル能ハサルト
 キハ臨時試驗ヲ行フコトアルヘシ
- 第十六條 校長ハ生徒ノ教育ニ關シ詮議ヲ要スルコトアルトキハ其時々高等武文官中ヨリ指名シ
 テ職員ヲ組織シ校長議長トナリ會議ヲ開キ審議決定スヘシ
- 第十七條 校長ハ條例第九條第一項第二項ニ該ルト認ムル者アルトキハ會議ヲ開キ審議ノ上海軍
 大臣ニ具申シ其第三項ニ該ル者ハ直ニ海軍大臣ニ具申スヘシ
- 第十八條 校長ハ每學期及ヒ全學期ノ終ニ於テ會議ヲ開キ各生徒ノ學術志操品行等ノ實況ヲ審議
 シ其優劣ヲ議決シ席次ヲ定ムヘシ
- 第十九條 校長ハ大試驗卒業試驗ノ成績表ヲ製シ之ニ意見ヲ附シ海軍大臣ニ出スヘシ

第十九條 校長ハ毎學期教育ニ關スル要件ヲ詳記シ之ヲ海軍大臣ニ報告スヘシ

第二十條 校長ハ夏季冬季休業中生徒ニ外宿ヲ命スルコトヲ得

第二十一條 次長ハ諸般ノ報告ヲ受領シ又校長ヨリ特ニ委任ノ校務ハ調理シテ然ル後其狀況ヲ校長ニ具申スヘシ

第二十二條 次長ハ准士官下士卒ニ關シテハ艦長同一ノ職務ヲ執行スルモノトス

第二十三條 副官ハ校長ノ處分ニ係ル祕密文書ノ授受官印ノ監守ヲ掌ルヘシ

第二十四條 教頭ハ學術上ノ得失ヲ考察シ意見アルトキハ之ヲ校長ニ具申スヘシ

第二十五條 教頭ハ各教官ヨリ出ス所ノ試験成績表ニ意見ヲ附シ校長ニ出スヘシ

第二十六條 教官ハ教場ニ在テハ生徒ヲシテ紀律ヲ守ラシメ容儀ヲ保タシムヘシ

第二十七條 教官ハ試験ヲ行ハタルトキハ其成績表ヲ製シ之ニ意見ヲ附シ教頭ニ出スヘシ

第二十八條 教官ハ每學期ノ終ニ生徒ノ考科表ヲ製シ教頭ニ出スヘシ

第二十九條 監事長ハ生徒各分隊ヲ統率シ生徒ノ德育體育ヲ掌リ其容儀品行ヲ監スヘシ

第三十條 監事長ハ准士官下士卒ニ關シテハ副長同一ノ職務ヲ執行スルモノトス

第三十一條 專務監事ハ監事長ニ屬シ校內ノ整頓及紀律警察ノ事ヲ補助シ其他監事長ノ命スル事務ニ服スヘシ

第三十二條 專務監事ハ下士卒ニ關シテハ分隊長同一ノ職務ヲ執行スルモノトス

第三十三條 監事ハ生徒分隊ノ長ト爲リ部下生徒ノ品行ヲ監シ之ヲ誘掖シテ紀律ヲ守ラシメ軍人ノ志操ヲ養成スルヲ任トスヘシ

第三十四條 監事ハ每學期ノ終ニ部下生徒ノ考科表ヲ製シ監事長ニ出スヘシ

第三十五條 監事ハ專務及機關官ノ外交番ニ校內當直士官ノ勤務ニ從事スヘシ

第三十六條 監事軍醫官主計官若干人ヲ以テ被服糧食委員ト爲シ生徒ノ被服糧食ニ關スル事ヲ掌

ラシム

第三十七條 機關衛教官ノ内一人ヲ以テ水雷掛ト爲シ教授用魚形水雷機關及其屬具ノ整頓保存ノ事ヲ掌ラシム

第三十八條 教員ハ教官ノ指揮ヲ受ケ授業ニ從事スヘシ

第三十九條 本校ノ事務ハ副官職務砲術水雷運用航海機關造船造機普通學監事軍醫主計ノ十三部ニ分擔セシム

第四十條 各部ニ屬スル書籍圖書器具機械物品及其格納所陸上教場等ハ各部ニ於テ管理スヘシ

○海軍省達第十八號

明治二十三年二月二十五號艦隊尉官勤務日誌野紙別紙ノ通定△(別紙略ス)

○海軍省達第十九號

明治二十四年二月十二日 海軍大臣子爵樺山資紀

糧食經理規程中左ノ通改正追加ス

明治二十四年二月十二日 海軍大臣子爵樺山資紀

糧食經理規程第一條第一項ヲ左ノ通改正ス

海軍糧食條例第一條ニ依リ給スル糧食毎日ノ量額及品種ハ第一表ニ依ルヘシ但第一表中ニ掲クル茶焙麥類以下ノ糧食品ハ該表ノ量額ヲ最上限トシ適宜之ヲ給スルモノトス

第二條刪除

第六條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第六條乙 患者ノ病狀又ハ其他ノ事故ニ依リ軍醫官ニ於テ規定ノ量額若クハ品種ヲ給スルノ必要ナシト認メタルトキハ適宜其量額若クハ品種ヲ減スルコトヲ得

第二十三條中「食卓掛」ノ下ニ「生徒糧食委員」ヲ加フ

第三十六條第二項中「處分ヲ爲スヘシ」ノ下ニ「但本條ニ依リ處分ヲ爲シタルトキハ其願末ヲ届出ツヘシ」ヲ加フ

○陸軍第八號

屯田兵配備表別紙ノ適改メラル

明治二十四年二月十四日

陸軍大臣伯爵大山 巖

(印ハ未付)

屯田兵配備表

兵種	隊號	配區地名	第一大隊			第二大隊			第三大隊			第四大隊		
			禮	中	空	禮	中	空	禮	中	空	禮	中	空
歩	第一	禮	五	中	四	四	四	四	四	四	四	四	四	
騎	第一	禮	四	中	四	四	四	四	四	四	四	四	四	
砲	第一	禮	四	中	四	四	四	四	四	四	四	四	四	
工	第一	禮	四	中	四	四	四	四	四	四	四	四	四	

○陸軍第九號

陸軍省陸軍第九號

理事理事試補服裝規則左ノ通定

明治二十四年二月十四日

理事理事試補服裝規則

第一條 正装ハ左ニ列記スルモノヲ著裝ス

一 第一種帽

二 衣

三 袴

四 肩章

五 劔

六 正緒

七 軍裝ハ左ニ列記スルモノヲ著裝ス

一 第二種帽

二 衣

三 袴

四 劔

五 略帶

六 略緒

第三條 禮装ハ第二種帽ヲ用フル外總テ正装ニ同シ

第四條 通常禮装ハ肩章ヲ附セサル外總テ禮装ニ同シ

明治二十四年二月 陸軍省陸軍第九號

陸軍大臣伯爵大山 巖

第五條 正裝ハ儀式祭典其他文官大禮服用ノ場合ニ之ヲ著裝ス

第六條 軍裝ハ從軍及ヒ演習並ニ軍法會議ニ列スルトキ之ヲ著裝ス但平常勤務其他ノ公私事ニモ之ヲ著用スルコトヲ得

第七條 禮裝ハ任官叙位叙勳又ハ宮中ニ於テ御宴ニ陪シ其他文官燕尾服ヲ著用スル場合ニ之ヲ著裝ス但親族ノ賀儀葬祭ニモ之ヲ著用スルコトヲ得

第八條 通常禮裝ハ 行幸行啓ノ場所ニ參集シ任官叙位叙勳等御禮ノ爲メ參内シ若クハ補職等ノ辭令書ヲ受クルトキ其他文官フロックコート著用ノ場合ニ之ヲ著裝ス但一般ノ賀儀葬祭ニモ之ヲ著用スルコトヲ得

第九條 正裝ヲ著裝スル場合ニハ短靴ヲ穿ツヘシ

第十條 何レノ服裝ヲ問ハス手套ハ白色革製下襟ハ白布製ノ立襟ヲ用フヘシ

第十一條 從軍又ハ演習ノトキ乘馬ニハ長靴ヲ穿テ徒步ニハ短靴ヲ穿テ脚絆ヲ著スヘシ其他ノ場合ニ在テハ短靴又ハ長靴ヲ穿テ或ハ脚絆ヲ著シ又ハ著セサル等各自ノ便宜ニ委ス

第十二條 夏袴ハ炎暑ノ際六月一日ヨリ正裝ヲ著用スル場合ヲ除キ何レノ服裝ニモ之ヲ著用スルコトヲ得但室内ニ於テ儀式ニ列スルトキハ之ヲ著用スルコトヲ得ス

第十三條 外套ハ何レノ服裝ヲ問ハス雨雪天ノ時又ハ防寒ノ爲メ室外ニ於テ之ヲ著用スルモノトス但軍裝ニ在テハ儀式ノ場所及ヒ上官ノ居室內ヲ除クノ外防寒ノ爲メ室内ニ於テモ之ヲ著用スルコトヲ得

第十四條 雨覆ハ外套ノ上ニ著用スルモノトス但時宜ニ依リ雨覆ノミヲ著用スルコトヲ得

第十五條 日覆ハ炎暑ノ際軍裝著用ノ場合ニ之ヲ用フルモノトス

第十六條 勳章及記章ハ何レノ服裝ニモ之ヲ佩用スルモノトス但軍裝著用ノ時ニハ場合ニ依リ之ヲ佩用セサルコトヲ得

第十七條 劔ハ衣ノ上ニ劔帶ヲ締メテ之ヲ佩用ス正統略緒ハ劔ニ附著ス

第十八條 長靴ヲ穿ツトキハ袴ヲ短袴製ニ調製シテ著用スルコトヲ得

第十九條 何レノ服裝ヲ問ハス短靴ハ必ス之ヲ袴下ニ穿テ又乘馬ニハ短靴長靴共ニ拍車ヲ附シ短靴ヲ穿ツトキハ留革ヲ用フヘシ

第二十條 脚絆靴及ヒ拍車ノ製式ハ將校所用ノモノニ同シ

○陸軍第十號

近衛工兵大隊増設著手順序表中二十六年増設員「二等軍曹」三「四」ニ上等兵「一七」ヲ「二六」ニ「二七」年並完成ノ兩區畫中「二等軍曹」一〇「一」ニ上等兵「三三」ヲ「三二」ニ又木工ヲ木工長(下長)ニ「鍛工」ヲ鍛工長(下長)ニ改正セラル

明治二十四年二月十八日 陸軍大臣伯爵大山 巖

○陸軍第十一號

明治二十一年四月陸軍第七十七號平時輜重兵一大隊駄鞍及屬品定數表別紙ノ通改正ス (別紙略)

明治二十四年二月二十一日 陸軍大臣伯爵大山 巖

○海軍省第二十號

海軍練習工概則ヲ廢シ木工練習生鍛冶練習生規則左ノ通定ス

明治二十四年二月二十一日 海軍大臣子爵樺山資紀

木工練習生鍛冶練習生規則

第一條 木工練習生ハ造船工學校ニ通學セシメ實業ハ造船部及水雷術練習艦ニ派遣シ練習セシム

鍛冶練習生ハ長浦兵器部工場ニ派遣シ練習セシム

第二條 木工練習生ハ一等木工二等木工鍛冶練習生ハ一等鍛冶二等鍛冶ニシテ練習生志願ノ者ニ

就キ採用ス

第三條 練習生ト爲スヘキ木工鍛冶ハ左ノ諸項ニ適合ノ者タル可シ

第一 年齢三十五年以下ノ者

第二 品行善良ニシテ技能アリ木工ハ船匠手タルニ堪ヘ鍛冶ハ鍛冶手タルニ堪フヘキ者

第三 二等木工二等鍛冶ハ卒業後四箇年以上一等木工一等鍛冶ハ卒業後三箇年以上服役スヘキ者

第四 處刑及賭博犯ノ處分ヲ受ケサル者

第四條 練習生ニ採用スヘキ人員ハ其須要ニ應ジ鎮守府ニトニ之ヲ定メ採用期限ハ横須賀鎮守府ニ於テ之ヲ定ム

第五條 練習生採用ノ達アリタルトキ艦隊校廳長ハ志願者ヲシテ出願セシメ第三條ニ適合スル者ヲ調査シ其職氏名ヲ其者所管ノ司令長官ニ進達スヘシ

第六條 各鎮守府司令長官前條ノ進達書ヲ受ケタルトキハ所要ノ人員ヲ定メ艦隊校廳長ヲシテ練習生ヲ命ジ期日以内ニ入營セシム可シ

第七條 練習生ノ學期ハ十八箇月トス

第八條 木工練習生ノ學科目ハ左ノ如シ

物理學	總論機械空氣水熱ノ大意
算學	平算應用實地算法
圖學	實用幾何學立體見取圖及製圖
造船學	木船鐵船ノ構造及保護法ノ大意及端船構造法ノ大意
實業	木工術、造船術、潜水術、木樽假製水雷裝備法、城壕術、檢裝術
別科	
學科	
文	漢字交り文
書	日本小史

木工術、造船術、城壕術、檢裝術及潜水術ハ造船部ニ於テ修學セシメ木樽假製水雷裝備法ハ水雷術練習艦ニ於テ修學セシム

第九條 鍛冶練習生ノ學科目ハ左ノ如シ

本	科	目
工	業	砲銃ノ保護及着色法 炭素法 機關砲ノ小修理 照尺ノ目盛法 小銃表尺ノ遊動製造法 火門 火門針ノ調整等ノ製造法 抑氣具及水壓器用鋼ノ摺合法 鍛鋼材ノ鍛造法 鋼材ノ淬硬法大意
器	械	金剛ノ作用 木材類ノ重量及強度大意 槓桿ノ作用
砲	工	銃砲及砲架ノ機關部構造大意 水壓防衝器ノ取扱及注意 銃砲及砲架ノ附屬品用途 附屬品用途ノ調理法

圖	學	見取圖 製圖 實用幾何大意
數	學	實業應用
冊	科	漢字交り文
作	文	簡易物理書ノ類
圖	書	砲銃換法大意
武	科	

本科中工業ハ十二箇月器械學、砲工術、圖學ハ各二箇月ヲ以テ修業期ト爲ス

別科ハ本科修業期ニ適宜分配シテ教授ス

第十條 試驗ハ小試驗及大試驗ノ二種トス

第十一條 小試驗ハ一學科ノ終リニ之ヲ行ヒ大試驗ハ學期ノ最終ニ之ヲ行フ

第十二條 大試驗小試驗ノ點數ハ本科ニ在テハ各科全點數十分五以上トシ別科ニ在テハ各科全點數十分四以上トス

第十三條 大試驗ノ成績ハ全科小試驗平均ノ得點ト大試驗得點トヲ合算シテ之ヲ定ム

第十四條 練習生ニ與フヘキ卒業證書ハ一等卒業證書ニ等卒業證書ノ二種トス

第十五條 大試驗ニ於テ全點數十分ノ七以上ヲ得タル者ニハ一等卒業證書ヲ授與シ十分ノ五以上ヲ得タル者ニハ二等卒業證書ヲ授與ス

第十六條 大試驗ニ落第シタル者ハ若干日ノ復習ヲ爲サシメ再試驗ヲ行フコトヲ得而シテ及第ノ者ニハ二等卒業證書ヲ授與ス

第十七條 大試驗若クハ其再試驗ニ落第シタル練習生及修業中傷病疾病若クハ怠慢ニシテ卒業ノ目途ナキ者又ハ處罰ヲ受ケ改悛ノ狀ナキ者ハ横須賀鎮守府海兵團長練習生ヲ免シ軍港司令官ヲ

經由司令長官ニ届出ツ可シ他國在籍ノ者ナルトキハ本籍海兵團ニ送附シ之ヲ該團長ニ通知ス可シ該團長ハ各其所屬軍港司令官ヲ經由司令長官ニ届出ツ可シ

○海軍省達第二十一號
五等木工五等鍛冶教育規則中左ノ通改正ス
明治二十四年二月二十一日
第三條 五等木工ノ學期ハ十二箇月トス其學科ハ左ノ如シ
海軍大臣子爵樺山資紀

學	科	船工	艦船機件各部名稱及其附屬具名稱 專用木材ノ性質及其適用ノ大略 用具ノ使用及其修理方 器具ノ製造及其修理方 補綴機件ノ製造及其修理方 城障方 砲臺方 各種砲筒使用方 潜水器使用及貯水方 見取圖 實用幾何(簡易)
圖	學	銃隊操式生兵第一等 確行演習 船刀換法、船槍換法、拳銃操法	
武	科		
學	科	別科	
圖	書	日本志略 兵要日本地理小誌	
算	術	四則ヨリ比例メテ	

實業科目中用具ノ使用及其修理方ノ項ニ於テ木削方及木挽方ノ熟練ヲ要ス
第四條 五等鍛冶ノ學期ハ十八箇月トス其學科ハ左ノ如シ

本	科	目
工	業	鍛冶ノ工及銅工器具用法 鋼材ノ鍛冶及滓硬法 白鐵及真鍮ノ調合及用法 小銃拳銃ノ小修理法
取	扱	小銃拳銃及機關銃ノ名稱及用法 砲架ノ分解及組合法 水壓起重器ノ取扱及掃除法 見取圖 製圖大意
圖	學	實用幾何大意
武	科	銃隊操式生兵第一部第一章 操行演習 船刀操法、船槍操法、拳銃操法
別	科	
學	科	日
讀	書	日本志略 兵要日本地理小誌
算	術	四則ヨリ比例マテ

第六條 小試験ハ學期中適宜ノ時期ヲ定メ之ヲ行ヒ大試験ハ全學期ノ終ニ之ヲ行フモノトス
第十二條 學術ノ進歩ニ從ヒ其成績ヲ考ヘ學期內ト雖モ卒業セシムルコトヲ得
海軍軍醫學校生徒及軍醫ヲ置サル東京各廳ニ勤務ノ下士卒疾病ニ罹ルトキハ海軍大學校軍醫官ニ

於テ施療及體重秤量ヲ擔當ス可シ

明治二十四年二月二十一日

○海軍省達第二十三號

自今兵器ノ運搬ハ鎮守府兵器部及造兵廠ノ負擔トス

明治二十四年二月二十一日

○海軍省達第二十四號

卒業證書適任證書ヲ紛失シ又ハ燒失セシ者ハ其理由ヲ授與セシ所ノ艦團校長ニ届出テ該長ハ之ヲ調査シ更ニ證明書ヲ下附シ證書ト同一ノ効力ヲ有セシム

明治二十四年二月二十一日

○海軍省達第二十五號

被服經理規程中左ノ通改正追加ス

明治二十四年二月二十一日

第十一條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第十一條乙 難破船乗組ノ者又ハ漂流人ヲ救助シ若クハ俘虜ヲ監禁シ若クハ軍隊ニテ俘虜ヲ

護衛スル場合ニ於テ被服物品ヲ給スルノ必要アルトキ其際尙使用ニ堪フル古被服物品アレ

ハ適宜之ヲ給シ之レナケレハ適宜新調品ヲ給ス但本條ニ依リ給シタル被服物品ノ不用トナ

ルトキハ還納セシムルモノトス

第一表中官名ノ欄内「一等兵曹」ノ次ニ「二等信號手」ヲ加ヘ「三等兵曹」ノ次ニ「三等信號手」ヲ加ヘ「水

兵」ノ次ニ「信號兵」ヲ加ヘ「襟飾」ノ下地質製式ノ欄内「二尺二寸」ヲ「二尺一寸五分」ト改メ「毛布」ノ下地

質製式ノ欄内「百三十目以上」ノ下ニ「ニシテ一隅ニ鋪一箇ヲ染出ス」ヲ加フ

第一表附屬被服裁斷入尺表中著ノ欄紺小倉ノ下「四二」ヲ「三五」ト改メ雨衣ノ欄ヲ左ノ通改

明治二十四年二月 海軍省第二十三號 第二十四號 第二十五號

海軍大臣子爵樺山資紀

海軍大臣子爵樺山資紀

海軍大臣子爵樺山資紀

海軍大臣子爵樺山資紀

備考中「一等兵曹」ヲ次ニ「一等信號手」ヲ加ヘ「二等兵曹」ノ次ニ「二等信號手」ヲ加ヘ「三等兵曹」ノ次ニ「三等信號手」ヲ加ヘ「水兵」ノ次ニ「信號兵」ヲ加フ
圖中シヤツノ圖及麻襟ノ圖ヲ左ノ通改ム
(雨衣欄及圖略ス)

○海軍省達第二十六號
千島定員職別表ノ通定ム

明治二十四年二月二十一日
(別表)

海軍大臣子爵樺山資紀

千島定員職別表

官名	職名	人員	官名	職名	人員	官名	職名	人員
少尉	航海隊長	一	一等船匠手	砲水雷長	一	一等水兵	一等水兵	六
大尉	航海隊長	一	二等船匠手	砲水雷長	一	二等水兵	二等水兵	八
少佐	艦長	一	三等船匠手	砲水雷長	一	三等水兵	三等水兵	十
			四等船匠手	砲水雷長	一	四等水兵	四等水兵	三
			五等船匠手	砲水雷長	一	五等水兵	五等水兵	二
			六等船匠手	砲水雷長	一	六等水兵	六等水兵	一
			七等船匠手	砲水雷長	一	七等水兵	七等水兵	一
			八等船匠手	砲水雷長	一	八等水兵	八等水兵	一
			九等船匠手	砲水雷長	一	九等水兵	九等水兵	一
			十等船匠手	砲水雷長	一	十等水兵	十等水兵	一
			十一等船匠手	砲水雷長	一	十一等水兵	十一等水兵	一
			十二等船匠手	砲水雷長	一	十二等水兵	十二等水兵	一
			十三等船匠手	砲水雷長	一	十三等水兵	十三等水兵	一
			十四等船匠手	砲水雷長	一	十四等水兵	十四等水兵	一
			十五等船匠手	砲水雷長	一	十五等水兵	十五等水兵	一
			十六等船匠手	砲水雷長	一	十六等水兵	十六等水兵	一
			十七等船匠手	砲水雷長	一	十七等水兵	十七等水兵	一
			十八等船匠手	砲水雷長	一	十八等水兵	十八等水兵	一
			十九等船匠手	砲水雷長	一	十九等水兵	十九等水兵	一
			二十等船匠手	砲水雷長	一	二十等水兵	二十等水兵	一
			二十一等船匠手	砲水雷長	一	二十一等水兵	二十一等水兵	一
			二十二等船匠手	砲水雷長	一	二十二等水兵	二十二等水兵	一
			二十三等船匠手	砲水雷長	一	二十三等水兵	二十三等水兵	一
			二十四等船匠手	砲水雷長	一	二十四等水兵	二十四等水兵	一
			二十五等船匠手	砲水雷長	一	二十五等水兵	二十五等水兵	一
			二十六等船匠手	砲水雷長	一	二十六等水兵	二十六等水兵	一
			二十七等船匠手	砲水雷長	一	二十七等水兵	二十七等水兵	一
			二十八等船匠手	砲水雷長	一	二十八等水兵	二十八等水兵	一
			二十九等船匠手	砲水雷長	一	二十九等水兵	二十九等水兵	一
			三十等船匠手	砲水雷長	一	三十等水兵	三十等水兵	一
			三十一等船匠手	砲水雷長	一	三十一等水兵	三十一等水兵	一
			三十二等船匠手	砲水雷長	一	三十二等水兵	三十二等水兵	一
			三十三等船匠手	砲水雷長	一	三十三等水兵	三十三等水兵	一
			三十四等船匠手	砲水雷長	一	三十四等水兵	三十四等水兵	一
			三十五等船匠手	砲水雷長	一	三十五等水兵	三十五等水兵	一
			三十六等船匠手	砲水雷長	一	三十六等水兵	三十六等水兵	一
			三十七等船匠手	砲水雷長	一	三十七等水兵	三十七等水兵	一
			三十八等船匠手	砲水雷長	一	三十八等水兵	三十八等水兵	一
			三十九等船匠手	砲水雷長	一	三十九等水兵	三十九等水兵	一
			四十等船匠手	砲水雷長	一	四十等水兵	四十等水兵	一
			四十一等船匠手	砲水雷長	一	四十一等水兵	四十一等水兵	一
			四十二等船匠手	砲水雷長	一	四十二等水兵	四十二等水兵	一
			四十三等船匠手	砲水雷長	一	四十三等水兵	四十三等水兵	一
			四十四等船匠手	砲水雷長	一	四十四等水兵	四十四等水兵	一
			四十五等船匠手	砲水雷長	一	四十五等水兵	四十五等水兵	一
			四十六等船匠手	砲水雷長	一	四十六等水兵	四十六等水兵	一
			四十七等船匠手	砲水雷長	一	四十七等水兵	四十七等水兵	一
			四十八等船匠手	砲水雷長	一	四十八等水兵	四十八等水兵	一
			四十九等船匠手	砲水雷長	一	四十九等水兵	四十九等水兵	一
			五十等船匠手	砲水雷長	一	五十等水兵	五十等水兵	一

○海軍省達第二十七號

明治二十三年七月達第二百六十四號海軍軍人傷痍疾病恩給等差例中第四條ヲ削除ス

明治二十四年二月二十四日

海軍大臣子爵樺山資紀

○陸達第十二號

自今看守長看守卒ノ佩用スヘキ刀ハ眞鍮鑄軍刀(下)ニ改ム

明治二十四年二月二十七日

陸軍大臣伯爵大山 巖

大機關士	大機關士	大機關士	大機關士	大機關士	大機關士	大機關士	大機關士	大機關士	大機關士
機關長	機關長	機關長	機關長	機關長	機關長	機關長	機關長	機關長	機關長
一等主飯	一等主飯	一等主飯	一等主飯	一等主飯	一等主飯	一等主飯	一等主飯	一等主飯	一等主飯
二等機關手	二等機關手	二等機關手	二等機關手	二等機關手	二等機關手	二等機關手	二等機關手	二等機關手	二等機關手
三等機關手	三等機關手	三等機關手	三等機關手	三等機關手	三等機關手	三等機關手	三等機關手	三等機關手	三等機關手
四等機關手	四等機關手	四等機關手	四等機關手	四等機關手	四等機關手	四等機關手	四等機關手	四等機關手	四等機關手
五等機關手	五等機關手	五等機關手	五等機關手	五等機關手	五等機關手	五等機關手	五等機關手	五等機關手	五等機關手
六等機關手	六等機關手	六等機關手	六等機關手	六等機關手	六等機關手	六等機關手	六等機關手	六等機關手	六等機關手
七等機關手	七等機關手	七等機關手	七等機關手	七等機關手	七等機關手	七等機關手	七等機關手	七等機關手	七等機關手
八等機關手	八等機關手	八等機關手	八等機關手	八等機關手	八等機關手	八等機關手	八等機關手	八等機關手	八等機關手
九等機關手	九等機關手	九等機關手	九等機關手	九等機關手	九等機關手	九等機關手	九等機關手	九等機關手	九等機關手
十等機關手	十等機關手	十等機關手	十等機關手	十等機關手	十等機關手	十等機關手	十等機關手	十等機關手	十等機關手
十一等機關手	十一等機關手	十一等機關手	十一等機關手	十一等機關手	十一等機關手	十一等機關手	十一等機關手	十一等機關手	十一等機關手
十二等機關手	十二等機關手	十二等機關手	十二等機關手	十二等機關手	十二等機關手	十二等機關手	十二等機關手	十二等機關手	十二等機關手
十三等機關手	十三等機關手	十三等機關手	十三等機關手	十三等機關手	十三等機關手	十三等機關手	十三等機關手	十三等機關手	十三等機關手
十四等機關手	十四等機關手	十四等機關手	十四等機關手	十四等機關手	十四等機關手	十四等機關手	十四等機關手	十四等機關手	十四等機關手
十五等機關手	十五等機關手	十五等機關手	十五等機關手	十五等機關手	十五等機關手	十五等機關手	十五等機關手	十五等機關手	十五等機關手
十六等機關手	十六等機關手	十六等機關手	十六等機關手	十六等機關手	十六等機關手	十六等機關手	十六等機關手	十六等機關手	十六等機關手
十七等機關手	十七等機關手	十七等機關手	十七等機關手	十七等機關手	十七等機關手	十七等機關手	十七等機關手	十七等機關手	十七等機關手
十八等機關手	十八等機關手	十八等機關手	十八等機關手	十八等機關手	十八等機關手	十八等機關手	十八等機關手	十八等機關手	十八等機關手
十九等機關手	十九等機關手	十九等機關手	十九等機關手	十九等機關手	十九等機關手	十九等機關手	十九等機關手	十九等機關手	十九等機關手
二十等機關手	二十等機關手	二十等機關手	二十等機關手	二十等機關手	二十等機關手	二十等機關手	二十等機關手	二十等機關手	二十等機關手
二十一等機關手	二十一等機關手	二十一等機關手	二十一等機關手	二十一等機關手	二十一等機關手	二十一等機關手	二十一等機關手	二十一等機關手	二十一等機關手
二十二等機關手	二十二等機關手	二十二等機關手	二十二等機關手	二十二等機關手	二十二等機關手	二十二等機關手	二十二等機關手	二十二等機關手	二十二等機關手
二十三等機關手	二十三等機關手	二十三等機關手	二十三等機關手	二十三等機關手	二十三等機關手	二十三等機關手	二十三等機關手	二十三等機關手	二十三等機關手
二十四等機關手	二十四等機關手	二十四等機關手	二十四等機關手	二十四等機關手	二十四等機關手	二十四等機關手	二十四等機關手	二十四等機關手	二十四等機關手
二十五等機關手	二十五等機關手	二十五等機關手	二十五等機關手	二十五等機關手	二十五等機關手	二十五等機關手	二十五等機關手	二十五等機關手	二十五等機關手
二十六等機關手	二十六等機關手	二十六等機關手	二十六等機關手	二十六等機關手	二十六等機關手	二十六等機關手	二十六等機關手	二十六等機關手	二十六等機關手
二十七等機關手	二十七等機關手	二十七等機關手	二十七等機關手	二十七等機關手	二十七等機關手	二十七等機關手	二十七等機關手	二十七等機關手	二十七等機關手
二十八等機關手	二十八等機關手	二十八等機關手	二十八等機關手	二十八等機關手	二十八等機關手	二十八等機關手	二十八等機關手	二十八等機關手	二十八等機關手
二十九等機關手	二十九等機關手	二十九等機關手	二十九等機關手	二十九等機關手	二十九等機關手	二十九等機關手	二十九等機關手	二十九等機關手	二十九等機關手
三十等機關手	三十等機關手	三十等機關手	三十等機關手	三十等機關手	三十等機關手	三十等機關手	三十等機關手	三十等機關手	三十等機關手

○陸達第十三號
兵器彈藥細目名稱表別冊ノ通定 (別冊略ス)

明治二十四年三月二日

陸軍大臣伯爵大山 巖

○陸達第十四號

自今左ノ諸表廢止ス

陸軍大臣伯爵大山 巖

發令年月	送番號	名稱
十八年五月	送乙第二一五號	東京憲兵隊兵器彈藥平時戰時備附並三隊備定期表 同上一箇年演習用彈藥員數定期表
二十年十月	送乙第三一六 一六三號	步兵一聯隊兵器彈藥備附員數定期表 步兵中隊兵器彈藥備附員數定期表 近衛步兵一聯隊兵器彈藥備附員數定期表 步兵一大隊一箇年射的演習用彈藥支給定期表 近衛步兵一大隊一箇年射的演習用彈藥支給定期表 步兵小演習用空包支給定期表 近衛步兵小演習用空包支給定期表 步兵一大隊會社式吊發用空包備附定期表 近衛步兵一大隊會社式吊發用空包備附定期表 步兵一大隊演習用喇叭備附定期表 近衛步兵一大隊演習用喇叭備附定期表 步兵補充大隊兵器彈藥備附員數定期表 步兵聯隊營內備附銃工器具員數表

明治二十四年三月 送 陸軍省陸達第十三號 陸達第十四號

二十一年十一月	陸軍省陸軍第十四號	狹窄射擊用彈藥並三彈丸鑄型備附員數
二十一年一月	陸軍省陸軍第十四號	七班米野砲一中隊副品彈藥平時及戰時備附員數定則表 七班米山砲一中隊副品彈藥平時及戰時備附員數定則表 工兵一大隊兵器彈藥備附員數定則表 近衛工兵中隊兵器彈藥備附員數定則表 工兵一大隊一箇年演習用彈藥支給定則表 近衛工兵中隊一箇年演習用彈藥支給定則表 工兵小演習用空包支給定則表 近衛工兵中隊一箇年演習用空包支給定則表 工兵一大隊會葬式用發用空包備附定則表 近衛工兵中隊會葬式用發用空包備附定則表 工兵一大隊演習用喇叭備附定則表 近衛工兵中隊演習用喇叭備附定則表
二十一年四月	陸軍省陸軍第十四號	騎兵一大隊射擊演習用彈藥支給表 二通 近衛騎兵一大隊射擊演習用彈藥支給表
二十一年十一月	陸軍省陸軍第十四號	平時騎重兵一大隊兵器彈藥備附員數定則表 平時騎重兵一大隊備附軍鞍馬品定數表 騎重兵一大隊射擊演習用彈藥支給表 騎重兵一大隊演習用兵器備附定則表 騎重兵小演習用空包支給定則表 騎重兵一大隊分會葬式用發用空包備附定則表 騎重兵補充中隊兵器彈藥支給定則表
二十二年二月	陸軍省陸軍第十四號	野戰通信隊工兵下士卒兵器彈藥備附定則表
二十二年四月	陸軍省陸軍第十四號	平時騎兵一大隊兵器彈藥備附員數定則表 騎兵一大隊演習用兵器備附員數定則表 騎兵一大隊會葬式用發用空包備附定則表

二十二年十一月	陸軍省陸軍第十四號	騎兵小演習用空包支給定則表 騎兵補充中隊兵器彈藥備附定則表
二十三年四月	陸軍省陸軍第十四號	七班米野山砲備附定則表 對馬警備隊携帶兵器及彈藥備附假定表 對馬警備隊戰時增加及補充隊用兵器彈藥備附假定表 對馬警備隊一箇年演習用小銃彈藥支給表 對馬警備隊換備兵一箇年演習用小銃彈藥支給表

○海軍省達第二十八號
明治二十二年七月達第二百五十七號掌水雷兵配置表中兵學校欄内「二八」ヲ「四八」ト改ム
明治二十四年三月二日
海軍大臣子爵樺山資紀

○海軍省達第二十九號
明治二十二年十月達第三百九十號監護及傭人服制表中草鞋ノ下記事中「屋内ニ在リテハ」ヲ「廳内ニ在リテハ」ト改ム
明治二十四年三月二日
海軍大臣子爵樺山資紀

○海軍省達第三十號
武藏定員中ヲ減シ其職別表別表ノ通定ム
明治二十四年三月二日
海軍大臣子爵樺山資紀

武藏定員職別表

官名	職名	人員	官名	職名	人員	職名	人員
大佐	艦長	一	上等兵曹	砲術教員	一	一等水兵	十五
			一等兵曹	砲術教員	一		

少佐	大尉	少尉	大機關士	少機關士	大軍醫	少軍醫	大主計	少主計
副長	航海長	航海士	機關長	機關士	軍醫長	軍醫	主計長	主計
一	一	一	二	二	一	一	一	一
二	二	二	三	三	二	二	二	二
三	三	三	四	四	三	三	三	三
四	四	四	五	五	四	四	四	四
五	五	五	六	六	五	五	五	五
六	六	六	七	七	六	六	六	六
七	七	七	八	八	七	七	七	七
八	八	八	九	九	八	八	八	八
九	九	九	十	十	九	九	九	九
十	十	十	十一	十一	十	十	十	十
十一	十一	十一	十二	十二	十一	十一	十一	十一
十二	十二	十二	十三	十三	十二	十二	十二	十二
十三	十三	十三	十四	十四	十三	十三	十三	十三
十四	十四	十四	十五	十五	十四	十四	十四	十四
十五	十五	十五	十六	十六	十五	十五	十五	十五
十六	十六	十六	十七	十七	十六	十六	十六	十六
十七	十七	十七	十八	十八	十七	十七	十七	十七
十八	十八	十八	十九	十九	十八	十八	十八	十八
十九	十九	十九	二十	二十	十九	十九	十九	十九
二十	二十	二十	二十一	二十一	二十	二十	二十	二十
二十一	二十一	二十一	二十二	二十二	二十一	二十一	二十一	二十一
二十二	二十二	二十二	二十三	二十三	二十二	二十二	二十二	二十二
二十三	二十三	二十三	二十四	二十四	二十三	二十三	二十三	二十三
二十四	二十四	二十四	二十五	二十五	二十四	二十四	二十四	二十四
二十五	二十五	二十五	二十六	二十六	二十五	二十五	二十五	二十五
二十六	二十六	二十六	二十七	二十七	二十六	二十六	二十六	二十六
二十七	二十七	二十七	二十八	二十八	二十七	二十七	二十七	二十七
二十八	二十八	二十八	二十九	二十九	二十八	二十八	二十八	二十八
二十九	二十九	二十九	三十	三十	二十九	二十九	二十九	二十九
三十	三十	三十	三十一	三十一	三十	三十	三十	三十
三十一	三十一	三十一	三十二	三十二	三十一	三十一	三十一	三十一
三十二	三十二	三十二	三十三	三十三	三十二	三十二	三十二	三十二
三十三	三十三	三十三	三十四	三十四	三十三	三十三	三十三	三十三
三十四	三十四	三十四	三十五	三十五	三十四	三十四	三十四	三十四
三十五	三十五	三十五	三十六	三十六	三十五	三十五	三十五	三十五
三十六	三十六	三十六	三十七	三十七	三十六	三十六	三十六	三十六
三十七	三十七	三十七	三十八	三十八	三十七	三十七	三十七	三十七
三十八	三十八	三十八	三十九	三十九	三十八	三十八	三十八	三十八
三十九	三十九	三十九	四十	四十	三十九	三十九	三十九	三十九
四十	四十	四十	四十一	四十一	四十	四十	四十	四十
四十一	四十一	四十一	四十二	四十二	四十一	四十一	四十一	四十一
四十二	四十二	四十二	四十三	四十三	四十二	四十二	四十二	四十二
四十三	四十三	四十三	四十四	四十四	四十三	四十三	四十三	四十三
四十四	四十四	四十四	四十五	四十五	四十四	四十四	四十四	四十四
四十五	四十五	四十五	四十六	四十六	四十五	四十五	四十五	四十五
四十六	四十六	四十六	四十七	四十七	四十六	四十六	四十六	四十六
四十七	四十七	四十七	四十八	四十八	四十七	四十七	四十七	四十七
四十八	四十八	四十八	四十九	四十九	四十八	四十八	四十八	四十八
四十九	四十九	四十九	五十	五十	四十九	四十九	四十九	四十九
五十	五十	五十	五十一	五十一	五十	五十	五十	五十
五十一	五十一	五十一	五十二	五十二	五十一	五十一	五十一	五十一
五十二	五十二	五十二	五十三	五十三	五十二	五十二	五十二	五十二
五十三	五十三	五十三	五十四	五十四	五十三	五十三	五十三	五十三
五十四	五十四	五十四	五十五	五十五	五十四	五十四	五十四	五十四
五十五	五十五	五十五	五十六	五十六	五十五	五十五	五十五	五十五
五十六	五十六	五十六	五十七	五十七	五十六	五十六	五十六	五十六
五十七	五十七	五十七	五十八	五十八	五十七	五十七	五十七	五十七
五十八	五十八	五十八	五十九	五十九	五十八	五十八	五十八	五十八
五十九	五十九	五十九	六十	六十	五十九	五十九	五十九	五十九
六十	六十	六十	六十一	六十一	六十	六十	六十	六十
六十一	六十一	六十一	六十二	六十二	六十一	六十一	六十一	六十一
六十二	六十二	六十二	六十三	六十三	六十二	六十二	六十二	六十二
六十三	六十三	六十三	六十四	六十四	六十三	六十三	六十三	六十三
六十四	六十四	六十四	六十五	六十五	六十四	六十四	六十四	六十四
六十五	六十五	六十五	六十六	六十六	六十五	六十五	六十五	六十五
六十六	六十六	六十六	六十七	六十七	六十六	六十六	六十六	六十六
六十七	六十七	六十七	六十八	六十八	六十七	六十七	六十七	六十七
六十八	六十八	六十八	六十九	六十九	六十八	六十八	六十八	六十八
六十九	六十九	六十九	七十	七十	六十九	六十九	六十九	六十九
七十	七十	七十	七十一	七十一	七十	七十	七十	七十
七十一	七十一	七十一	七十二	七十二	七十一	七十一	七十一	七十一
七十二	七十二	七十二	七十三	七十三	七十二	七十二	七十二	七十二
七十三	七十三	七十三	七十四	七十四	七十三	七十三	七十三	七十三
七十四	七十四	七十四	七十五	七十五	七十四	七十四	七十四	七十四
七十五	七十五	七十五	七十六	七十六	七十五	七十五	七十五	七十五
七十六	七十六	七十六	七十七	七十七	七十六	七十六	七十六	七十六
七十七	七十七	七十七	七十八	七十八	七十七	七十七	七十七	七十七
七十八	七十八	七十八	七十九	七十九	七十八	七十八	七十八	七十八
七十九	七十九	七十九	八十	八十	七十九	七十九	七十九	七十九
八十	八十	八十	八十一	八十一	八十	八十	八十	八十
八十一	八十一	八十一	八十二	八十二	八十一	八十一	八十一	八十一
八十二	八十二	八十二	八十三	八十三	八十二	八十二	八十二	八十二
八十三	八十三	八十三	八十四	八十四	八十三	八十三	八十三	八十三
八十四	八十四	八十四	八十五	八十五	八十四	八十四	八十四	八十四
八十五	八十五	八十五	八十六	八十六	八十五	八十五	八十五	八十五
八十六	八十六	八十六	八十七	八十七	八十六	八十六	八十六	八十六
八十七	八十七	八十七	八十八	八十八	八十七	八十七	八十七	八十七
八十八	八十八	八十八	八十九	八十九	八十八	八十八	八十八	八十八
八十九	八十九	八十九	九十	九十	八十九	八十九	八十九	八十九
九十	九十	九十	九十一	九十一	九十	九十	九十	九十
九十一	九十一	九十一	九十二	九十二	九十一	九十一	九十一	九十一
九十二	九十二	九十二	九十三	九十三	九十二	九十二	九十二	九十二
九十三	九十三	九十三	九十四	九十四	九十三	九十三	九十三	九十三
九十四	九十四	九十四	九十五	九十五	九十四	九十四	九十四	九十四
九十五	九十五	九十五	九十六	九十六	九十五	九十五	九十五	九十五
九十六	九十六	九十六	九十七	九十七	九十六	九十六	九十六	九十六
九十七	九十七	九十七	九十八	九十八	九十七	九十七	九十七	九十七
九十八	九十八	九十八	九十九	九十九	九十八	九十八	九十八	九十八
九十九	九十九	九十九	一百	一百	九十九	九十九	九十九	九十九

○會計検査院達第一號
 作業及鐵道物品出納證明程式左ノ通定ム
 明治二十四年三月二日

會計検査院長子傳渡邊昇

- 第一條 物品會計規則第十五條ニ據リ物品會計官吏ノ證明スヘキ作業及鐵道物品出納計算書ハ左ノ書式ニ依リ之ヲ調製スヘシ
- 第二條 物品出納計算書ニハ生産品、材料、素品、器械、運轉用品、作業場用備品、器具、機械等ニ大別シ更ニ物品ノ種類又ハ使用ノ目的ニ依リ適宜類別シ毎品之ヲ細記スヘシ但同名稱ノ品種ハ之ヲ集合スルモ妨ケナシ
- 第三條 物品出納證明上證據書類トシテ提出スヘキモノ左ノ如シ但既ニ他ノ計算證明上會計検査院ニ提出濟ノモノアルトキハ其事由ヲ計算書ノ備考ニ掲載スヘシ
- 一 物品會計規則第六條ノ規程ニ依リタル命令書
 - 二 賣却品ニ對シテハ其買受人ノ領收證書又ハ當該官吏ノ仕譯書但其代價納付濟ノ年月日付記ヲ要ス
 - 三 消耗拂ノ物品ニ對シテハ其使用ノ目的ヲ摘記シタル領收證書但物品使用上其數量ニ定額アルモノハ各其計算ノ基ヲ所ヲ詳記シタル仕譯書ヲ添付スヘシ
 - 四 生産ノ爲メ消費ノ物品ニ對シテ其消費ノ目的ヲ摘記シタル領收證書又ハ之ニ代ルヘキ仕譯書
 - 五 亡失毀損ノ物品ニ對シテ其品質、數量、代價及亡失毀損ニ係ル事實ヲ詳記シタル當該上官ノ認定アル證明書其已ニ辨償濟ニ係ルモノハ其物品ノ數量及辨償金額ノ仕譯書
 - 六 保管轉換ノ爲メ仕拂ノ物品ニ對シテハ當該官吏ノ領收證書

- 七 價格ヲ評定セシメシモノハ評價人ノ評定價格書
- 八 代價收入済物品未渡若クハ物品渡済代價未收入ノ場合ニハ其契約書
- 九 年度ノ終リ價格改定ノモノアルトキハ當時ノ市價表又ハ其改定價格ノ基ク所ヲ示シタル說明書
- 十 保存期限ニ應シ毎年價格ヲ遞減シ又ハ修理ヲ加ヘ價格ヲ増シ保存年限ヲ改定セシモノハ其仕譯書

第四條 前條ノ證憑書類ハ物品出納計算書ニ掲クル品目ノ順序ニ從ヒ之ヲ編纂シ其表紙ニ數量並代價ノ合計及證憑書ノ枚數ヲ記載スヘシ但一品目ノ證憑僅少ナルモノハ計算書ニ掲クル品目ノ順序ニ從ヒ合纂スルモ妨ケナク又一證憑中數種ノ物品混合セルモノアル時ハ別冊ニ編纂シ其表紙ニ每品目數量及代價ノ合計ヲ記入スヘシ

第五條 下檢査書ハ物品出納計算書毎ニ區分シ左ノ事項ヲ記載スヘシ
 一 物品出納計算書其他證憑書類ノ件名冊數
 二 物品出納計算書ノ現在高ト其現品ト符合ヲ認メタル保證但當該下檢査官吏ニ於テ事實執行シ難キ場合ニ於テハ他ノ監督ノ任アル官吏ノ保證書ヲ以テスルコトヲ得

三 計數正確ノ保證
 四 法規ニ背戾シ若クハ事實ニ適合セズト認定セシ事項ノ理由
 五 證憑書類中必要ノモノニシテ檢査終了ノ上返付ヲ要スル書類ノ件名

第六條 物品出納計算書ハ證憑書類ト共ニ翌年度八月三十一日迄ニ其應ヲ發シ之ヲ會計檢査院ニ送付スヘシ
 第七條 物品出納ノ證明ニ關スル審理書及之レニ對スル報告又ハ答辨書ハ總テ下檢査官吏ヲ經由スヘシ

第八條 本程式ハ明治二十三年度ヨリ施行ス

附則

第八條 本程式ハ明治二十三年度ヨリ施行ス

(一)内ハ朱送)

凡例

- 一 計算書ヲ受授スルモノハ其年月日ヲ各自表紙ニ記載スヘシ
- 二 用紙ハ總テ堅平ナルモノヲ用ユヘシ
- 三 現在品ノ内地陸道中若クハ實買契約未渡品等アル時ハ其事由ヲ備考ニ掲載スヘシ
- 四 現在ノ部工場又ハ事務所ノ區ニハ備品若クハ製作中ニ係ル材料及製品等ヲ掲載スヘシ
- 五 物品會計官吏交代其他事故ニ依リ一年度ヲ通セサルモノアル時ハ何年度トアルヲ何年月日ヨリ何年月日迄トスヘシ
- 六 鐵道物品ハ拂ノ部消耗及實拂ノ區ヲ何々ノ爲メ消耗又ハ何々ニ實拂ト區分記載スヘシ

明治何年度
 作業(鐵道)物品出納計算書

應 名

明治二十四年三月 達 會計検査院第一號

四五

資 本 外						
品 目	単位ノ 呼稱	委 入 部			拂	
		越 高	買 入	何々	計	消 耗
消 耗 品						
何々						
何々						
何々						
何々						
何々						

明治二十四年三月 達 會計検査院第一號

八四

之 部							
之 部	何々	計	現在之部		備 考	現	
			数量	價 格		供 用 中	價 格
亡失毀損							

〔 現在之部價格ノ區ニ於テ購入價格ノナキモノハ見積價格ヲ掲記スヘシ 〕

明治何年度作業(鐵道)物品出納計算書面之通相違無之候也

明治何年何月何日
物品會計官吏官氏名印

會計検査院長宛

(物品會計規則第十五條第二項ニ據リ他ノ官吏ニ於テ調製セシ時ノ例)

明治何年度作業(鐵道)物品會計官吏官氏名取扱ニ係ル物品出納計算書面之通相違無之候也

明治何年何月何日
官 氏 名 印

會計検査院長宛

○海軍省達第三十一號

横須賀鎮守府所管軍艦武藏ヲ常備艦隊ニ編入セラル

明治二十四年三月三日

○海軍省達第三十二號

横須賀鎮守府所管軍艦淺間ヲ第五種ニ編入セラル

海軍大臣子爵樺山資紀

明治二十四年三月三日

○海軍省達第三十三號

明治二十三年十一月達第三百六十九號海軍大學校規則第三條丙號學生學科目中「天文學」ノ次ニ「英佛語言」ヲ加フ

明治二十四年三月三日

○海軍省達第三十四號

砲術練習艦規則中左ノ通改正ス

海軍大臣子爵樺山資紀

第一條 砲術練習生ハ掌砲兵タルコトヲ志願スル者砲術教員ト爲スヘキ者及砲術復習ヲ志願スル者ニ就キ採用ス

第二條 掌砲兵ト爲ルヘキ者ハ三等以上ノ水兵ニシテ左ノ諸項ニ適合ノ者タル可シ

一 志操確實品行善良ナル者

二 一箇年以上航海艦ニ乗組タル者

三 卒業後五箇年以上服役スヘキ者

四 處刑及賭博犯ノ處分ヲ受ケサル者

五 試験ニ合格ノ者

第三條 砲術教員ト爲スヘキ者ハ一等掌砲證狀ヲ有スル兵曹一等水兵中ヨリ砲術教員タルニ堪フヘキ者ヲ選拔ス

第四條 砲術復習ヲ志願スル者ニハ掌砲證狀有効滿期前一箇年以内ニ於テ願出テシム可シ

第五條 練習生ノ人員ハ其須要ニ應ジ毎年鎮守府コトニ之ヲ定メ其採用期限ハ横須賀鎮守府ニ於テ之ヲ定ム

砲術復習者ノ人員ハ前項ノ練習生ヲ合シ練習艦定限ノ人員ニ滿ルマテ採用ス
 練習生採用ノ達アリタルトキハ艦隊校廳長ハ第二條第五項ノ外各項及第四條ニ適合スル者ヲ
 調査シ其官職氏名ヲ砲術練習艦長ニ通知ス可シ又砲術練習艦長ハ第三條ニ依リ砲術教員ト爲ス
 ヘキ者ヲ選抜ス可シ
 第六條 砲術練習艦長前條ノ通知ヲ得タルトキハ試験問題ヲ作り艦隊校廳長ニ送附ス各長ハ試
 験ヲ行ヒ其答書ヲ砲術練習艦長ニ通知ス可シ
 第七條 試験ハ作文算術ノ二科トス
 作文ハ通俗文算術ハ分數ヲ程度トス
 第八條 砲術練習艦長ハ各鎮守府毎ニ練習生ト爲ルヘキ者ヲ區別シ試験合格者ハ成績ノ順序ヲ以
 テ職氏名ヲ列記シ乘艦期日ヲ定メ軍港司令官ヲ經由シ司令長官ニ進達ス可シ
 横須賀鎮守府司令長官前項ノ進達書ヲ受ケタルトキハ他鎮守府海兵團ニ屬スルモノヲ各其司令
 長官ニ送附ス可シ
 鎮守府司令長官ハ所定ノ人員ニ從ヒ艦隊校廳長ヲシテ練習生ヲ命シ期日以内ニ乘艦セシム可
 シ
 第九條 練習生ト爲ルヘキ者所定ノ人員ニ超過スルトキハ試験合格者ニ在テハ成績ノ順序其他ニ
 在テハ一等證狀ヲ有スル者ヨリ成績又ハ證狀同シキトキハ等級ノ上ナル者ヨリ順次ニ採用ス可
 シ
 第二十三條ニ左ノ一項ヲ加フ
 證狀有効期限前一箇年以内ニ於テ教員教程ノ試験ヲ受ケ一等證狀ヲ得サル者ハ更ニ乙種短教程
 ノ試験ヲ行ヒ及第ノ者ニハ證狀ヲ授與スルコトヲ得
 第二十五條 大試験若クハ其再試験ニ落第シ又ハ射撃ノ再發射ニ落第シタル者及修學中傷病疾病

若クハ怠慢ニシテ卒業ノ日途ナキ者又ハ處罰ヲ受ケ改悛ノ狀ナキ者ハ砲術練習艦長練習生ヲ免
 シ軍港司令官ヲ經由シ司令長官ニ届出ツ可シ他團在新ノ者ナルトキハ本籍海兵團ニ送附シ之ヲ
 該團長ニ通知ス可シ該團長ハ各其所屬軍港司令官ヲ經由シ司令長官ニ届出ツ可シ
 ○海軍省達第三十五號
 水雷術練習艦規則中左ノ通改正ス
 明治二十四年二月四日 海軍大臣子爵樺山資紀

- 第一條 水雷術練習生ハ掌水雷兵タラシコトヲ志願スル者水雷術教員ト爲スヘキ者及水雷術復習
 ヲ志願スル者ニ就キ採用ス
- 第二條 掌水雷兵ト爲ルヘキ者ハ三等以上ノ水兵ニシテ左ノ諸項ニ適合ノ者タル可シ
 - 一 志操確實品行善良ノ者
 - 二 一箇年以上航海艦ニ乗組タル者
 - 三 卒業後五箇年以上服役スヘキ者
 - 四 處刑及賭博犯ノ處分ヲ受ケサル者
 - 五 試験ニ合格ノ者
- 第三條 水雷術教員ト爲スヘキ者ハ一等掌水雷證狀ヲ有スル兵曹一等水兵中ヨリ水雷術教員タル
 ニ堪フヘキ者ヲ選抜ス
- 第四條 水雷術復習ヲ志願スル者ニハ掌水雷證狀有効滿期前一箇年以内ニ於テ願出テシム可シ
- 第五條 練習生ノ人員ハ其須要ニ應シ毎年鎮守府毎ニ之ヲ定メ其採用期限ハ横須賀鎮守府ニ於テ
 之ヲ定ム
- 水雷術復習者ノ人員ハ前項ノ練習生ヲ合シ練習艦定限ノ人員ニ滿ルマテ採用ス
- 練習生採用ノ達アリタルトキハ艦隊校廳長ハ第二條第五項ノ外各項及第四條ニ適合スル者ヲ

調査シ其官職氏名ヲ水雷術練習艦長ニ通知ス可シ又水雷術練習艦長ハ第三條ニ依リ水雷術教員ト爲スヘキ者ヲ選拔ス可シ

第六條 水雷術練習艦長前條ノ通知ヲ得タルトキハ試験問題ヲ作り艦隊校艦長ニ送附ス各長ハ試験ヲ行ヒ其答書ヲ水雷術練習艦長ニ通知ス可シ

第七條 試験ハ作文算術ノ二科トス
作文ハ通俗文算術ハ分數ヲ程度トス

第八條 水雷術練習艦長ハ各鎮守府毎ニ練習生ト爲ルヘキ者ヲ區別シ試験合格者ハ成績ノ順序ヲ以テ職氏名ヲ列記シ乘艦期日ヲ定メ軍港司令官ヲ經由シ司令長官ニ進達ス可シ

横須賀鎮守府司令長官前項ノ進達書ヲ受ケタルトキハ他鎮守府海兵團ニ屬スルモノヲ各其司令長官ニ送附ス可シ
鎮守府司令長官ハ所定ノ人員ニ從ヒ艦隊校艦長ヲシテ練習生ヲ命シ期日以内ニ乗艦セシム可シ

第九條 練習生ト爲ルヘキ者所定ノ人員ニ超過スルトキハ試験合格者ニ在テハ成績ノ順序其他ノ者ニ在テハ一等證狀ヲ有スル者ヨリ採用シ成績又ハ證狀同シキトキハ等級ノ上ナル者ヨリ順次ニ採用ス可シ

第十八條 水雷術教員ト爲スヘキ兵曹水兵試験ニ及第シ更ニ一等證狀ヲ得タルトキハ水雷術教員適任證書ヲ授與ス

證狀有効期限前一箇年以内ニ於テ教員教程ノ試験ヲ受ケ一等證狀ヲ得サル者ハ更ニ乙種短教程ノ試験ヲ行ヒ及第ノ者ニハ證狀ヲ授與スルコトヲ得

第二十條 大試験若クハ其再試験ニ落第シタル者及修學中傷病疾病若クハ怠慢ニシテ卒業ノ目途ナキ者又ハ處罰ヲ受ケ改悛ノ狀ナキ者ハ水雷術練習艦長練習生ヲ免シ軍港司令官ヲ經由シ司令

長官ニ届出ツ可シ他團在新ノ者ナルトキハ本籍海兵團ニ送附シ之ヲ該團長ニ通知ス可シ該團長ハ各其所屬軍港司令官ヲ經由シ司令長官ニ届出ツ可シ
○海軍省達第三十六號

明治二十二年八月達第三百二十六號水雷術練習艦甲種教程ノ終ニ左ノ一項ヲ追加ス
明治二十四年三月五日 海軍大臣子爵樺山資紀

本教程中實施スヘキ水雷ノ發火及發射員數ハ左ノ如シ

課 目	發火及發射ノ種類	員數
魚形水雷	實用發射管ヨリ	八回 移動標的
	積古用同	八回 不動標的
外裝水雷	實用	四回 移動標的
	積古用小銃力同	四回 不動標的
反裝水雷	積古用小銃力同	二回 內一回ハ單裝ノモノ
	積古用小銃力同	二回 內一回ハ明治二十三年(三月)達第百二號ニ依ル
擲 藥	實用	三回 端舟ニテ投方演習ノ際發銃ノミニテ發火セシムルモノトス
	積古用同	六回
探 海 法	海中探發信管	一箇
	海中探發信管	一箇
防禦物破壞	外裝水雷	一箇 防材破壞ノ爲メ
	假製浮標水雷	一箇 錨索破壞ノ爲メ

防禦水雷

- 海底水雷
- 浮漂水雷
- 電氣筒發水雷
- 電氣筒機械水雷
- 各種水雷海中發信管ノミ發火
- 圓形縮火藥一箇及海中發信管
- 圓形縮火藥一箇及電氣筒發火管
- 管古用小銃力罐及海中發信管
- 管古用小銃力罐及電氣筒發火管
- 管古用小銃力罐及電氣筒發火管

試驗用

爆發藥及信管

- 一箇
- 一箇
- 一箇
- 一箇
- 一箇
- 一箇
- 一箇
- 一箇
- 一箇
- 一箇

○海軍省達第三十七號

明治二十三年十月達第三百六十三號水雷術練習艦乙種教程ノ終ニ左ノ一項ヲ追加ス

海軍大臣子爵樺山資紀

本教程中實施スヘキ水雷ノ發火及發射員數ハ左ノ如シ

- 魚形水雷 管古用發射管ヨリ 實用發射員數ヨリ 八回 移動標的 短教程及教員教程ハ右ノ半數トス
- 外裝水雷 實用 砲火藥裝填ノモノ 四回 移動標的 短教程及教員教程ハ之ヲ除ク
- 反裝水雷 管古用小銃力罐 同前 四回 不動標的 短教程及教員教程ハ之ヲ除ク
- 鄒藥 管古用小銃力罐及電氣筒發火管 同前 四回 不動標的 短教程及教員教程ハ之ヲ除ク

明治二十三年(三月)達第百二號ニ依ル 總舟ニテ投方演習ノ際發射ノミニテ發火セシムルモノトス

探海法

爆發藥付探海鏡 大小

- 一箇短
- 一箇
- 一箇
- 一箇
- 一箇
- 一箇
- 一箇
- 一箇
- 一箇
- 一箇

捕海法

鉤付鐵力罐 裝填ノモノ

- 一箇
- 一箇
- 一箇
- 一箇
- 一箇
- 一箇
- 一箇
- 一箇
- 一箇
- 一箇

防禦物破壞

海中發信管 外裝水雷罐 導火藥罐共

- 一箇
- 一箇
- 一箇
- 一箇
- 一箇
- 一箇
- 一箇
- 一箇
- 一箇
- 一箇

防禦水雷

假製浮漂水雷 砲火藥裝填ノモノ

- 一箇
- 一箇
- 一箇
- 一箇
- 一箇
- 一箇
- 一箇
- 一箇
- 一箇
- 一箇

試驗用

爆發藥及信管

- 一箇
- 一箇
- 一箇
- 一箇
- 一箇
- 一箇
- 一箇
- 一箇
- 一箇
- 一箇

○陸軍省達第十五號

陸軍蹄鐵工採用規則左ノ通定ス

明治二十四年三月六日

陸軍大臣伯爵大山 巖

陸軍蹄鐵工採用規則

- 第一條 蹄鐵工ハ陸軍諸學校教導團軍馬育成所ニ獸キ馬匹ノ裝蹄剔毛及病馬看護ノコトニ服セシトキハ之ヲ許スコトアルヘシ
- 第二條 蹄鐵工ハ備人トシ其備期限ハ三年ヲ以テ一期トス但一期滿限ノ際勤績ヲ請願スル者アルトキハ之ヲ許スコトアルヘシ
- 第三條 備期限中ハ自己ノ便宜ヲ以テ免除ヲ請フコトヲ許サス
- 第四條 蹄鐵工ノ給料及被服金ハ別ニ定ムル所ニ依リ支給シ被服ハ定制ノモノヲ調製セシム

第五條 給料ノ等級ハ其技術ノ程度ニ依テ校團所長適宜之ヲ定ムヘシ

第六條 蹄鐵工ハ缺員アル毎ニ蹄鐵學舎卒業證書若クハ蹄鐵術及病馬看護法卒業證書又ハ蹄鐵工免狀ヲ所持スル志願者ヨリ採用ス

但左ニ列記スルモノハ採用スルコトナシ

一 復讐ヲ得ケル家資分散者破産者及身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ辨償ヲ終ヘサル者

二 重罪ノ刑又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレ若クハ賭博犯ノ處分ヲ受ケタル者

第七條 志願者ノ召募ハ校團所長ニ於テ此規則ニ據リ適宜之ヲ行フヘシ

第八條 採用ノ上ハ必ラス陸軍ニ從事シ決シテ他志ナキノ誓約ヲナサシム

第九條 願書及誓文ノ書式左ノ如シ

願書式 用紙美濃白紙

今般陸軍蹄鐵工志願ニ付御検査ノ上御採用被下度尤モ御採用ノ上ハ御規則嚴重ニ相守得テ陸軍ニ從事可仕且本人身上ノ儀ノ事ニ依ラス身元引受人ニ於テ引受可仕依テ引受人連署此誓願候也

何府(縣)何族(平民)職業
 戶主名何男(元)弟(伯)(叔)(甥)(兩孫)
 姓 名 印
 何國何郡(區)町(村)何番地住(寄留)
 何府(縣)何族(平民)
 身元引受人(一名ハ願入レ寄留所在地方)
 何府(縣)何族(平民)
 何府(縣)何郡(區)何町(村)何番地住(寄留)
 年 號 月 日 生
 年 號 月 日 何箇月
 姓 名 印

年 號 月 日

何校(團)(某育成所)長官姓名殿

同 同

誓 文

今般志願ニ付陸軍蹄鐵工御採用奉願候御許容相成候ニ付テハ爾三年以内ハ自己ノ情願ヲ以テ免除不相願其他御規則嚴重ニ相守リ得テ陸軍ニ從事可仕候依テ誓文如件

年 號 月 日

陸軍蹄鐵工 姓 名 印

○陸軍第十六號

理事及理事候補制服ヲ着用スル場合ニ於テ其敬禮法ハ陸軍將校ニ同シ

○陸軍第十七號

明治二十一年十一月十一日 陸軍第二十四號豫備役諸兵教練復習教令左ノ通改正ス

陸軍大臣伯耆大山 殿

明治二十四年三月六日

○陸軍第十七號

陸軍大臣伯耆大山 殿

豫備役諸兵教練復習教令

第一條 豫備役諸兵ノ教練復習ハ各兵各個ヲシテ專ラ戰鬥ニ堪ユヘキ力ヲ保持セシムルヲ以テ目的トス

第二條 前條ノ目的ヲ以テ兵科ニ應シ復習ノ時期及ロ日數ヲ規定スルコト別紙豫備役兵復習科目及日數表ノ如シ但シ騎兵豫備役兵教練ノ復習ハ特別ノ命令ニ依テ施行スルモノトス

第三條 豫備役諸兵ハ豫備服役中二回ノ復習ヲ爲サシムルヲ要ス之ガ爲メ毎年復習時期ニ於テ豫備役第二年兵及第四年兵(野戰砲兵ニアリテハ第三年兵)ヲ召集スル者トス

第四條 豫備役諸兵ハ專ラ術科ノ復習ヲ主トスルモノナレ共時間ノ猶豫アレハ之ニ要スル學科ノ復習ヲモ爲スモノトス

二 下士
三 上等兵
五名
六名

第五條 修業期限ハ士官ニ在テハ之ヲ定メテ故ニ熟練ノ後ハ更ニ他ノ士官ト交換スヘシ又曹長以下ニ在テハ九箇月トシ毎年十二月上旬ニ始メ翌年八月下旬ニ終ルモノニシテ期滿ツレハ試験ヲ行ヒ及第スル者ニ電信通信術卒業證書ヲ下附スヘシ又及第セサル者ハ更ニ二箇月以内ノ猶豫ヲ與ヘ再試験ヲ行フヘシ

第六條 通信術修業中ノ下士上等兵及助教タル下士ハ週番勤務並野外演習ノ外ハ諸勤務ヲ免除スルヲ得ヘシ又卒業後ト雖トモ絶ヘス復習ヲ爲サシムヘシ

第七條 教場ハ之ヲ二箇ニ分ツ其一士官教場其二下士上等兵教場

第八條 士官教場ニハ假器械二箇通信器二箇並ニ之ニ屬スル電池其外諸器械ヲ備フ

第九條 下士上等兵教場ニハ假器械十一箇通信器六箇並ニ之ニ屬スル電池其外諸器械ヲ備フ

第十條 教場ハ修業ヲ命セラレタル士官ノ内上級故參ノ者一名ヲシテ一般ノ軍需ヲ爲サシムヘシ又下士ノ内二名ヲシテ諸物品ノ出納保存其他消耗品授受ノ雜務ニ當ラシム

第十一條 教場備附ノ物品ハ教官及助教ノ許可ナクシテ之ニ觸ルヲ得ス

第十二條 教場備附ノ物品ハ場外ニ出スヲ得ス然レトモ假器械ハ自習ノ爲メ教官ノ許可ヲ得營内便宜ノ室ニ於テ用ユルヲ得ヘシ

第十三條 授業時間ハ大隊長適宜ニ之ヲ定ムヘシト雖トモ定例休日ノ外學術進歩ノ景況並ニ隊中他勤務ノ繁閑ニ因リ概ネ二時乃至四時トシ其他ハ自修時トス

第十四條 建築手ノ教育ハ建築術ニ係ル學科及口術科ヲ教ユルモノニシテ其人員ハ各工兵大隊ニ於テ野戰電信一隊ニ要スル建築手ノ員數ヲ目的トス乃チ概ネ左ノ如シ

一 下士
二 上等兵
三 一二等卒
二名
二名
十六名

第十五條 修業期限ハ四箇月トシ毎年五月上旬ニ始メ八月下旬ニ終ル而シテ期滿ツレハ試験ヲ行ヒ電信建築術卒業證書ヲ下附スヘシ

第十六條 授業時間ハ大隊長適宜ニ之ヲ定ムヘシト雖トモ定例休日ノ外學術進歩ノ景況並ニ隊中勤務及口演習ノ繁閑ニ因リ概ネ一時乃至二時トス

第十七條 陸軍省陸軍部第十八號工兵大隊作業器具表電信材料中假器械員數一〇ヲ一三ニ通信機六ヲ八ニ改ム

明治二十四年三月六日 陸軍大臣伯爵大山 巖

○陸軍第二十號 明治二十二年十一月 陸軍省陸軍部第六十七號野戰電信隊演習用拳銃彈藥支給表左ノ通改正ス (表略ス)

○陸軍第二十一號 明治二十四年三月六日 陸軍大臣伯爵大山 巖

○陸軍第二十二號 明治二十三年六月 陸軍省陸軍部第三十號衛生部治療器械並調節器械定數中別紙ノ通追加ス (別紙略ス)

明治二十一年五月 陸軍省陸軍部第十四號ヲ廢ス 陸軍大臣伯爵大山 巖

明治二十四年三月七日 (參照) 陸軍省陸軍部第十四號(明治二十一年五月十八日)

明治二十四年三月 陸軍省陸軍部第十九號 陸軍第二十號 陸軍第二十一號 陸軍第二十二號 五九

○海軍省達第三十八號
自今通常火災ヲ廢ス

明治二十四年三月七日

海軍大臣子爵樺山資紀

○海軍省達第三十九號

明治二十四年三月七日

海軍大臣子爵樺山資紀

第二條 文具料ハ每三箇月分宛其翌月五日之ヲ支給シ每年度末ニ於テハ三月二十五日之ヲ支給ス

但支給當日休暇ニ當ルトキハ順延トス

○海軍省達第四十號

糧食經理規程第二十五條中「軍港ニ於テハ主計部ニ於テ購買供給シ軍港外ニ於テハ」ヲ刪除ス

但明治二十四年四月一日ヨリ施行ス

明治二十四年三月七日

海軍大臣子爵樺山資紀

○海軍省達第四十一號

糧食條例第六條第七條ニ依リ支給スル金額及糧食經理規程第二十五條ニ依リ購買スル食品代價ハ

二十四年度間左ノ通定ム

明治二十四年三月七日

海軍大臣子爵樺山資紀

食別	一食金額
食料	五錢
夜食料	一錢八厘
犯罪者食料	二錢五厘

物價表

種類	品目	沿岸別						
		第一區	第二區	第三區	第四區	第五區	第六區	第七區
麵類	乾麵包一貫目	1100	1100	1100	1100	1100	1100	1100
	麵包一貫目	1100	1100	1100	1100	1100	1100	1100
鳥獸魚肉類	生肉一貫目	700	700	700	700	700	700	700
	生肉一貫目	700	700	700	700	700	700	700
穀類	白米一貫目	1100	1100	1100	1100	1100	1100	1100
	麥粉一貫目	1100	1100	1100	1100	1100	1100	1100
乾菜類	豆一貫目	1100	1100	1100	1100	1100	1100	1100
	乾菜百目	1100	1100	1100	1100	1100	1100	1100

明治二十四年三月 海軍省第四十一號

六〇

種類	品目	單位	數量	價額	種類	品目	單位	數量	價額
乾物野菜類	乾物	一貫目	100	1000	乾物野菜類	乾物	一貫目	100	1000
	生野菜	一貫目	100	1000		生野菜	一貫目	100	1000
茶焙茶類	焙茶	一貫目	100	1000	茶焙茶類	焙茶	一貫目	100	1000
	調理用	一貫目	100	1000		調理用	一貫目	100	1000
砂糖	食卓用	一貫目	100	1000	砂糖	食卓用	一貫目	100	1000
	調理用	一貫目	100	1000		調理用	一貫目	100	1000
醬油洋油類	醬油	一斗	100	1000	醬油洋油類	醬油	一斗	100	1000
	胡麻油	一斗	100	1000		胡麻油	一斗	100	1000
鹽	鹽	一貫目	100	1000	鹽	鹽	一貫目	100	1000
	濃縮	一貫目	100	1000		濃縮	一貫目	100	1000
胡椒芥子類	胡椒	一貫目	100	1000	胡椒芥子類	胡椒	一貫目	100	1000
	芥子	一貫目	100	1000		芥子	一貫目	100	1000
火酒	火酒	一斗	100	1000	火酒	火酒	一斗	100	1000
	燒酎	一斗	100	1000		燒酎	一斗	100	1000

諸外國沿岸 但清國朝鮮及亞細亞洲諸國

種類	品目	單位	數量	價額
鳥獸魚肉類	生肉	一斤	100	1000
	罐詰肉	一斤	100	1000
穀類	白米	一斤	100	1000
	麥粉	一斤	100	1000
乾物野菜類	乾菜	一斤	100	1000
	乾物	一斤	100	1000
醬油洋油類	醬油	一斤	100	1000
	胡麻油	一斤	100	1000
胡椒芥子類	胡椒	一斤	100	1000
	芥子	一斤	100	1000

○會計検査院達第二號

明治二十三年勅令第三十五號ニ據リ歳入歳出外現金出納證明規程左ノ通定ム

會計検査院長子爵渡邊昇

歳入歳出外現金出納證明規程

第一條 明治二十三年勅令第三十五號ニ據リ出納官吏ノ證明スヘキ歳入歳出外現金出納計算書ハ左ノ書式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第二條 出納證明上證憑書類トシテ提出スヘキモノ左ノ如シ

一 受入金ニ對シテハ命令書又ハ決議書

二 仕拂金ニ對シテハ正當受取人ノ領收證書

第三條 前條ノ證憑書類ハ受入仕拂ニ大別シ計算書ニ掲グル事項毎ニ區分編纂シ其表紙ニ金額ノ合計及ヒ證憑書ノ枚數ヲ記載スヘシ但シ一事項ノ證憑書僅少ナルモノハ合纂スルモ妨ナシ

第四條 下検査官吏ハ計算書及口證憑書類ノ下検査ヲ完了シ翌年度六月二十五日以内ニ其屬ヲ獲
 レ之ヲ會計検査院ニ送附スヘシ

第五條 下検査書ハ計算書毎ニ區分調製シ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 計算書及口證憑書類ノ件名册數
- 二 現金出納計算書ト出納帳簿及口證憑書類ノ殘額ト現存額トノ符合ヲ認メタル保證但シ當該下検査官吏ニテ事實執行シ難キ場合ニ於テハ他ノ監督ノ任アル官吏ノ保證書ヲ以テスルコトヲ得
- 三 計數正確ノ保證
- 四 法規ニ背戻シ又ハ事實ニ適合セスト認定セシ事項ノ理由及口金額

第六條 證憑書類中必要ノモノニシテ検査終了ノ上返付ヲ要スルモノアルトキハ其提出ノ際之ヲ會計検査院ニ請求スヘシ

第七條 歳入歳出外現金出納ノ證明ニ關スル審理書又ハ其報告書ハ總テ下検査官吏ヲ經由スヘシ

明治何年度

歳入歳出外現金出納計算書

〃〃〃

凡例

「計算書ヲ授受スルモノハ其年月日ヲ表紙ニ記載スヘシ」
 「用紙ハ總テ空ナラシムルモノヲ用ユヘシ」
 「出納官吏交替其他ノ事故ニ依リ一年度ヲ通セサルモノアルトキハ何年度トアルヲ何年月日ヨリ何年月日迄ト改ムヘシ」

何 屬

摘要	仕掛高	歳入へ納付		計		残高		備考
		圓	銭	圓	銭	圓	銭	
保證金	0							一 殘高總計ノ備考ニ於テ現存額ノ所在ヲ區分詳記スヘシ
何々保證金	0	0	0	0	0	0		
何々保證金	0	0	0	0	0	0		
合計	0	0	0	0	0	0		
拾得金	0							
警察官吏拾得金	0	0	0	0	0	0		
人民拾得金	0	0	0	0	0	0		
合計	0	0	0	0	0	0		
何々	0							
何々々々	0	0	0	0	0	0		
何々々々	0	0	0	0	0	0		
合計	0	0	0	0	0	0		
何々	0							
何々々々	0	0	0	0	0	0		
何々々々	0	0	0	0	0	0		
合計	0	0	0	0	0	0		
總計	0	0	0	0	0	0		

第六條 參謀ハ分掌事務ノ文書ノ草案ハ自ラ之ヲ作リ司令官若クハ副司令官ノ認可ヲ受ケ後之ヲ副官ニ移ス

第七條 副官ハ司令部一切ノ庶務ニ任シ概ネ左ノ事項ニ係ル事務ヲ分掌ス

- 一 日令諸報告暗號軍隊服務
- 二 文書ノ往復並圖書ノ保管
- 三 將校下士兵卒ノ人事敘勳恩給
- 四 徵募補充
- 五 兵器彈藥馬匹工具
- 六 屯田兵ノ稼穡授産及其家族ニ關スル事項
- 七 豫備後備ノ軍人ニ關スル事項

第八條 高級ノ副官ハ副官部ノ庶務ヲ總理シ其整否ノ責ニ任ス他ノ副官モ亦各自分掌ノ事務ニ就テハ整理ノ責ニ任スルモノトス但其處理ノ件ハ豫メ高級副官ノ査閲ヲ受クヘシ

第九條 高級ノ副官ハ日々諸向ヨリ到達ノ文書ヲ點檢シ其事項ヲ分テ主務官ニ配當スヘシ

第十條 副官ハ司令部内一切ノ取締ニ任シ且司令部ノ會計經理ヲ管知ス

第十一條 參謀及副官ノ主務ハ之ヲ區別スト雖モ彼是相裨補シ事務ノ結果ヲシテ一致セシムルモノトス

第十二條 軍吏ハ會計經理ノ事務ニ任シ概ネ左ノ事項ニ係ル事務ヲ分掌ス

- 一 歳入歳出豫算ニ關スル事項
- 二 下士以下被服ニ關スル事項
- 三 扶助米購買ニ關スル事項
- 四 移住者給與ニ關スル事項

五 土地建物及建築ニ關スル事項

第六條 各隊初度備付品買辦並各部ニ係ル給與及用度ニ關スル事項

第十三條 軍吏ハ司令官ニ隷スト雖モ其主務上ニ就テハ監督部長ノ監督ヲ受ケ且司令部會計經理上ニ就テハ高級副官ノ指示ヲ受ク

第十四條 高級軍吏ハ第十二條第十三條ノ事項ニ付キテハ其實ニ任ス他ノ軍吏モ亦各自分掌ノ事務ニ就テハ整理ノ責ニ任スルモノトス

第十五條 司令部ニ士官一名及下士副ノ内一名ヲシテ日々營直セシメ退爾後及休暇日等臨時ノ要務ヲ處理シ司令部一般ノ取締ニ任ス

但シ士官ノ營直ハ夜間在廳スルト在宅スルハ該時ノ形勢ニ應シ司令部ノ指示ニ從フモノトス

第十六條 戰時ニ於ケル司令部官僚ノ職務權限ハ本則ノ外別ニ定ムル所ニ依ル

○陸軍第二十五號

陸軍被服工場學舍第二期學生十名縫工科二名 靴工科八名本年六月ニ於テ入舎セシメ候條昨二十三年三月陸軍第二十九號二十三年陸軍被服工場學舍學生召集定期ニ基キ検査セシメ本年四月十五日迄ニ之ヲ取廻シ陸軍省會計局長ヘ送付スヘシ

明治二十四年三月十三日

陸軍大臣伯爵大山 殿

○陸軍第二十六號

明治二十一年十一月陸軍第二十二三號陸軍病院條例中左ノ追加改正加除ス

明治二十四年三月十六日

陸軍大臣伯爵大山 殿

第二條 平時陸軍病院ニ於テ治療ヲナスヘキ者左ノ如シ

一 營内居住ノ下士以下

二 營内居住ノ下士以下ニシテ現役服役若クハ生徒ヲ免セラレ又ハ召集解散ノ際傷痕疾病ニ依

リ歸郷シ得サル者

三 營外居住ノ軍人軍屬ニシテ傷痍疾病ニ罹リ特ニ入院治療ヲ請求シタル者
 第三條 第二條第一項ノ者ニ在テハ治療費ハ病院ノ費用ニシテ糧食ハ陸軍給與令第四章第二十六
 條第一項ニ據ル但一年志願兵條例第五條第二項ノモノハ此限ニアラス
 第四條 第二條第二項ノ者並第三項ノ内公務ニ起因シタル者ニ在テハ治療費糧食トモ病院ノ費用
 トス

第五條 第二條第三項ノ内公務ニ起因セサル者及一年志願兵條例第五條第二項ニ當ル者ニ在テハ
 治療費ハ一日金拾錢ヲ納メシメ糧食ハ本人ヨリ陸軍給與令第九表ノ定額ニ依リ之ヲ辨償セシム
 但下士兵卒及生徒ニ在テハ其治療費ニ限リ病院ノ費用トス
 第六條 軍人軍屬ニシテ演習若クハ行軍若クハ軍隊旅行中傷痍疾病ニ罹リタル者ヲ地方醫師若ク
 ハ地方病院ニ依託シタルトキ其診斷料治療費又ハ入院料ハ陸軍病院ヨリ實費ヲ支辨ス但本人ノ
 便宜ニ依リ地方醫師若クハ地方病院ノ治療ヲ受クル者ハ此限ニアラス

第七條 刪除ス
 第八條 調製舖アラサル地方又ハ調製舖アルモ止ムヲ得サル場合ニ在テハ軍人軍屬ニ限リ軍醫ノ
 處方箋ヲ以テ藥劑ヲ特ニ請求シタルモノアルトキハ陸軍病院ヨリ之ヲ與フルコトヲ得但傷痍疾
 病公務ニ起因スルコトヲ證明スルモノハ一日ノ藥價金四錢ヲ納メシム

第十一條 第二項中ハ院長ノ命ニ依リ「ヲ」ニ就テハ院長ニ隸シ「ニ」其事務ヲ整理シ兼テ一部ノ病
 室ヲ擔任ス「テ」治療其他事務ヲ掌理シ兼テ「一」等軍醫以下ノ勤務ヲ監視ス「ニ」改ム
 第十二條 「職官表ニ掲グル外」ヲ剛リ「雇役ス」ノ下ニ「其人員ハ別ニ之ヲ定ム」ノ十字ヲ追加ス
 第十八條 左ノ一項ヲ追加ス
 院長ハ病院勤務ニ服スル各隊及官廳附醫官ノ才能依備其他勤務上ニ係ル事項ヲ詳悉シ考科ノ用

ニ供スル爲メ毎年未之ヲ所管軍醫長 近衛各隊附醫官ノニ開申スヘシ
 第二十二條 「患者アルトキハ」ノ下ニ「二」等軍醫正若クハ「ノ」八字ヲ追加ス
 第二十三條 「混同」ノ下割註並「午後」ノ下「二」回ヲ剛ル
 第二十四條 第四項ヲ剛ル
 第二十五條 第二項調劑手ト輪次當直ヲナスヘキモノトス「ヲ」院長適宜ニ之ヲ定ムヘシ「ニ」改ム
 第二十六條 第一項「衛生費」ヲ「經費」ニ改メ第二項固定金ノ出納「ノ」六字ヲ剛リ第三項「軍人軍屬ノ
 入院料」ヲ「患者自辨ノ治療費糧食費」ニ第九項衛生材料廠ノ患者用「ヲ」戰時用患者ノ「ニ」改ム
 第三十五條 刪除ス

○陸達第二十七號
 自今營外居住ノ軍人軍屬ニシテ公務ニ起因シ傷痍疾病ニ罹リタルトキ又ハ軍隊旅行演習若クハ行
 軍中傷痍疾病ニ罹リタルトキ所屬部隊ニ於テ軍醫ノ治療ヲ求メタル場合ニ在テハ藥價收納ニ及ハ
 ス

明治二十四年三月十六日
 陸軍大臣伯爵大山 巖

○陸達第二十八號
 明治二十一年月十二 陸達第二百四十三號ヲ廢ス
 明治二十四年三月十六日
 陸軍大臣伯爵大山 巖

(參照) 陸達第二百四十三號(明治二十一年十二月二十五日)
 陸軍病院條例第五條入院料第八條藥價ノ儀左ノ通定ム
 但明治二十二年一月一日ヨリ施行スヘシ
 入院料 一日金十錢
 藥價 一日金四錢
 但藥價ハ一日一回ニ數種ノ藥劑ヲ與フルモ此額ヲ越スルコトナシ又入院料ニハ藥價ヲ包含ス

○海軍省達第五十號

鎮守府造船材料資金取扱規程左ノ通定メ明治二十四年度ヨリ施行ス

海軍大臣子爵樺山資紀

明治二十四年三月二十日

鎮守府造船材料資金取扱規程

- 第一條 鎮守府造船材料資金及其歳入歳出ニ係ル全部ノ計算ハ第三局ニ於テ統理スルモノトス
- 第二條 鎮守府主計部長ハ鎮守府造船材料資金及其歳入歳出ノコトニ付第三局長ヨリ照會ヲ受ケタルトキハ要求ノ期日迄ニ詳細ノ回答ヲ爲スヘシ
- 第三條 第三局長ハ大臣ノ意ヲ受ケ作業及鐵道會計規則第六條乃至第八條ノ例ニ依リ明治二十三年大藏省令第九號ノ第一號及第二號書式ニ準據シテ鎮守府造船材料資金歳入歳出ノ豫定計算書及受拂勘定表ヲ調製シ大藏大臣ニ送附ノ手續ヲ爲スヘシ
- 第四條 第三局長ハ前條ノ豫算公布セラレタルトキ鎮守府主計部長ニ令示ノ手續ヲ爲スヘシ
- 第五條 第三局長ニ於テ前條ニ依リ令示ノ手續ヲ爲スニ當リ吳鎮守府造船材料資金ノ歳出豫算ハ之ヲ主計部ト小野濱分工場トニ区分シ二十三年大藏省令第九號ノ第四號書式(甲)ニ準據シ歳出仕拂豫算計算書ヲ作り大藏大臣ノ檢視ヲ受クルノ手續ヲ爲シ其檢視済トナリタルトキハ明細仕拂豫算書ヲ作り歳入額ト共ニ吳鎮守府主計部長竝ニ造船部製造科長ニ令示ノ手續ヲ爲ス可シ但造船部製造科長ニ令示スルニハ主計部長ヲ經由スルモノトス
- 第六條 第三局長前條ニ據リ歳入額ヲ分配シタルトキハ同時ニ其金額ヲ大藏大臣ニ通知スルノ手續ヲ爲ス可シ
- 第七條 第三局長仕拂豫算計算額ノ増減更正ヲ要スルトキハ二十三年大藏省令第九號ノ第四號書式(乙)ニ準據シテ仕拂豫算更正計算書ヲ調製シ大藏大臣ノ檢視ヲ受クルノ手續ヲ爲スヘシ

- 第八條 鎮守府主計部長吳鎮守府造船部製造科長歳入豫算額ニ對シ増減アルトキハ歳入歳出豫算調理規程第八條ノ例ニ依リ取扱ヒ又吳鎮守府ニ於テ歳出仕拂豫算額ニ對シ増減ヲ生スヘキ見込アルトキハ同規程第九條ノ例ニ依リ取扱フヘシ但吳鎮守府造船部製造科長ニ在テハ該鎮守府主計部長ヲ經由スルモノトス
- 第九條 第三局長前條豫算増減ノ請求ヲ受ケ適當ト認メタルトキ又ハ豫算額中目ノ流用ヲ要スルトキハ歳入歳出豫算調理規程第十條第十一條ノ例ニ依リ取扱フ可シ
- 第十條 鎮守府主計部長吳鎮守府造船部製造科長及收入官吏ハ歳入歳出取扱規程第一條乃至第五條及第八條ノ規程及二十三年大藏省訓令第七十一號收入金收納取扱順序ニ依リ鎮守府造船材料資金ノ歳入ヲ取扱フヘシ但領收證書現金拂込書及納入告知書ハ二十三年大藏省令第九號ノ第二十號第二十一號及第二十五號書式ニ據ルモノトス
- 第十一條 收入官吏前條ニ依リ收入金ヲ金庫ニ納付シタルトキハ日々又ハ便宜數日分ヲ取纏メ共納付シタル金額ヲ鎮守府主計部長若クハ吳鎮守府造船部製造科長ニ報告スヘシ
- 第十二條 鎮守府主計部長吳鎮守府造船部製造科長資金ノ持越額ヲ歳出仕拂元受金ニ組込ミ又ハ前條ニ據リ報告ヲ受ケタル收入金ヲ歳出仕拂元受金ニ組換ヘントスルトキハ會計主務官ヲ經テ金庫ニ請求スヘシ
- 第十三條 會計主務官前條請求書ノ交付ヲ受ケタルトキハ二十三年大藏省訓令第六十四號ノ手續ヲ爲スヘシ
- 第十四條 鎮守府主計部長吳鎮守府造船部製造科長造船材料資金ノ歳出ヲ支出セントスルトキハ歳出仕拂元受金及毎年度令示セラレタル豫算額ニ基キ作業及鐵道會計規則第十三條乃至第十九條及第二十三條ノ例ニ據リ二十三年大藏省令第九號ノ第二十二號若クハ第二十三號書式ニ準據シテ仕拂請求書ヲ作り會計主務官ニ交付スヘシ

第十五條 會計主務官前條仕拂請求書ノ交付ヲ受ケタルトキハ歲出仕拂元受金及豫算額ニ基キ之ヲ調査シ其取扱ノ手續ハ會計規則第三十六條及第三十八條仕拂命令取扱ノ例ニ依ル可シ

第十六條 收入官吏ハ其取扱フタル收入ヲ記入スル帳簿ノ結果ニ依リ二十三年大藏省令第九號ノ第五號書式ニ準據シテ毎月收入報告書ヲ作り之ニ金庫ヨリ送附セル歲入金月計對照表ヲ添ヘ翌月十日迄ニ第三局長ニ送附スヘシ但吳鎮守府ニ在テハ小野濱分工場ノ收入官吏ヨリ其收入報告書ヲ翌月五日迄ニ本府收入官吏ニ送附シ本府收入官吏ハ二十三年大藏省令第九號ノ第六號書式ニ準據シテ收入合計表ヲ作り諸報告書ト共ニ本條ノ手續ヲ爲スモノトス

第十七條 會計主務官ハ其調定シタル支出ヲ記入スル帳簿ノ結果ニ依リ二十三年大藏省令第九號ノ第七號及第九號書式ニ準據シテ毎月支出報告書及調定額報告書ヲ作り金庫ヨリ送附セル歲出金月計對照表ヲ添ヘ翌月十日迄ニ第三局長ニ送附スヘシ但吳鎮守府ニ在テハ小野濱分工場ノ會計主務官ヨリ其支出報告書及調定額報告書ヲ翌月五日迄ニ本府會計主務官ニ送附シ本府會計主務官ハ二十三年大藏省令第九號ノ第八號及第十號書式ニ準據シテ支出合計表及調定總計額報告書ヲ作り諸報告書ト共ニ本條ノ手續ヲ爲スモノトス

第十八條 第三局長第十六條及前條ニ依リ諸報告書ノ送附ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ毎月十五日迄ニ大藏大臣ニ之ヲ送附スルノ手續ヲ爲スヘシ

第十九條 鎮守府主計部長吳鎮守府造船部製造科長ハ本規程附屬第一號書式ニ依リ毎月原簿統計表ヲ作り翌月十日迄ニ第三局長ニ送附スヘシ但吳鎮守府造船部製造科長ハ該統計表寫ヲ以テ本府主計部長ニ報告スヘシ

第二十條 鎮守府主計部長ハ毎年度末ニ於テ鎮守府造船材料資金會計規則第八條ニ依リ資金ニ對スル受拂勘定ヲ爲シ益金アルトキハ之ヲ同年度一般ノ歲入トシテ國庫ニ納付スヘシ但吳鎮守府造船部製造科長ハ本條ニ準シテ分配サレタル資金ニ對スル一切ノ受拂勘定ヲ爲シ其結果ヲ本府主計部長ニ報告スヘシ

計部長ニ報告スヘシ

第二十一條 鎮守府主計部長ハ二十三年大藏省令第九號ノ第二號書式ニ準據シテ其年三月三十一日ニ終リタル會計年度ノ受拂勘定表ヲ作り翌年度四月三十日迄ニ第三局長ニ送付スヘシ

第二十二條 第三局長ハ作業及鐵道會計規則第九條ノ例ニ依リ鎮守府造船材料資金歲入歲出ノ決定計算書ヲ作り翌年度八月三十一日迄ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スルノ手續ヲ爲スヘシ

第二十三條 收入官吏及會計主務官ヨリ會計検査院ニ提出スヘキ諸證明書類ハ總テ鎮守府造船材料資金會計證明規程ニ依リテ調製シ規定ノ期日內ニ會計監督部ニ送付スヘシ

第二十四條 鎮守府主計部長吳鎮守府造船部製造科ニ於テハ作業及鐵道會計規則第四十六條乃至第四十九條ニ基キ二十三年大藏省令第九號ノ第十二號乃至第十七號及第十九號書式ニ準據シ日記簿原簿內譯簿收入簿支出簿調定簿現金出納簿ヲ設備シ其計算ヲ整理スヘシ

第二十五條 吳鎮守府主計部ニ於テハ前條ノ外尙ホ二十三年大藏省令第九號ノ第十八號書式ニ準據シテ調定總計簿ヲ作り又本規程附屬第二號乃至第四號書式ニ依リ收入總計簿支出總計簿及資金整理簿ヲ設備シ該府主管ニ屬スル材料資金及歲入歲出全部ノ計算ヲ整理スヘシ

第二十六條 第二十四條及前條ニ掲グルモノ、外收支計算ノ詳細ヲ要スルモノニ付テハ適宜補助簿ヲ設ケ又諸帳簿ノ試算ニ供スル爲メ計算表ヲ調製スヘシ

(第一號乃至第四號書式略ス)

○陸軍第三十三號

明治二十一年十一月 陸軍第二百一十一號本省並陸軍諸官衙支關番以下定員表中工兵第二方面ノ區畫内對馬支署ノ次位ニ左ノ一項ヲ加フ

明治二十四年三月二十三日

陸軍大臣伯耆大山 巖

○陸軍第三十四號

明治二十一年五月陸軍第八號及同年十一月陸軍第二百二十五號ヲ廢ス

明治二十四年三月二十三日

陸軍大臣伯爵大山 巖

(參照) 陸軍第八號(明治二十一年五月十二日)

令陸軍醫官制定獸醫長ノ儀ハ一等獸醫ニ被定候處從前陸軍獸醫長ノ職ヲ奉シアリシ獸醫長ハ當分ノ内職シテ
師團獸醫長ノ職ニ充テラル、儀ト心得ヘシ

陸軍第二百二十五號(明治二十一年十一月二十九日)

東京衛戍病院附屬官ノ内一名一等藥劑官ニ被定候處從前東京衛戍病院藥劑課長ノ職ヲ奉シアリシ藥劑官ヲ以テ當分
ノ内右一等藥劑官ノ事務取扱ニ充テラル、儀ト心得ヘシ

○陸軍第三十五號

明治十一年六月達乙第七十九號及明治十四年八月達乙第四十八號ヲ廢ス

明治二十四年三月二十三日

陸軍大臣伯爵大山 巖

(參照) 陸軍省達乙第七十九號(明治十一年六月十二日)

給與概則第五章附錄別冊甲乙之通相定候條本年七月以降各兵諸生徒被服之儀ハ右ニ准テ給與方取計此旨相達候
事(別冊略)

陸軍省達乙第四十八號(明治十四年八月六日)

明治十一年六月達乙第七十九號ヲ以テ相達候給與概則第五章附錄之儀自今被服調製法ト改稱候條此旨相達候
但甲乙之部ヲ上下ニ相改候事

○陸軍第三十六號

明治二十二年九月陸軍第四百四十一號屯田兵下士兵卒服役細則ヲ廢ス

明治二十四年三月二十三日

陸軍大臣伯爵大山 巖

○陸軍第三十七號

屯田兵服役細則左ノ通定ム

明治二十四年三月二十三日

陸軍大臣伯爵大山 巖

屯田兵服役細則

第一條 本則ハ屯田兵出身ノ下士及他兵科ヨリ轉科シタル下士ニシテ屯田兵條例ニ依リ服役スル
下士並屯田兵卒ノ服役ニ關スル細目ヲ規定スルモノトス

第二條 下士ノ服役年期及其計算ハ同時入隊シタル兵卒ニ異ナルコトナシ

第三條 下士ノ服役ニ關スル取扱ハ別ニ明文アルモノ、外總テ兵卒ニ異ナルコトナシ

第四條 下士兵卒止ムヲ得サル事故アリ家族中適當ノ男子ヲシテ兵役ヲ相續セシメシコトヲ願出
ル者アルトキハ屯田兵司令官之ヲ許可スルコトヲ得但各兵科現役下士補充條例第九條ニ當リ豫
備役ニ編入スヘキ者亦同シ

第五條 兵卒傷痍若クハ疾病ニ依リ一時現役ニ堪ヘ難キ者アルトキハ其隊長ヨリ屯田兵司令官ニ
具狀シ服務免除ノ處分ヲ請フ可シ但家族中適當ノ男子アルトキハ第四條ノ例ニ依ル可シ

第六條 兵卒傷痍若クハ疾病ニ依リ永久服役ニ堪ヘ難キ者アルトキハ該隊長ヨリ其事由及兵役相
續者ノ有無等ヲ屯田兵司令官ニ具狀シ處分ヲ請フ可シ

第七條 下士兵卒服役中死亡若クハ免役シタル者ノ子弟幼弱ナルトキハ適當ノ年齢ニ達スルヲ待
チ兵役ノ殘期ヲ相續セシム可シ

○陸軍第三十八號

明治二十一年十一月陸軍第二百一十一號本省並陸軍諸官衙吏關番以下定員表中蹄鐵學舎ノ次ニ軍馬
育成所ノ縦畫及門番ノ下ニ牧手ノ横畫ヲ設ケ軍馬育成所ノ下牧手ノ畫ニ「五〇」ヲ加フ

○陸軍第三十九號

明治二十四年三月二十三日

陸軍大臣伯爵大山 巖

明治二十三年十一月陸軍省第二百十九號備員以下給料支給規則備給表中門番ノ次へ左ノ一畫ヲ加フ
明治二十四年三月二十三日 陸軍大臣伯耆大山 巖

牧手

拾五錢以上五拾錢迄

○海軍省達第五十一號

艦營需品出納規程ヲ廢シ需品經理規程左ノ通定ム

但需品定額表需品制限表ハ別ニ頒布シ靜動索及滑車定額表貸與品表ハ當分從前ノ通施行ス

明治二十四年三月二十三日

海軍大臣子爵樺山資紀

需品經理規程

總則

- 第一條 需品トハ艦團隊機關學校及大學校兵學校鎮守府知港事所屬ノ船舶ニ供給スル物品ヲ總稱ス
- 第二條 需品定額表中航海長主管ニ屬スル測量用品及消耗品ハ鎮守府測器主管ヨリ供給シ圖書ハ鎮守府文庫ヨリ供給シ其他ノ需品ハ艦營需品倉庫ヨリ供給ス
- 第三條 需品ハ定額品豫備品消耗品ノ三種ニ班別シ需品供給應ニ於テハ經常供給スル物品ト準備品トヲ區分シ保管ス可シ
- 第四條 需品供給應ニ於テハ前條ニ掲グルモノ、外貨與品ヲ置キ艦團隊校應ニ於テ臨時ノ須要アルトキ貸與スルノ用ニ供ス可シ
- 第五條 艦團隊校應ニ供給スヘキ需品ノ供給額ハ各需品定額表靜動索及滑車定額表ニ據リ貸與品ハ貸與品表ニ據ル
- 第六條 需品定額表ニ掲グル豫備品ニシテ船體機件汽機汽籠ニ取附クルノ用ニ供スル爲メ供給シ

第七條 需品及靜動索及滑車定額表ニ據リ供給シタル需品ハ艦船附屬物トス

第八條 準備品ノ貯藏額ハ須要ニ依リ別ニ之ヲ定ム

第九條 艦團隊校應ニ於テハ需品ノ主管者及分擔者ヲ置キ需品出納ノ事ヲ取扱ハシムヘシ

大學校兵學校機關學校ニ在テハ校長ニ於テ主管者及分擔者ヲ定メ知港事應ニ在テハ副知港事ヲ主管者トシ知港事ニ於テ其分擔者ヲ定ムヘシ但校長知港事ニ於テ主管者分擔者ヲ定メタルトキハ其職氏名ヲ需品供給應ノ所屬鎮守府司令長官ニ報告ス可シ

主管者

分擔者

- 砲術長
- 水雷長
- 航海長
- 機關長
- 主計長
- 先任主帳
- 掌水雷長
- 掌帆長
- 船匠師
- 機關師

第十條 艦團隊校應ニ於テ需品ノ主管者若クハ分擔者不在若クハ其他ノ事故ニ因リ事務ヲ執ルコト能ハサルトキハ該長ニ於テ他人ニ其代理ヲ命スルコトヲ得但代理ヲ命シタルトキハ供給應ノ所屬鎮守府司令長官ニ代理者ノ職氏名ヲ通報スヘシ

第十一條 需品ハ定額表ニアル名稱ヲ用ヒ品種ハ圖式ニ據ルヘシ若シ艦裝或ハ構造ヲ異ニスルカ

爲メ圖式ニ據リ難キモノアルトキハ其原品種ニ據ルモノトス

第十二條 大學校所屬船ノ需品ハ横須賀鎮守府ヨリ供給シ兵學校所屬船ノ需品ハ吳鎮守府ヨリ供給スルモノトス

第十三條 需品ハ鎮守府軍港内ニ於テ授受シ石炭ハ炭庫所在地ニ於テ授受スルヲ例トス

豫算

第十四條 需品費ノ豫算ハ第二局長之ヲ統理シ同局長ニ於テ決定豫算配賦ノ順序ヲ爲スモノトス

第十五條 鎮守府司令長官需品豫算ノ事ニ付第二局長ヨリ照會ヲ受クルコトアルトキハ要求ノ期日マテニ詳細ノ回答ヲ爲ス可シ

第十六條 鎮守府司令長官需品豫算額ノ配賦ヲ受ケタルトキハ第一號書式ニヨリ豫算額別額ヲ艦隊校廳長ニ告知スヘシ

第十七條 在役艦豫備艦又ハ非役艦トナリタルトキハ鎮守府司令長官ニ於テ適宜豫算額別額ヲ削減シ在役艦トナリタルトキ更ニ相當額別額ヲ告知スヘシ

第十八條 豫備艦非役艦タルノ間ハ須要ニ應ジ鎮守府司令長官ニ於テ適宜該艦船ノ消耗品供給額及豫算額別額ヲ定メ豫備艦長若クハ該需品ヲ主管スヘキ當該官ニ告知スヘシ

供給

第十九條 鎮守府司令長官ハ主計部長ヲシテ需品須要ノ緩急ヲ計量セシメ配賦セラレタル豫算ヲ以テ需品ヲ購買準備供給セシムヘシ

第二十條 鎮守府司令長官艦隊校廳ニ於テ豫算額別額ノ流用供給ヲ要シ若クハ豫算額別額外ノ供給ヲ要シ必要ト認メタルトキハ其流用供給ヲ爲サシメ若クハ需品制限表ノ範圍内ニ於テ額外供給ヲ爲サシムルコトヲ得

第二十一條 外國ニ航行スル艦船アルトキ若クハ臨時船舶ノ使用ヲ要スルコトアルトキハ鎮守府

司令長官之ニ適宜需品ヲ供給スルコトヲ得但之ヲ供給シタルトキハ其詳細ヲ第一局長ニ通知スヘシ

第二十二條 鎮守府司令長官非常急迫ノ場合ニ臨ミ需品制限表外ノ物品供給ヲ必要ト認メタルトキハ臨時機處分シ後チ其事由ヲ具シ大臣ニ報告スヘシ

第二十三條 鎮守府司令長官ハ需品供給ノ結果ニヨリ需品定額表又ハ貸與品表ニ増減更訂ノ必要ヲ認メタルトキハ第二局長ニ協議スヘシ

第二十四條 第二局長ハ前條ニ依リ鎮守府司令長官ヨリ協議ヲ受ケタルトキハ其要否ヲ審査シ大臣ノ意ヲ受ケ増減更訂ノ順序ヲ爲スヘシ

第二十五條 兵備品出納命令官ハ艦隊校廳ノ要求ニ依リ豫算額別額範圍内ノ需品ヲ供給シ又ハ貸與品ヲ適宜貸與スルコトヲ得

第二十六條 兵備品出納命令官第二十一條ノ需品供給ノ要求ヲ受タルトキハ豫算ノ現況供給ノ要否ヲ調査シ司令長官ノ指撥ヲ受ケ處分スヘシ

第二十七條 兵備品出納命令官貯藏品ノ内品種ノ變換ニ據リ廢物ニ屬シ又ハ還納物品等ニシテ供用ノ見込ナキモノハ不用物品トシ司令長官ノ指揮ヲ受ケ適宜處分スヘシ

第二十八條 兵備品會計官吏ハ需品出納原簿(第一號第三號書式)需品額別額供給原簿(第四號書式)貸與品原簿ヲ製シ各之ヲ區別シ出納ス可シ

第二十九條 兵備品會計官吏ハ兵備品出納命令官ノ命令アルニ非サレハ需品ヲ出納スルコトヲ得ス

第三十條 兵備品會計官吏需品ノ要求ヲ受ケタルトキハ要求票(第五號書式)及領收票(第六號書式)ニ命令官ノ捺印ヲ受ケ物品ノ還納ヲ受ケタルトキハ還納票(第七號書式)ニ命令官ノ捺印ヲ受ケ出納シ需品ヲ供給スルトキハ現品ニ供給票(第八號書式)ヲ添付シ還納品ニハ(第九號書式)

領收票ヲ發スヘシ又貸與品ヲ貸與シタルトキハ借用證書ヲ徵シ置クヘシ
 第三十一條 貯藏品ノ内數量ニ自然ノ減量ヲ生シ又ハ腐敗シタルモノアルトキハ兵備品會計官吏
 其事實ヲ證明シ出納命令官ノ命令ヲ受ケ處分スヘシ
 第三十二條 兵備品會計官吏第四十條ニヨリ他管ノ艦船ニ需品ヲ供給シ其艦船ヨリ本管鎮守府倉
 庫宛ノ報告ヲ接受シタルトキハ其報告ヲ以テ其都度保管ノ轉換ヲ爲シ還納品ヲ受ケタルトキハ
 第十號書式ニ依リ其艦船本管鎮守府兵備品會計官吏へ通牒スヘシ但保管轉換ヲ受ケタルトキハ
 領收票(第八號書式)ヲ發スヘシ
 第三十三條 兵備品出納命令官ハ一年度間一回需品原簿ト貯藏品ノ現在トヲ對照シ其検査ヲ爲ス
 ヘシ

需用

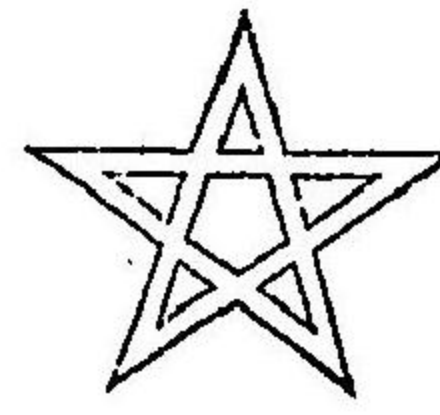
第三十四條 艦團隊校廳長ニ於テ當該年度豫算類別額ノ告知ヲ受ケタルトキハ各主管者ヲシテ之
 ヲ需品類別額差引簿(第四號書式)ニ登錄セシムヘシ
 第三十五條 艦團隊校廳ニ於テ需品ヲ要求スルトキハ豫算類別額範圍内ニ限り適宜要求スルコトヲ
 得
 第三十六條 艦團隊校廳ニ於テ需品ヲ要シ豫算類別額内ニ於テ之ヲ支辨スルコト能ハサルトキハ
 他類別額ヲ流用シ其供給ヲ求ムルコトヲ得
 第三十七條 艦團隊校廳ニ於テ前條ニ依リ類別額ノ流用供給ヲ要求スルニ當リ定備品豫備品ハ流
 用スルコトヲ得但定備品豫備品ト消耗品トヲ流用シ又ハ他主管ノ類別額ヲ流用スルコトヲ得ス
 第三十八條 艦團隊校廳ニ於テ第三十六條ニ依リ需品ノ流用供給ヲ要シ又ハ靜動索及滑車定額表
 ニ據リ必要需品ノ供給ヲ要求スルトキハ其事由ヲ詳記シ鎮守府司令長官ニ要請シ認可ヲ受クヘシ
 第三十九條 艦團隊校廳ニ於テ需品ヲ要求スルトキハ要求票(第五號書式)及領收票(第六號書式)

ヲ作り需品供給應ニ要求スヘシ貸與品ハ其要スル事由ヲ詳記シ借用證書ヲ添へ要求スヘシ
 第四十條 在役艦ハ何レノ鎮守府ニ於ケルモ需品ヲ要求シ又ハ還納スルコトヲ得但需品ヲ領收
 シタルトキハ第十一號書式ニ依リ報告ヲ調製シ其需品供給應ニ送付スヘシ
 第四十一條 在役艦年度外ニ接シ航海セントスルトキ其年度内ノ豫算類別額ヲ以テ支辨シ難キ場
 合ニ限リ航海ニ必要ナルモノハ翌年度額ヲ繰上ケ前渡ヲ要求スルコトヲ得前渡ハ前年度豫算類
 別額ノ半額ヲ超過スルコトヲ得但外國ニ航行スルトキハ此限ニ在ラス
 第四十二條 航海ノ役務ニ服セザル艦船及團隊校廳ニ於テハ豫算類別額ノ三分ノ一以上ノ需品ヲ
 一時ニ要求スルコトヲ得ス
 第四十三條 艦團隊校廳ニ於テ需品ヲ領收シタルトキハ供給票ニヨリ需品豫算類別額差引簿へ受
 込、其品數價格ヲ登記シ差引現殘額ヲ明瞭ニスヘシ
 第四十四條 艦團隊校廳ニ於テ消耗品ノ損敗シ又ハ定備品ノ毀損シタルモノアルヲ認メタルトキ
 ハ其事由ヲ詳記シ鎮守府司令長官ニ届出テ其物品ハ倉庫ニ還納スヘシ
 第四十五條 艦團隊校廳ニ於テ需品ヲ亡失シタルトキハ其事由ヲ詳記シ本管鎮守府司令長官ニ届
 出ヘシ
 第四十六條 艦船航海中ニ在テ消耗品ノ自然腐敗シ衛生上ニ害アリ格護シ難キト認ルモノアルト
 キハ艦船長臨機ノ處分ヲ爲シ本管鎮守府司令長官ニ届出ヘシ
 第四十七條 艦隊司令長官用ノ需品ハ艦船ノ主管者ニ於テ本艦用ト區別整理スヘシ
 第四十八條 在役艦豫備艦又ハ非役艦トナリ倉庫へ需品ヲ收藏シタルトキハ在任中ノ主務者ニ於
 テ簿册ヲ整理シ豫備艦長又ハ該需品ヲ主管スヘキ當該官ニ移スヘシ
 第四十九條 外國ニ航行ヲ命セラレタル艦船外國ニテ需品ヲ購買シ又ハ其讓與ヲ受ケタルコトア
 ルトキハ其品種數量代價及其事由ヲ詳記シ本管鎮守府司令長官ニ届出テ本管鎮守府司令長官ハ

陸軍會計經理	會計法會計規則(附會計部條例)計部條例(附被服條例)總務部條例(附陸軍會計)第三十二條以下)陸軍給與令(陸軍給與令細則)陸軍給與令ニ關スル委任經理 各隊金糧條例(附陸軍給與令)陸軍給與令(附被服條例)
作文	論、說
算學	理論及例式 商用算學原論 陸軍算學之助著 比例(單複) 平方、代數(二次方程式) 幾何(平面)
外國語學	英佛獨ノ内 歐文和語

○陸軍第四十二號
陸軍々屬平戰兩時共團隊ニ附屬スルトキハ左ノ徽章ヲ上衣及外套ノ左臂ニ附著スヘシ
但委任官ハ金線判任官ハ銀線備人ハ緋絨トス
明治二十四年三月二十五日
陸軍大臣伯爵大山 巖

臂章圖



星形ノ中心ヨリ尖端ニ至ル長
サヲ八分トシ品質ヲ固ハス線
ノ幅ヲ一分五厘トス

○海軍省達第五十二號
艦隊校及知港事所屬船用品定額表別冊ノ通改正ス
但別冊ハ之ヲ要スル艦隊校廳ノミ第二局ヨリ送附ス (別冊略ス)
明治二十四年三月二十五日
海軍大臣子爵樺山資紀

○海軍省達第五十三號
明治二十三年三月二十六日通追加ス

明治二十四年三月二十六日
七 艦長ノ下及副長ノ三字ヲ加フ
十三 參謀官及參謀部出仕奉職中ノ大尉

○海軍省達第五十四號
明治二十三年三月二十九號通常物品出納命令官會計官吏表中鎮守府ノ部橫須賀造船材料云々ノ欄ノ前ヘ左ノ一欄ヲ追加シ命令官材料課長ノ上ニ在ル品名ノ内造船用機械器具ノ七字ヲ削除ス

明治二十四年三月二十六日
海軍大臣子爵樺山資紀

艦	名	品	名	出納命令官	會計官吏
鎮守府	造船用機械器具	造船部	長	造船部	關係ノ中

○海軍省達第五十五號
五等水兵教育規則中第三條左ノ通改正ス

明治二十四年三月二十六日
第三條 五等水兵ノ學期ハ十二箇月トシ之ヲ三期ニ分チ每期ヲ四箇月トス其學科ハ左ノ如シ

海軍大臣子爵樺山資紀

學期	本	科	科	目
節	用	運	節	目
				全體各部及其屬具ノ名稱 端舟種類及其各部ノ名稱 諸器材及諸帆ノ名稱 助索及靜索ノ名稱 器庫及器庫類ノ名稱 結索請法及其用法 器庫器化及修補法

第三期ノ學科ハ先ツ碇泊中ニ於テ教授シ然ル後之ヲ實地ニ於テ行ハシムルヲ要ス
第三期練習中帆前運轉ノ時間ハ百八十時以上ナルヲ要ス而シテ稍共業ニ熟スルトキハ航海夜直
ノ勤務ヲモ爲サシム可シ

善行章條例海軍刑法懲罰令敬禮式習字衣服裁縫水泳ハ適宜ノ時間ヲ以テ教授セシム

○海軍省達第五十六號

五等信號兵教育規則左ノ通定ム

海軍大臣子爵樺山資紀

明治二十四年三月二十六日

五等信號兵教育規則

第一條 五等信號兵ハ海兵團ニ於テ教育スルモノトス

第二條 五等信號兵入營スルトキハ分隊長ヲシテ先ツ軍人ノ本分即チ勅諭ノ大旨ヲ教諭セシメ教
員ヲシテ左ノ事項ヲ教授セシム

第一 衣服著裝及姿勢

第二 釣床取扱方及衣囊手箱ニ關スル心得

第三 武官階級徽章敬禮式ノ要領

第四 營内證規則

第三條 五等信號兵ノ學期ハ十二箇月トシ之ヲ四期ニ分テ每期ヲ三箇月トス其學科ハ左ノ如シ

學期	科目	目
第一期	禮號及書方 音吹則及符號	
第二期	普通信號旗及其寸法並諸旗號條結 片假名信號	

期	科目	目
第一期	武 運 用 術	手歌體操 銃隊操式生兵第一部第一章第一教第二教第三教 信號索及信號用常車ノ名稱
第二期	別 科	兵要日本地理小誌
第三期	本 科	禮號及書方 諸號及一般隊號證名號
第四期	信 號	セマホア信號 艦隊運動信號旗及其寸法 諸發信號
第五期	武 用 科	銃隊操式第一部第二章第一教第二教第三教 圓材諸帆名稱並「リギン」昇降裝置 船舟種類及各部ノ名稱 船舟機酒
第六期	別 科	日本小史
第七期	算 術	諸算小數
第八期	木 科	口課並諸號音譜吹奏 諸招呼聲吹奏

本須備附兵器、彈藥ハ當該砲兵方面提理之ヲ管理シ且保管ノ責ニ任ス
支須及官衛生健隊若クハ教導隊ヲ編成セザル候國所 備附兵器、彈藥ハ當該砲兵方面提理之ヲ管
理シ同支署長保管ノ責ニ任ス

軍隊學校備附兵器、彈藥ハ其所管長官之ヲ管理シ當該隊長若クハ校長保管ノ責ニ任ス
第五條 軍隊ニ在テハ兵器、彈藥ノ整理ヲ掌ラシムル爲メ左ノ兵器委員ヲ置キ該隊長之ヲ撰任ス
委員首坐 少佐若クハ大尉(砲兵ニ在テハハ武器主管)一人
委員 大尉若クハ中少尉 一人乃至三人

軍樂隊及學校ニ在テモ本條ニ準シ適宜委員ヲ設クヘシ
第六條 隊長ハ保管兵器、彈藥整理一切ノ責ニ任シ兵器委員ヲシテ各共事務ヲ擔當セシム

第七條 首坐委員ハ隊長ニ對シ兵器、彈藥整理ノ責ニ任シ委員ヲ指揮シ兵器、彈藥費ノ經理事務ヲ
整頓スルモノトス

委員ハ兵器、彈藥ノ交換貯藏保全工場ノ監視、修理品及陳簿ノ檢査ヲ掌ルモノトス
委員ハ下士若干名ヲ撰ミ隊長ニ申請シ之カ助手トシテ雜務ニ服セシム

第三章 費用

第八條 兵器、彈藥ニ關スル費用ハ大別シテ兵器費、彈藥費、運搬費トシ之ヲ細別スル左ノ如シ

兵器費	新	調	修
彈藥費	新	調	修
運搬費	新	調	修

兵器費
兵器新調費
兵器修理費
兵器手入費

彈藥費
彈藥新調費
彈藥修理費
彈藥手入費

運搬費
兵器運搬費
彈藥運搬費

新調費ハ新設増設ノ爲メ若クハ新規支給ノ爲メ新調スル費用、繼續費及補給費ハ既ニ完備セシ
モノヲ繼續若クハ補給スル費用、修理費及手入費ハ破損品ノ修理若クハ保管品ノ手入ヲナス費
用、運搬費ハ支給、交換、修理品ヲ運搬スル費用トス

第九條 砲兵方面本署ノ管理スル費用左ノ如シ
兵器彈藥新調費
第一、第二類兵器繼續費
彈藥補給費

保管兵器、彈藥修理手入費
兵器、彈藥運搬費

第十條 砲兵方面支署ノ管理スル費用左ノ如シ
保管兵器、彈藥繼續費
保管兵器、彈藥修理手入費

保管兵器、彈藥運搬費
兵器、彈藥運搬費

第十一條 軍隊並學校ノ管理スル費用左ノ如シ
保管兵器、彈藥繼續費
保管兵器、彈藥修理手入費

保管兵器、彈藥運搬費
保管兵器、彈藥修理手入費

第十二條 砲兵方面本署若クハ支署ノ設ナキ地ニ屯在スル軍隊、學校ノ修理品及修理ニ要スル物
品本署支署ヲ經テ運搬費ハ當該砲兵方面本署若クハ支署ヨリ支辨スルモノトス
赴任ノ際佩用セン刀劔ノ搬送ニ要スル費用ハ當該砲兵方面支署ノ兵器、彈藥運搬費ヲ以テ支辨
スルモノトス

第十三條 軍隊、學校ニ在テ費用ノ仕拂ヲ要スルトキハ首坐兵器委員ノ承認セシ證書ヲ以テ仕拂

ノ手續ヲ爲ス可シ但金櫃委員ノ設ケアル所ニ在テハ其證書ヲ該委員ニ送付スルモノトス

第十四條 兵器製造購買 彈藥ノ製造ハ陸軍大臣之ヲ砲兵工廠ニ命シ其費用ハ砲兵方面本署ヨリ支出セシム

第十五條 兵器修理費ニ關スル 彈藥ノ購買ハ陸軍大臣之ヲ砲兵方面本署ニ命シ買收セシム

第十六條 繼續費ニ關スル 第三類兵器ノ製造及購買ハ砲兵方面本署若クハ支署ヨリ直ニ砲兵工廠若クハ同派出所ニ注文シ又ハ他ヨリ買收ス

第五章 新調修理手入

第十七條 軍隊及學校ハ工場ヲ設ケ制限内ノ兵器ヲ修理ス

制限外ノモノ及制限内ノモノト雖トモ軍隊學校ニ於テ修理シ能ハサルモノハ砲兵工廠或ハ同派出所ニ於テ修理スルモノトス

軍樂器ニ關スル修理ニ在テハ本條ノ例ニ依ラス當該隊長若クハ學舎長適宜調辨スヘシ

第十八條 制限外又ハ軍隊學校ニ於テ修理シ能ハサル兵器ノ修理及第三類兵器ノ新調ハ兵器委員其品目圖數表ヲ製シ隊長捺印ノ上軍隊ニ在テハ砲兵方面支署ヲ經テ砲兵工廠派出所東京大砲兵工廠ニ學校ニ在テハ砲兵方面本署ヲ經テ砲兵工廠ニ托スルモノトス

遺失代品ニ關スル新調ニ在テモ本條ニ準ス

第十九條 軍隊學校ニ於テ修理ニ要スル物品ハ兵器委員必需ノ數ヲ計リ隊長若クハ校長ノ許可ヲ得テ之ヲ購買スルコトヲ得

本條ノ場合ニ於テ軍隊ニ在テハ砲兵方面支署ヲ經テ砲兵工廠派出所東京大砲兵工廠若クハ他ヨリ學校ニ在テハ砲兵方面本署ヲ經テ砲兵工廠若クハ他ヨリ買收スルモノトス但兵器ノ一部ニ屬スルモノハ外ハ本支署ヲ經ス直ニ買收スルモ妨ケナシ

第二十條 修理器具ハ備用品ノ外一切他ノモノヲ使用スルヲ許サス

修理器具ノ戰時平時ニ通スルモノハ豫メ區別セサルモノトス

第二十一條 總テ兵器ハ軍隊學校ニ於テ新調スルヲ許サス但螺桿、割栓、管環、扣革等ノ如キ輕易ノモノハ修理ノ扱ヒヲ以テ處辨スヘシ

軍隊學校ニ於テ修理ヲ行フニ當リ軟過健淬シテ定期ノ尺度形狀ヲ變更シ及ヒ毀損品ノ他ヲ削除穿開シテ變形シ若クハ鏽著部ニアラサル部分ノ破損セル者ヲ鏽著シテ修治スルヲ許サス

第二十二條 前條ノ外軍隊學校ニ於テ修理ヲ許サ、ル細目ヲ舉クレハ左ノ如シ

一 小銃拳銃之部

銃身、銃腔藥室、底筒、輪筒、切段部、逆鉤部、撥軌銃床、劍身、照星、照尺及著色

一 火砲之部

砲身、砲腔藥室、閉鎖機、同室、固定環、火門、照星及表尺室

一 砲架、車輛並屬品之部

側板、砲耳室、車軸、車輪、轆木、引棒、表尺、象限儀、假標器及卷尺

一 馬具之部

鞍骨及穹木

第二十三條 砲兵方面支署備附支須兵器、彈藥ノ手入ハ該地屯在軍隊ノ兵卒ヲ以テスルモノトス故ニ支署長ハ所要ヲ計リ便宜ヲ致シ使役人員ヲ定メ衛戍司令官ニ請求スヘシ但砲兵方面武庫ニ在テハ武庫附下士ヨリ直ニ請求スルコトヲ得

第六章 支給、交換

第二十四條 左ニ掲グルモノハ砲兵方面提理之ヲ支給ス

法令ニ基テ新規支給

第二類兵器ノ支給、交換

兵器、彈藥表ニ基テ支給

但遺失代品ニ關スル支給ハ第一類兵器屬品ハ此限ヲ除クノ外總テ各保管スル隊長若クハ校長之ヲ補充スヘシ

第二十五條 第一類兵器ハ保存期限ヲ定メス全ク其用ニ堪エサルニ至ラサレハ交換スルコトナシ但共交換ハ毎年六月十二月ノ兩期ニ於テス

第二類兵器ハ其保存期限ニ準シ毎年六月支給交換スルモノトス(附表其二)

第三類兵器ハ保存期限ニ拘ハラズ保管スル砲兵方面支署若クハ軍隊、學校ニ於テ整備スルモノトス

砲藥ハ軍隊ニ在テハ砲兵方面支署ヨリ學校ニ在テハ同本署ヨリ毎年十二月ニ於テ定數ヲ支給ス

第二十六條 砲藥ハ總テ完成品ヲ支給ス故ニ其搬賣材料ハ當該砲兵方面本支署ヨリ出シ砲兵工廠或ハ同派出所ニ於テ填實スルモノトス但野砲及山砲用空包並炸藥ハ當該軍隊若クハ學校ニ於テ填實スルモノトス

備附表ニ依リ年々軍隊ニ支給スルハ小銃空包並狹窄射擊用彈藥ハ填替材料ヲ軍隊ニ給シ該隊ニテ填實スルモノトス

第二十七條 砲藥ハ製作ノ舊キモノヨリ使用スルヲ法トス故ニ左ノ順序ニ從ヒ新陳交換、支給ス

軍隊ニ在テハ備附彈藥ヲ演習ニ使用シ其補充ハ第二支須ヨリ支給シ第二支須ノ補充ハ第一支須ヨリ第一支須ノ補充ハ本須ヨリ本須ノ補充ハ新製ノモノヲ以テス但填替材料ハ直ニ第一支須ヨリ支給ス

學校ニ要スル彈藥ハ本須ヨリ直ニ支給シ本須ノ補充ハ新製ノ彈藥及填替材料ト學校ヨリ返納シ來ル彈藥トヲ以テス

第二十八條

第一類兵器ノ交換及遺失代品ニ關スル第一類兵器屬品ノ請求ハ保管スル校長若クハ隊長ヨリ監軍若クハ近衛都督師團長ニ上申シ該長官ハ砲兵方面提理若クハ支署長ノ檢定書

遺失代品ノ理由書ヲ添ヘ陸軍大臣ニ移牒若クハ申請スヘシ

屬品並銃床、照尺、鞍木等ノ如キ兵器ノ一部ヲ爲スモノ、交換及請求ハ修理ノ扱ヲ以テ處辨スヘシ

第七章 返納

第二十九條 軍隊及學校ニ於テハ演習ノ終リニ必ス小銃ノ藥莖ヲ洗淨シテ之ヲ乾燥シ左ノ順序ニ從テ返納スヘシ

實包用藥莖ニ在テハハ毎年十二月ニ於テ當該砲兵方面支署ニ在テハ本署ニ返納スヘシ藥莖ノ減耗ハ支給數ノ百分ノ五ヲ超過スルヲ許サス

軍隊備附空包用藥莖ハ毎年十二月ニ於テ備附數ヨリ當年ノ減耗數ヲ減シタルモノ、六分一ヲ返納シ備附數六分一ノ支給ヲ受クルモノトス但減耗ハ實包ノ例ニ準ス

第二十條 藥莖ヲ返納スルニ當リ其減耗百分ノ五ヲ超過スルトキハ其事由ヲ所管長官ニ具申シ該長官ハ之ヲ陸軍大臣ニ移牒若クハ申請スヘシ

第八章 廢兵器、彈藥ノ處分

第三十一條 兵器、彈藥ハ全ク其用ニ堪エサルモノニアラサレハ廢品トナスヲ得ス故ニ修理ヲ加ヘ尙ホ用ニ堪エサルモノハ本須及支須兵器ニ充ツヘシ

第三十二條 廢品ニ屬スル兵器、彈藥ハ總テ砲兵方面本署若クハ支署ニ於テ賣却スルヲ法トス但第一類兵器ヲ賣却スルトキハ陸軍大臣ノ認可ヲ經ルモノトス

本署支署ナキ地ニ在テハ當該軍隊學校ニ於テ賣却セシムルコトヲ得

第三十三條 軍隊、學校ニ於テ廢兵器、彈藥ヲ賣却スルハ砲兵方面提理若クハ同支署長巡迴ノ時之

考 備

一 本表ノ保存年數ニ據テ交換支給スルモノハ備附兵器、彈藥裝中本須支須及戰時備制ニ要スル部
隊ヲ除キタル員數ニ基クモノトス但平時豫備隊用ノモノニハ支給セズ

一 學校ニ在テ生徒隊若クハ教練隊附ノモノハ本表軍隊附ノモノニ準ス

一 士官候補生分遣中其生徒用トシテ學校ニ備附アルモノハ軍隊備附ニ準ス

一 支給スルニ力リ保存年數ニテ除シ盡サレサル端數ハ四捨五入ノ算法ニ據ル但シ繼續總數一箇ニ
充テサルモノハ此限リニアラス

一 保存年數ニ據テ分數支給ヲ受クルニ當リ其品目ヲ取換ヘ支給ヲ受クルコトヲ得但此場合ニ在テ
ハ前々年度ノ未迄ニ當該砲兵方面本署ニ申出スヘシ

○陸軍第四十四號

士官背囊制式別紙ノ通改正ス其調製期限ハ來ル二十五年一月迄トス
但各部士官ハ背囊ヲ用ヒス携帶器ヲ用フ其制式及調製期限ハ士官背囊ニ同シ (別紙略ス)

明治二十四年三月二十七日 陸軍大臣伯爵大山 巖

○海軍省達第五十七號

造兵廠附屬製藥工場ヲ火藥製造所ト改稱シ所内一般ノ取締ハ火藥科長ヲシテ擔任セシム

明治二十四年三月二十八日 海軍大臣子爵樺山資紀

○海軍省達第五十八號

明治二十一年十一月達第百二十九號武文官以下公務上旅行ノ手續ヲ廢ス

明治二十四年三月二十八日 海軍大臣子爵樺山資紀

○海軍省達第五十九號

鎮守府司令長官艦隊司令長官及大臣ニ直隸スル各廳長ハ旅費ノ豫算定額内ニ於テ部下委任官以下
諸員ニ旅行ヲ命スルコトヲ得但部下委任官以下諸員ノ旅行ハ其事由日數ヲ記載シ毎月未報告スル
モノトス

鎮守府司令長官艦隊司令長官及大臣ニ直隸スル各廳長及勅任官ノ公務上旅行ハ其都度伺出ツ可シ

明治二十四年三月二十八日 海軍大臣子爵樺山資紀

○海軍省達第六十號

下士卒喇叭ヲ携フルトキノ敬禮左ノ通心得ヘシ

明治二十四年三月二十八日

海軍大臣子爵樺山資紀

下士卒喇叭ヲ携フルトキハ紐ヲ頸ニ掛ケ右手ノ四指ヲ接シ拇指ヲ上ニシ喇叭ノ後身ト前身トヲ
握リ接著管ヲ右手ノ脈部ニ接シ漏斗狀ノ邊端ヲ右 骨下部ニ當テ口管ヲ右足尖ノ方向ニ一致セ
シメ之ヲ水平ニ保持シ臂ハ自然ニ體ニ接著シ注意ノ姿勢ヲ執ルヘシ

○海軍省達第六十一號

明治二十三年三月達第百二十九號兵備品出納命令官武庫主管會計官吏表中造兵廠ノ部會計官吏ノ欄
「倉庫主管」トアルヲ「倉庫課長」ト改メ通常物品出納命令官會計官吏表中造兵廠ノ部會計官吏ノ欄
「材料主管」トアルヲ「會計課次長」ト改ム

明治二十四年三月二十八日 海軍大臣子爵樺山資紀

○陸軍第四十五號

明治二十年六月陸軍第八十二號大小架橋縱列器具材料員數表並配賦表中左ノ通改正追加ス

明治二十四年三月三十日 陸軍大臣伯爵大山 巖

一員數表中左ノ如ク改ム

荷 造 種	三六二	一、〇五四	一四一六
荷 造 種 (豫備ノ分)	一〇	一〇	

小架橋ニ在テハ十二條ヲ負荷材結束網ニ七
十條ヲ土蓋橋ニ用ヒ十條ヲ檢點トシ大架橋
ニ在テハ四十條ニ百三十條ヲ檢點トシ大架橋
同斷ノ用ニス他ハ諸材料ノ結束ニ用ニ

○陸軍第四十六號

一配賦表中工具分隊區區内土蓋橋三五、一馬ノ負擔數三五ノ次行ニ左ノ一行ヲ加フ

明治二十四年三月 陸軍省第六十號 第六十一號 陸軍省陸軍第四十五號 陸軍第四十六號

明治二十年六月陸達第八十二號大小架備列材料器具結束及納置法別冊ノ通定ム (別冊略ス)
明治二十四年三月三十日 陸軍大臣伯爵大山 巖

○會計検査院達第三號
郵便爲替貯金出納計算證明規程左ノ通定ム
明治二十四年三月三十日

會計検査院長子爵渡邊昇

郵便爲替貯金出納計算證明規程
第一條 郵便爲替貯金出納官吏ノ證明スヘキ計算書ハ爲替貯金出納ニ係ルモノハ第一號書式ニ貯金出納ノミニ係ルモノハ第二號書式ニ依リ之ヲ調製シ年度經過後二箇月以内ニ郵便爲替貯金局長ニ送付スヘシ

第二條 出納證明上證據書トシテ郵便爲替貯金局長ノ提出スヘキモノ左ノ如シ
一 第四號書式ニ依リ郵便爲替取扱所ニ於テ調製シタル爲替貯金精算書
二 第五號書式ニ依リ郵便貯金預所ニ於テ調製シタル貯金精算書
三 爲替貯金監督員ノ執行シタル實地検査ノ證明書
四 第六號書式ニ依リ調製シタル外國爲替金明細書

第三條 下検査官吏ハ計算書證據書ノ下検査ヲ完了シ翌年度九月十五日以内ニ其廳ヲ發シ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ

第四條 下検査書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ
一 計算書及證據書ノ件名册數
二 計數正確ノ保證

三 法規ニ背戻シ及事實ニ適合セスト認定セシ事項ノ事由及金額
第五條 審理書及報告書ハ總テ下検査官吏ヲ經由スヘシ
第六條 本規程ハ明治二十三年度ヨリ施行ス

明治何年度
爲替貯金計算書 (第一號)

摘要	收入高			支出高			備考
	資金受高	爲替振出高	貯金預り高	爲替拂渡高	貯金拂渡高	資金拂高	
四	0	0	0	0	0	0	
五	0	0	0	0	0	0	
六	0	0	0	0	0	0	
七	0	0	0	0	0	0	
八	0	0	0	0	0	0	
九	0	0	0	0	0	0	
十	0	0	0	0	0	0	
十一	0	0	0	0	0	0	
十二	0	0	0	0	0	0	
十三	0	0	0	0	0	0	
計	0	0	0	0	0	0	
	收入合計高			支出合計高			
	0			0			
	越			殘			
	0			0			

明治何年度爲替貯金計算書面ノ通相違無之候也
明治何年何月何日 何郵便電信局出納官吏氏名印
會計検査院長宛

前年度ヨリ起高		残高	
円	角	円	角
0	0	0	0
0	0	0	0
0	0	0	0
0	0	0	0
0	0	0	0
0	0	0	0
0	0	0	0
0	0	0	0

明治何年度
郵便爲替貯金計算書

郵便爲替貯金局

(第三號)

明治何年度
貯金計算書

(第二號)

摘要	收入高		支出高		備考
	貯金預高	郵便資金受領高	貯金納付高	貯金拂渡高	
四 月 中	0	0	0	0	
五 月 中	0	0	0	0	
六 月 中	0	0	0	0	
七 月 中	0	0	0	0	
八 月 中	0	0	0	0	
九 月 中	0	0	0	0	
十 月 中	0	0	0	0	
十一 月 中	0	0	0	0	
十二 月 中	0	0	0	0	
計	0	0	0	0	
收入合計	0	0	支出合計	0	
起高	0		残高	0	
	0			0	

明治何年度貯金計算書面ノ通相違無之候也
 明治何年何月何日 何郵便電信局出納官吏氏名印
 會計検査院長宛

明治二十四年三月 逓 會計検査院第三號

明治何年度郵便為替貯金計算書面ノ通相違無之候也 明治何年何月何日 郵便為替貯金局長氏名印 會計検査院長宛	現					
	中央金庫為替金 收入額			中央金庫貯金 収入額		
	千	百	十	千	百	十
	0			0		
	0			0		
	0			0		
	0			0		
	0			0		

一三六

貸												方											
計												計											
分局現金収入額				郵便局、為替取扱所、貯金所、現金収入額				計算科目振替勘定				計				前年度ヨリ越高							
千	百	十	圓	千	百	十	圓	千	百	十	圓	千	百	十	圓	千	百	十	圓	千	百	十	圓
								0				0											
								0				0											
								0				0											
								0				0											
								0				0											
								0				0											

明治二十四年三月 逓 會計検査院第三號

一三六

明治何年度
貯金精算書

(第五號)

摘要	收入高			支出高			備考
	貯金預高	換取資金受領高	資金受領高	貯金納付高	貯金拂渡高	資金拂渡高	
四月	0	0	0	0	0	0	
五月	0	0	0	0	0	0	
六月	0	0	0	0	0	0	
七月	0	0	0	0	0	0	
八月	0	0	0	0	0	0	
九月	0	0	0	0	0	0	
十月	0	0	0	0	0	0	
十一月	0	0	0	0	0	0	
十二月	0	0	0	0	0	0	
計	0	0	0	0	0	0	
	收入合計		0	支出合計		0	
	越 高		0	殘 高		0	
			0			0	

明治何年度貯金出納計算書面ノ通相違無之候也

明治何年何月何日 何國何郡(市)某郵便貯金預所何某印

郵便貯金局長宛

明治何年度
爲替貯金精算書

(第四號)

摘要	收入高			支出高			備考
	資金受領高	爲替換出高	貯金預高	爲替拂渡高	貯金拂渡高	資金拂渡高	
四月	0	0	0	0	0	0	
五月	0	0	0	0	0	0	
六月	0	0	0	0	0	0	
七月	0	0	0	0	0	0	
八月	0	0	0	0	0	0	
九月	0	0	0	0	0	0	
十月	0	0	0	0	0	0	
十一月	0	0	0	0	0	0	
十二月	0	0	0	0	0	0	
計	0	0	0	0	0	0	
	收入合計		0	支出合計		0	
	越 高		0	殘 高		0	
			0			0	

明治何年度爲替出納計算書面ノ通相違無之候也

明治何年何月何日 何國何郡(市)某郵便爲替取扱所何某印

郵便爲替貯金局長宛

昭和二十四年三月 通商銀行第三號

外國為替貨

國名	受 入 金 額					支 拂		
	為替振込金額	歩合金額	振出為替戻金金額	合計	換算額	為替金額	振込金額	歩合金額
英國								
八月中	0	0	0	0	0	0	0	0
九月中	0	0	0	0	0	0	0	0
十月中	0	0	0	0	0	0	0	0
計	0	0	0	0	0	0	0	0
佛國								
第一期	0	0	0	0	0	0	0	0
第二期	0	0	0	0	0	0	0	0
第三期	0	0	0	0	0	0	0	0
計	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	0	0	0	0	0	0	0	0

一三三

幣交換差額

國名	金額		受拂差額		貨幣交換差額		備考
	振込為替戻金總額	合計	外貨	時價	換算額	差額	
受ノ部							
獨逸聯邦	0	0	0	0	0	0	
五十法廷	0	0	0	0	0	0	
七十五法廷	0	0	0	0	0	0	
百法廷	0	0	0	0	0	0	
第一期計	0	0	0	0	0	0	
五十法廷	0	0	0	0	0	0	
七十五法廷	0	0	0	0	0	0	
百法廷	0	0	0	0	0	0	
第二期計	0	0	0	0	0	0	
合計	0	0	0	0	0	0	
拂ノ部							
獨逸聯邦							
五十法廷							
七十五法廷							
百法廷							
第一期計							
五十法廷							
七十五法廷							
百法廷							
第二期計							
合計							

昭和二十四年三月 通商銀行第三號

一三四

明治何年度外國爲替金明細書面ノ通相違無之候也
 明治何年何月何日 爲替貯金局長氏名印
 合計検査院長宛

○海軍省達第六十二號

明治二十三年三月三十一日限リ廢止シ食料給與ノ件左ノ通定メ明治二十四年四月一日ヨリ施行ス

明治二十四年三月三十一日

海軍大臣子爵樺山資紀

判任官及傭人職工人夫 定時外服業ノ手當金若クハニシテ徹夜勤務使役スルトキ若クハ臨時非常ノ場合ニ於テ夜中勤務使役スルトキハ三錢以内ノ食料 現品又ヲ給與スルコトヲ得但宿直者若クハ夜中交番ヲ以テ不寢番ヲ爲ス者ニハ食料ヲ給スル限リニアラス

○陸軍省附屬第六十二號

明治二十二年十月陸軍省附屬第五十三號屯田兵隊附屬官服務規則並診斷所規程左ノ通改ム

但屯田兵監獄ニ於テモ之ニ準據スヘシ

陸軍大臣伯爵大山 巖

明治二十四年四月一日

屯田兵隊附屬官服務規則並診斷所規程

第一章 一等軍醫ノ職務

第一條 一等軍醫ハ所屬隊長ニ隸シ一般ノ定則ヲ遵奉シ該隊ノ衛生事務ヲ掌リ二三等軍醫以下ノ服務ヲ監視シ二三等軍醫不在ノ場合ニ於テハ尙第二章ノ事務ヲ兼掌ス

第二條 一等軍醫ハ衛生事務及教育上ノ事ニ就テハ屯田兵軍醫長ノ指揮監督ヲ承クルモノトス

第三條 一等軍醫ハ左ニ掲クル事項ヲ處理ス

- 一 患者ノ治療
- 二 兵屋糧食、被服及給水ニ係ル衛生ノ事項
- 三 衛生報告
- 四 藥物治療消耗品及治療器械調劑器械等ノ管理
- 五 傳染病流行病等ノ豫防
- 六 衛生部下士以下ノ訓導及教育ニ關スル事項

第二章 二三等軍醫ノ職務

第四條 二三等軍醫ハ該隊長及該隊一等軍醫ニ隸シ病室藥室及診斷所ノ事務ヲ擔任シ看護長ヲシテ細務ヲ分掌セシム

第五條 二三等軍醫ハ看護長以下ノ勤務行狀ヲ監視シ且其教育ノ事ヲ掌ル

第六條 二三等軍醫ハ其衛生事務及看護長以下ノ教育上ニ就テハ該隊附一等軍醫ノ指揮ヲ承ク

- 第七條 一、二等軍醫ハ尙左ニ掲クル事項ヲ掌リ且一等軍醫不正ノトキハ第一章ノ事務ヲ兼掌ス
- 一 毎朝日直軍曹不在ノトキハ上ノ引率シ來ル患者ヲ診斷シ之ヲ處置スヘシ
 - 二 前項ニ由リ患者ヲ診斷シタルトキハ傷疾疾病等差及就業休業入室快復ノ區別ヲナシ日直軍曹ヲシテ患者人名簿ニ其印ヲ捺サシメ後之ニ檢印スヘシ
 - 三 但就業トハ藥劑ヲ與フルト否トニ拘ラス本日ノ業ニ就カシムルモノ休業トハ諸勤務ヲ免シ自宅ニ於テ休息セシムルモノ入室トハ該隊ノ病室ニ入レ治療スルモノ快復トハ病ノ治シタルモノヲ云フ
 - 四 診斷スル所ノ患者ハ其等級、氏名、年齢、傷疾疾病等差、病名、治法及前項ニ掲クル四種ノ一ヲ診斷簿ニ記注ス而シテ傷疾疾病等差中一等症ハ現認證書又ハ之ヲ證スル公文ノ寫若クハ口供書ニ於テ之ヲ定ム
 - 五 患者ニ藥劑ヲ與フルニハ營内處方箋ニ其處方ヲ記シテ患者ニ附シ藥室ニ就キテ受領セシムヘシ又入室セシムルモノニハ必ス病床日誌及處方録ヲ添フヘシ
 - 六 入營倉ノモノ發病シタルトキハ日直士官ノ通知ニ由リ之ヲ診斷シ若シ重症ニ漸ムノ徵アリテ自宅或ハ入室療養等ヲ要スルトキハ日直士官ニ謀リテ之ヲ處置スヘシ
 - 七 傳染病流行病アルトキハ該隊長及一等軍醫ニ申告シ且下士以下ニ其豫防方法ヲ説示スヘシ
 - 八 常ニ兵屋及其近傍ヲ巡視シテ衛生上ニ注意シ若シ有害ノ事アルトキハ該隊長ニ申告シ或ハ一等軍醫ノ指揮ヲ承ケ除害方法ヲ圖ルヘシ
 - 九 糧食、被服、給水等ノ衛生ニ關シ不良ト認ムルモノアルトキハ其係員ニ協議シ又ハ該隊長ニ申告シテ之ヲ改良ヲ圖ルヘシ
 - 十 新兵移住シタルトキハ該隊士官立合ノ上細密ノ身體検査ヲ施行スヘシ

- 十 移住ノ者曾テ天然痘ニ罹リシヤ否ヲ調査シ未痘者及種痘後五箇年ハ此限ニアラス時ヲ經タルモノニハ之ニ種痘シ其成績ヲ所屬ノ隊ニ通報シテ本人手牒ノ痘畫ニ記入セシムルモノトス
- 十一 痘畫ヲ附ス
- 十二 定例ノ衛生報告ハ月報年報ノ二種トス其報告手續ハ別ニ定ムル所ニ據ル
- 十三 毎朝診斷ニ際シ看護長若クハ看護手ヲシテ豫メ診斷所ノ準備ヲ爲サシメ且患者ニハ服藥攝生ノ方法ヲ懇諭セシムヘシ
- 十四 看護長以下ヲシテ時々休業及入室患者ヲ巡視セシメ其攝生法ノ良否及寢具並室内ノ清潔ニ注意セシムヘシ
- 十五 傳染病毒ニ汚染シタル被服其他ノ物品アルトキハ其品目ト事由ヲ認メ一等軍醫ノ調印
- 十六 一等軍醫不在ノ場ヲ受ケ該隊長ノ認可ヲ得テ成規ニ依リ之ヲ消毒シ或ハ燒却スヘシ
- 十七 藥劑、治療消耗品及治療器械、調劑器械、消耗品、雜具ノ收領並修理交換ハ其品目數額ヲ傳票ニ記シ調印ノ上消耗品雜具ハ該隊其他ハ軍醫部ヨリ受領スヘシ但藥物治療消耗品ハ翌月需用スヘキモノ、品目數額ヲ豫定シ毎月二十五日限り軍醫部ニ通報スヘシ
- 十八 看護長ニ命シ毎月末ニ至リ治療消耗品ノ出納ヲ決算シ其受拂簿ニ登記調印セシメ藥物ハ日々調劑後ニ至リ營内處方箋若クハ處方録ニ就キ決算シ其受拂簿ニ登記セシメ當日ノ畫ニ捺印セシム而シテ月末ニ至ルトキハ更ニ之ヲ合計セシムルモノトス
- 十九 藥物ハ劇毒藥等ヲ類別シ其貯所ヲ定メ又調劑ハ看護長ヲシテ之ヲ輔ケシムルト雖モ其劇毒藥ハ自ラ之ヲ取扱フヘシ故ニ許可セサル者ハ藥室ニ入ルヲ禁スルモノトス但藥室ノ鍵ハ退室ノトキ日直士官ニ預ケ置クヘシ
- 二十 左ニ掲クル帳簿ヲ整理ス
- 二十一 其一 日記、雨突、陵下士兵卒及家族ノ人員、休業及入室人員其他日常ノ事ヲ録ス

其二 診斷簿
 其三 入室患者入退録
 其四 種痘簿
 其五 體力簿
 其六 諸報告原稿綴
 其七 諸達命令進達録
 其八 後證綴出等ニ類別ス
 其九 藥物受拂簿
 其十 治療消耗品受拂簿
 其十一 治療器械並調劑器械簿
 其十二 傳票並送達簿
 其十三 處方錄並營内處方箋綴
 其十四 帳簿ハ三年間其六乃至其八ハ七年間其十三ハ十年間
 其十五 帳簿ハ一年間其十一ハ之ヲ改正スル迄保存スヘシ而シテ其一二ハ毎月之ヲ改メ他ノ帳簿其十三
 其十六 退室後ハ在宅シテ臨時ノ診斷ニ應スヘシ若シ用辨ノ爲メ外出セントスルトキハ其出先キ
 其十七 ヲ自宅ニ示シ置クモノトス

第三章 野營行軍中ノ衛生事務
 第八條 一泊以上ノ野營行軍ニシテ一中隊以上ニ在リテハ醫官一名隨行シ一日行軍ニハ看護長看護手ノミ附屬セシムルモノトス
 醫官行軍中患者ヲ處置スル爲メ大隊ニ隨從スル能ハサル場合ニ在リテハ車馬ヲ支給ス但乘馬隊

ニ在テハ隊馬ヲ貸與スルコトアルヘシ
 第九條 野營行軍ノトキハ衣食住及労働共ニ自ラ常時ト異ルヲ以テ醫官ハ飲食物、容舍及野營地行軍途上ノ關係ヲ殊ニ注意シ若シ意見アルトキハ隊長ニ申告スヘシ
 第十條 行軍中患者アルトキハ醫官之ヲ診斷シ左ノ等差ヲ區別シテ之ニ行軍患者等差證ヲ付與スヘシ
 一等患者 歩行ニ堪ヘサルモノ又ハ乘馬ノモノニ
 二等患者 歩行ニ得ルモ武裝等ヲ携帶シ得ルモ或ハ武裝ヲ携帶シ得ルモ乘馬ニ堪ヘサルモノニシテ歩行シ得ルモノ
 三等患者 武裝等ヲ携帶シ得ルモ(乘馬ノモノニ在リテハ)乘馬ニ堪ヘサルモノ
 一等患者ハ車馬ヲ以テ送致シ二等患者ハ携帶品ヲ脱シテ單身徒歩セシメ或ハ自馬ヲ牽カシメ獨歩セシムルモノ三等患者ハ隊伍ヲ除キ獨行セシムルモノトス
 第十一條 宿營地ノ診斷ハ其定時限ニ於テ下士ノ引率シ來ル患者ニ就キテ之ヲ行ヒ其處置ヲナスヘシ而シテ行軍中ハ當日ノ行軍患者表ヲ調製シ隊長ニ出スヘシ
 第十二條 野營行軍中重症患者アルトキハ隊長ノ許諾ヲ得テ病床日誌ヲ付シテ歸村セシメ或ハ地方病院等ニ依託スヘシ
 第十三條 野營行軍中傳染病流行病等アルトキハ其消毒並取扱等ハ陸軍部内ノ定規ニ據ルト雖モ事ノ地方廳ニ涉ルモノハ隊長ヲ經テ其地方吏員ト協議ノ上取扱フヘシ
 附則
 第十四條 第二章第三章ノ各條ハ當分ノ内備員ノ醫師ニ之ヲ分掌セシムルコトヲ得尙看護長看護手ノ勤務モ亦看病人ヲ以テ之ニ代ラシムルコトヲ得

診療所規程

- 第一條 診療所ハ衛生部員ノ附屬セル各部隊ニ之ヲ置キ患者ヲ診斷治療シ及體格ヲ検査スル所トス
- 第二條 診療所ヲ置ク部隊ニハ醫務室藥室病室ヲ置ク
- 第三條 診療所ハ靜肅ヲ要スルカ故ニ雜音喧噪スルコトナキハ勿論左ノ各項ニ注意スヘシ
 - 一 凡診療所ニ於テ診療ヲ受クルモノハ詳細ニ其容態ヲ告ケシムルモ無用ノ言辭ヲ述フヘカラズ
 - 二 診療所ニ於テハ雜談及喫烟スヘカラス
 - 三 患者ハ指定ノ所ニ在リテ日直軍曹ノ呼出ニ由リ順次ニ診療ヲ受クルモノトス
- 第四條 診療所ハ當番卒ヲシテ常ニ掃除セシメ清潔ヲ旨トス

陸軍給與令細則第二十八號

陸軍給與令細則第二章第三章第四章第六章中左ノ通改正ス

明治二十四年四月一日 陸軍大臣伯爵大山 巖

陸軍給與令細則

第二章 俸給

- 第二條中 「毎月末日」ノ下ニ「二十五日」ハノ八字ヲ加フ
- 第三條中 「毎月末日」ノ下ニ「二十五日」ハノ八字ヲ加フ
- 第四條ニ左ノ一項ヲ加フ
 - 營内居住ノ下士以下賜與休暇中他行スルモノハ毎旬ニ於テ適宜ニ給スルコトヲ得
- 第十六條中 「當日」ノ下ニ「下士兵卒ニテ命ヲ受ケタル前日」ノ附註ヲ加フ
- 第二十八條第二項ヲ左ノ如ク改メ左ノ一項ヲ加フ

二營内居住ノ下士以下ハ月額ヲ三分シ之ニ支給スヘキ日數ヲ乘シテ十分ノ四拾五入厘位ニ止メ支給額ヲ得但増俸減俸ノトキハ前後各月額ノ三分ノ一額ヲ對照シ其差額ニ總テ後チニ支給スヘキ日數ヲ乘シテ十分ノ四拾五入厘位ニ止メ之ヲ前官等ノ三分ノ一額ニ加ヘ之レヲ減スヘキ支給額ヲ得又甲應ヨリ乙應ニ轉スルトキハ乙應ニ於テ毎旬ノ全支給額ヨリ甲應ニテ支給セシ額ヲ扣除シ支給額ヲ得

三營外居住下士以下ハ月額ニ支給スヘキ日數ヲ乘シ之ヲ十分ノ四拾五入厘位ニ止メ支給額ヲ得其増俸減俸及甲應ヨリ乙應ニ轉スルトキハ前項但書ニ準シ月額ニ依テ支給額ヲ得

第二十九條第一項及第二項ヲ左ノ如ク改ム
 一 准士官以上ハ年額ヲ十二分シ尙其月ノ現日數ヲ以テ除シテ毛以下之ニ減スヘキ分數ヲ乘除シ以テ毛以下切
 又之ニ減スヘキ日數ヲ乘シ月額ヨリ扣除シテ支給額ヲ得
 二 下士以下ハ其月額月額ノ三分ノ一ヲ十分ノ四拾五入厘位ニ止メ之ニ減スヘキ分數ヲ乘除シ以テ毛以下切
 又之ニ減スヘキ日數ヲ乘シ月額ヨリ扣除シテ支給額ヲ得

第三章 宅料

- 第一條中 「末日」ノ下ニ「二十五日」ハノ八字及左ノ一項ヲ加フ
 前項ノ支給日休日ニ當ルトキハ順次繰上支給ス
- 第二條ヲ左ノ如ク改ム
 新任就職及昇級ノ者ハ發令ノ翌日ヲ以テ其宅料ヲ給シ武官ヨリ文官ニ轉任スル者文武官兼任ニシテ文官ノ俸給ヲ受クル者休職停職豫備後備退役免官ノ者ハ發令翌日ヲ以テ止メ死亡ノ者ハ其翌日ヲ以テ止ムヘシ但本令第二十一條ノ場合ニ在テハ此限ニアラス
- 第三條ヲ左ノ如ク改ム
 赴任旅行ノモノハ發程翌日ヨリ任地著當日マテ宅料ヲ給セス

第四條ヲ削除シ第五條以下順次繰上ク

第八條第一項ヲ左ノ如ク改ム
轉任轉職等ニ當リ陸軍部内ニ於テ甲廳ヨリ乙廳ニ轉スルトキハ發令翌日ヨリ乙廳ニ於テ給ス

第四章 糧食

第一條第一項中「外宿ノ下ニ」若クハ終日外出ノ七字ヲ加ヘ第二項中「終日外出ヲ許可ス」ヲ「警備隊下士ニシテ外泊ヲ許可シタ」ニ改ム

第二條ヲ左ノ如ク改ム

第二條 總テ糧食ノ定額ニ殘餘アルトキハ其殘餘及殘飯其他委任經理ニ屬スル廢物ノ賣却代金ハ糧食積立金ト爲シ後次該費ノ不足ヲ補填スルコトヲ得委任經理ニ係ル食料モ亦之ニ準ス

第五條中「シ適宜ニ賄ハシメ殘金アルトキハ糧食積立金ニ組入ルヘシ」ヲ「ス其代金ニ過不足アルトキハ第二條ニ依リ取扱フヘシ」ニ改ム

第六條中「賜與休暇中歸省又ハ外宿ヲ許可スル者及」ヲ「第一條第一項第二項ニ該ル者及曹長ニシテ經理學校卒業後監督部ニ通勤スル者」ニ改メ「將校ノ家宅ニ宿泊スル從卒」ノ十二字ヲ削ル

第七條ヲ左ノ如ク改ム

第七條 本令第二十六條第一項及第二十七條ニ掲グル入院病院中及諸學校諸學舎ニ分遣中各部各隊ヨリ交付ノ賄料定額該校舎病院ノ定額ニ差繼キ不足スルトキハ校舎病院ニ於テ之ヲ仕拂若シ超過スルトキハ歲入ニ組入ルヘシ但其過不足ハ毎月各部各隊ヨリ送付ノ合金高ニ依リ之ヲ計算スヘシ

前項原隊ノ精米代諸校舎病院ノ賄料及賄料ハ校舎病院ヨリ原隊ニ請求シ原隊ハ現金前渡ヲ受ケタル金額中ヨリ前月ニ之ヲ交付スヘシ但該校舎病院ハ毎月仕拂仕譯書ヲ作り原隊ニ決算スルモノトス

第七條ノ次ニ左ノ一條ヲ追加シ第八條以下順次繰下ク

第八條 本令第二十六條第二項ノ食料ハ詰切中ノ現日數ニ應シテ之ヲ給ス但旅費日當ヲ支給スルトキハ之ヲ給セス

第八條中「末日」ノ下ニ「休日ニ當ルトキノ十二字ヲ加フ

第九條中 第一項「交付ス」ヲ「交付シテ賄ハシム」其定額ニ過不足アルトキハ第二條ニ依リ取扱フヘシニ改メ第二項ヲ左ノ如ク改ム

二下士兵卒及軍屬以下不獲番ヲ爲シタルトキハ前項ニ準シ定額ヲ本人ニ給スヘシ

第十條ヲ左ノ如ク改ム

第十條 本令第三十條ノ食料及糧食ハ現食數ニ應シ定額ヲ給ス但食料ハ本人ニ給シ糧食ハ所屬隊ニ交付シテ之ヲ賄ハシム

第十二條中「ヒ其殘餘ノ取扱ハ第二條ニ依ル」ヲ「ハシム其定額ニ過不足アルトキハ第二條ニ依リ取扱フヘシ」ニ改ム

第六章 馬匹

第一條中「其支給日ハ毎月末日トス但免官死亡其他事故アルトキハ此限ニアラス」ヲ「但乘馬ノ職ヲ離レタル者ハ辭令拜受ノ前日マテ給シ死亡ノ者ハ前日限り之ヲ止ム」ニ改メ左ノ一項ヲ加フ

前項馬飼料ハ毎月末日二十五日ニ於テ給シ休日ニ當ルトキハ順次繰上ケ支給ス但免官免役死亡其他事故アルトキハ其際ニ給ス

第二條中「乘馬ノ職ヲ離レタル者モ亦之ニ準ス」ノ十六字ヲ削ル

第四條中「ノ費用ニ充ツヘシ」ヲ「該費ノ不足ヲ補填スルコトヲ得」ニ改ム

第五條中「馬糞及」ヲ「飼養費ハ現飼數ニ「前條ニ準シ」ヲ「現馬數ニ應シ」ニ改ム

第六條中「メ殘金アルトキハ馬糧積立金ニ組入ルヘシ」ヲ「メ其代金ニ過不足アルトキハ第四條ニ依リ取扱フヘシ」ニ改ム

第七條ヲ左ノ如ク改ム

第七條 馬匹ノ裝蹄ハ毎月四蹄一回別毛ハ毎年一回ト定メ現馬數ニ依リ本令第二十三表ノ定額ヲ以テ支辨シ其定額ニ殘金アルトキハ其殘金ヲ各隊各部ニ於テ裝蹄別毛料積立金ト爲シ後次ノ費用ニ充ツヘシ但軍馬育成所ニ在テハ本文ニ準シ其實費ヲ仕拂フヘシ

第八條中「ノ費用ニ充ツヘシ」ヲ「該費ノ不足ヲ補填スルコトヲ得」ニ改ム

第十條第一項中「ノ費用ニ充ツヘシ」ヲ「該費ノ不足ヲ補填スルコトヲ得」ニ改メ第二項中「ノ交付ハ一回限りノモノトス」ヲ「ハ委員管理ノ定馬數ニ應シ一回限り之ヲ交付ス」ニ改ム

第十一條第一項中「ノ購買」ノ三字ヲ削ル

第十四條第一項中「定數」ノ下ニ「聯隊ニ在テハ聯隊ノ十五字ヲ加ヘ其殘金ハ」ヲ削リ「ノ費用ニ充ツヘシ」ヲ「該費ノ不足ヲ補填スルコトヲ得」ニ改ム

第十六條中「途」ヲ「在及演習地」ニ改メ左ノ一項ヲ加フ

前項ノ増飼料ハ本令第七十九條第三項ニ依リ旅費ヲ増給スル場合ニ在テハ之ヲ給セス

〔參照〕

陸軍省令明治二十三年十一月十七日抄録

陸軍給與令細則

第二章 俸給

第二條 准士官以上ノ俸給ハ年額ヲ十二分シ毎月末日之ヲ給ス

第三條 下士官ノ給料及ヒ諸生徒ノ手當金ハ左ノ區別ニ依リ之ヲ給ス

一 陸軍居住ノ者ハ月額ヲ三分シ毎月十日二十日及ヒ末日ノ三回

二 陸外居住ノ者ハ月額ヲ毎月末日

職務増俸ハ其給料ヲ給スルノ日ニ別ニ給ス

第四條 前各條俸給支給日休日日ニ當リタルトキハ順次繰上ケ給シ又免官免役死亡其他事故アルトキハ其際ニ給スルモノトス

第十六條 轉職等ニ當リ陸軍部内ニ於テ甲種ヨリ乙種ニ轉スルトキ俸給ハ發令當日マテ甲種ニテ給ス

第二十八條第二項

二 下士以下ハ其月額ニ支給スヘキ日數ヲ乘シ之ヲ三十分シ四捨五入取位ニ止メ支給額ヲ得

第二十九條 病弱其他ノ事故ニ依リ俸給ノ内幾分ヲ減スル計算ノ法ハ左ノ例ニ依ル

一 准士官以上ハ年額ヲ十二分シ尙其月ノ現日數ヲ以テ除シモ以下之ニ減スヘキ分數ヲ除除シ以下之ヲ一日ノ額ヨリ扣除シ以テ支給額ヲ得

二 下士以下ハ其月額ヲ三十分シ其他前項ノ例ニ依ル

陸軍第七十六號(明治二十三年四月十六日)抄録

陸軍給與令細則

第三章 宅料

第一條 本令第二十條ノ宅料ハ毎月末日ニ給ス免官死亡其他事故アル者ハ此限リニアラス

第二條 昇級ノ節ハ其翌日ヲ以テ宅料ヲ增加ス武官ヨリ文官ニ轉任スル者及ヒ文武官兼任ニシテ文官ノ俸給ヲ受クル者ハ其當日ヲ以テ之ヲ止ム又休職停職後復職後復免官死亡ノ者ハ其翌日ヲ以テ止ムヘシ但本令第二十一條ノ場合ニアリテハ此限ニアラス

第三條 赴任旅行ノ節ハ發程當日マテ宿所管ニテ之ヲ給シ任地著翌日ヨリ新所管ニ於テ之ヲ給ス

第四條 新任若クハ就職スルモノハ奉職ノ地到着ノ翌日ヨリ之ヲ給ス

第八條第一項

轉任轉職ノ者ニシテ同一ノ地ニアルトキハ其俸給當日マテ甲種ニ於テ給ス

陸軍第七十八號(明治二十三年四月十九日)抄録

陸軍給與令細則

第四章 糧食

- 第一條 營内居住ノ下士以下糧食ハ現食數ニ照シ本令第六條ノ定額ヲ以テ之ヲ贈フヘシ但左ノ各項ニ該ルモノハ現食數ニ算入スヘシ
 - 一 賜與休暇中歸省又ハ外宿スル者
 - 二 將校ノ家宅ニ宿泊スル從卒及終日外出ヲ許可スル者
 - 三 炊爨ノ準備ヲ爲シタルトキ
- 第二條 前條定額ニ殘餘アルトキハ其殘餘及殘飯其他委任經理ニ屬スル廢物賣却代金ハ糧食積立金ト爲シ後次ノ費用ニ充ツヘシ但經理ヲ委任セサル各隊各部ニ於テハ第十一條ニ依ル
- 第五條 糯米ヲ麵包ニ換ヘ又ハ雜穀類ヲ混用スルコトヲ得此場合ニ於テハ之ニ對スル糯米ハ其當時買入契約價格ニ依リ代金ヲ交付シ適宜ニ贈ハシメ殘餘アルトキハ糧食積立金ニ組入ルヘシ
- 第六條 賜與休暇中歸省又ハ外宿ヲ許可スル者及上等兵ニシテ會計事務見習ノ爲メ監督部ニ通勤スル者將校ノ家宅ニ宿泊スル從卒其他近衛師團司令部等ニ助手トシテ通勤スル者ニ對スル糯米ハ前條ニ依リ代金ヲ交付シ贈料ノ定額ト共ニ本人ニ給スヘシ
- 第七條 本令第二十六條第二十七條ニ掲ケル入院院中又諸學校諸學舎ニ分遣中原隊ノ糯米代金及贈料ハ該校舎病院ヨリ原隊ニ請求シ原隊ハ現金前渡ヲ受ケタル金額中ヨリ前月ニ之ヲ交付スヘシ但該校舎病院ハ毎月仕拂仕簿書ヲ作リ原隊ニ決算スルモノトス
- 前項ノ贈料ハ諸學校諸學舎及病院ノ贈料ニ差額キ不足アルトキハ該校舎病院ニ於テ仕拂ヒ其剩餘アルトキハ裁入ニ組入ルヘシ
- 第八條 本令第二十八條ノ食料ハ入學外宿中現日數ニ照シ毎月末日ニ之ヲ給スヘシ但原隊ノ贈料ハ定額糯米ハ其年度ノ豫算額ヲ當該校舎ニ交付シ食料ニ差額モノトス
- 第九條 本令第二十九條ノ夜食料ハ左ノ各項ニ依リ支給ス
 - 一 准士官以上下士以下軍醫馬丁演習中露替又ハ夜中行軍四時間以上ニ及フトキハ其人員ニ照シ本令第九條ノ定額ヲ所屬隊ニ交付ス
 - 二 下士兵卒及相當軍醫不應番ヲ要スルトキハ前項ニ準シ定額ヲ給ス但經理ヲ委任セサル各隊各部ニ於テハ其定額ヲ本人ニ給ス
 - 第十條 本令第三十條ノ食料ハ演習地又ハ哨所ニ到著翌日ヨリ出發前日マテノ現日數ニ照シ定額ヲ給シ糧食ハ現食數ニ照シ定額ヲ以テ之ヲ贈ヒ其殘餘ノ取扱ハ第二條ニ依ル
 - 第十二條 本令第三十二條ノ糧食ハ現食數ニ照シ定額ヲ以テ之ヲ贈ヒ其殘餘ノ取扱ハ第二條ニ依ル

- 第六章 馬匹
 - 第一條 本令第四十三條ノ馬飼料ハ牽入當日ヨリ手放前日マテ給ス其支給定日ハ毎月末日トス但免官死亡其他事故アルトキハ此限ニアラス
 - 第二條 乘馬ノ糞ニアル者甲應ヨリ乙應ヘ轉換スルトキハ該令拜受ノ前日マテ甲應ニテ給ス乘馬ノ糞ヲ離レタル者モ亦之ニ準ス
 - 第四條 本令第四十四條ノ馬糞ハ現飼數ニ照シ定額ヲ以テ之ヲ飼養シ其定額ニ殘餘アルトキハ其殘餘及委任經理ニ屬スル物品賣却代金ハ各隊各部ニ於テ馬糞積立金ト爲シ後次ノ費用ニ充ツヘシ但飼飼數計算法ハ飼飼麥二升秣五百日課百目トシ夕飼ハ麥二升秣一貫目トス
 - 第五條 本令第四十五條ノ馬糞及馬匹預托料ハ前條ニ準シ定額ヲ以テ之ヲ飼養シ其實費ヲ仕拂フヘシ
 - 第六條 軍隊旅行演習旅行陣營移轉演習地屯在中及病馬ヲ他ニ依托シ治療シタルトキノ馬糞ハ第四條ニ準シ各隊各部ノ馬匹費ニ組入仕拂フヘシ但代用品ヲ要スル場合ニ在テハ之ニ對スル馬糞ハ各隊屯在地ニ於テ其當時買入契約相場ニ依リ代金ヲ交付シ適宜ニ飼養セシメ殘餘アルトキハ馬糞積立金ニ組入ルヘシ
 - 第七條 馬匹ノ裝蹄ハ毎月四蹄一回別毛ハ冬季一回ト定メ本令第二十三條ノ定額ヲ以テ支拂シ其定額ニ殘餘アルトキハ其殘金ヲ各隊各部ニ於テ蹄鐵別毛料積立金ト爲シ後次ノ費用ニ充ツヘシ但憲兵隊軍馬育成所ニ在テハ本文ニ準シ其實費ヲ仕拂フヘシ
 - 第八條 本令第四十七條ノ馬糞器械水糞料ノ定額ニ殘餘アルトキハ其殘餘及委任經理ニ屬スル物品賣却代金ハ各隊各部ニ

於テ馬鞍器械永續料積立金ト爲シ後次ノ費用ニ充ツヘシ

第十條 本令第四十九條ノ馬匹購買料ハ馬匹購買ニ係ル一切ノ費用ニ充テ其定額ニ殘金アルトキハ其殘金及不用馬匹其委任經理ニ屬スル物品賣却代金ハ委員ニ於テ馬匹保續積立金ト爲シ後次ノ費用ニ充ツヘシ
前項馬匹購買料ノ交付ハ一回限リノモノトス故ニ新クニ馬匹ヲ購買スルモ購買料支給ノ馬數ニ超過セザレハ別ニ之ヲ給セズ

第十一條 第一項

本令第四十九條ノ馬匹保續料ハ毎年四月委員ニ交付シ馬匹保續積立金ニ組入レ交換馬匹ノ購買ニ係ル一切ノ費用ニ充ツヘシ

第十四條 第一項

本令第五十一條第一項ノ馬藥料定數馬匹ノ十分之二端數ヲ生シタルトキハ切上ケ支給シ其定額ニ殘金アルトキハ其殘金ハ各隊各部ニ於テ馬藥料積立金ト爲シ後次ノ費用ニ充ツヘシ但病馬ヲ他ニ依テシモ此限リニテハ治療ヲ受クルトキハ定額馬藥料ヨリ支給スヘシ

第十六條 本令第五十二條ノ増飼料ハ旅行途中ノ現日數ニ應シ之ヲ給シ増飼ハ實際ノ勞働ニ依リ飼養ノ現日數ニ應シ實費ヲ仕拂フヘシ

○陸軍第四十九號

陸軍給與令細則第五章左ノ通改正ス

明治二十四年四月一日

陸軍大臣伯耆大山 巖

第五章 被服

第一條 本令第三十四條ノ服裝手當及馬裝手當ハ一回限リ之ヲ給ス
各兵科士官轉料スルトキハ轉料服裝手當ヲ給スト雖モ憲兵科ヨリ原兵科ニ復シ豫備後備ニ入ル

者ハ之ヲ給セズ

第二條 本令第三十五條ノ被服代金ハ給與スヘキ當該月ノ一日ニ現在スル者ニ之ヲ給ス其調製順序ハ甲表ノ如シ但其月ニ現役滿期トナルヘキ者ニハ被服代金ヲ給セズ
各兵科士官候補生ノ被服ハ乙表ノ如ク現品ヲ以テ給シ六週間現役兵及豫備役兵召集中被服ハ其季節ニ應シ貯藏品ヲ以テ給スヘシ

第三條 再服役以上ノ者被服現品ノ給與區別ハ本令第十二表第十三表ニ照シ從前給與品ノ年月ヲ逐ヒ若クハ所要ニ應シ之ヲ給スト雖モ第一種衣袴夏衣袴ハ再服役起算ノ初月ヨリ更ニ年期ヲ計算シ該表ニ依リ給與ナキ年期ニ當ルトキハ之ヲ給セズ
被服代金給與ノ者ハ從前給與ノ月ヨリ年月ヲ逐ヒ被服代金乙額ヲ給スヘシ

第四條 被服代金ヲ以テ調製ノ被服ハ其所管ニ於テ便宜取締ノ方法ヲ設ケ之ヲ監視スヘシ
其調製ノ大被服ハ其所管ニ開申シテ該被服ノ檢印^{検査}及軍隊手續ノ記入ヲ請フモノトス

第五條 下士以下給與ノ被服品中帽衣袴外^{背背}背背厚毛布^{軍隊}等ノ如キハ其裏面ニ所管^{軍隊}種隊號^兵氏名^{氏名}背背厚毛布^及及年月ヲ記注スヘシ

第六條 營內居住ノ各兵曹長ニ下副官ノ職ヲ命シ又ハ該職ヲ免シタルトキ其被服給與品ノ異ナルモノハ之ヲ返還セシメ更ニ本令第十二表第十三表ニ依リ給與ヲナスヘシ

第七條 營外居住ノ各兵曹長ニ下副官若クハ教官補ノ職ヲ命シタルトキハ大被服裝具ハ本令第十二表ニ依リ之ヲ給シ就職前現品給與ヲ受ケタル者ノ大被服ハ之ヲ返還セシメ被服代金ヲ受ケ調製シタル者ノ大被服ハ其儘所持セシム又小被服ノ代金ハ其際下士ト下副官トノ差額^{下士乙額}下副官甲額^{下副官甲額}トノヲ給シテ調製セシメ爾後ハ從前給與ノ月ヨリ起算シ四箇月ヲ經テ乙額ヲ給スヘシ

其職ヲ免シタルトキハ就職中給與ノ大被服裝具ハ返還セシメ更ニ大被服ハ現品給與ノ者ニ在テハ本令第十二表ニ依リ之ヲ給シ被服代金給與ノ者ニ在テハ就職前ノ所持品ヲ以テ應用セシム故

ニ大被服ハ甲額ヲ給セス從前給與セシ當該月ニ至リ其乙額ヲ給ス又小被服ハ就職中給與ノ月ヨリ起算シ四箇月ヲ經テ乙額ヲ給スヘシ

第八條 各兵科兵卒及樂手補諸生徒ヨリ下士任官ノ者ハ豫テ給與ノ第一種夏衣及外套ノ袖章ヲ改修シ下士ノ給與ニ屬セサルモノハ之ヲ返還セシムヘシ軍樂學舍生徒ヨリ樂生トナル者モ亦之ニ準ス

各兵科兵卒及樂手補ヨリ其下士ニ任スル者現品給與ノ被服ハ本令第十二表第十三表ニ照シ從前給與品ノ年月ヲ逐ヒ之ヲ給スヘシ

憲兵上等兵及樂手補ヨリ其下士ニ任スル者ノ被服代金ハ甲額ヲ給セス從前給與ノ月ヨリ起算シ四箇月ヲ經テ乙額ヲ給スヘシ

第九條 下士以下被服ノ所持定數ハ丙表ノ如シ但營外居住ノ諸卒及諸生徒ノ如キ現役或ハ修業中此定數ニ滿タサルモノハ其給與數ニ依ル

第十條 下士以下轉隊轉科或ハ營內居住ヨリ營外居住ニ營外居住ヨリ營內居住ニ轉スルトキハ其給與ノ第二種帽^{第二種帽ヲ給セサ}第一種夏衣^{長靴}及靴^{脚絆}拍車^{各一著}下著^{下著類}手^手靴^靴下^下ヲ悉皆携帶セシムヘシ諸生徒卒業下士任官配賦ノ者及其卒業ノ目途ナクシテ軍隊ニ編入ノ者モ亦之ニ準ス

其轉科ノ者被服ノ製式ヲ異ニシ地質ニ色別アルトキ帽衣袴外套靴^{兵科ハ古品ヲ以テ携帶セシムヘシ}

第十一條 前條携帶セシ被服品中製式ノ異ナルモノハ之ヲ改修或ハ交換シ營內居住ノ者ハ尙ホ貯藏品^{貯藏品ナキト}ヲ以テ帽衣袴及靴^{兵科ハ古品ヲ以テ携帶セシムヘシ}脚絆^{各一著}日履^{二箇}自^{自甲午年十月至乙午年五月間ニ在}之^之給^給ス^ス營外居住ノ者ハ更ニ被服代金ヲ給シテ大小被服ヲ調辨セシム此場合ニ在テハ携帶セシ夏衣袴ハ其所管ニ返還セシムヘシ

騎兵隊憲兵隊軍樂隊等ノ如キ帽衣袴ノ製式ヲ異ニシ地質ニ色別アルモノハ之ヲ返還セシム更ニ本令第十二表ニ依リ之ヲ給シ憲兵隊軍樂隊ニ在テ小被服ハ被服代金ヲ給シテ之ヲ調辨セシムヘシ

第十二條 營外居住ノ下士兵卒彼是相轉スルトキハ其給與ノ被服悉皆携持セシムヘシ

軍樂隊及生徒隊等ニ在テ營內居住ノ下士兵卒彼是相轉スルトキハ前項ニ準シ携持セシムト雖モ軍隊ニ轉シ營內居住ノ者ハ第十條ニ依リ携帶セシムヘシ

樂生ニシテ營外居住ヲ命シタルトキハ其給與ノ大被服及靴脚絆ハ悉皆下著類ハ季節ニ應スルモノ一著ヲ付與シ其他ハ總テ返還セシム而シテ被服代金甲額ヲ給シテ小被服ヲ調辨セシムヘシ

第十三條 下士兵卒及諸生徒ヨリ士官候補生トナリ配賦ノ者ハ第二種帽^{第二種帽ヲ給セサ}第一種夏衣^{長靴}及靴^{脚絆}拍車^{各一著}下著^{下著類}手^手靴^靴下^下ヲ悉皆携帶セシム所屬隊ニ於テハ更ニ乙表ニ依リ之ヲ給スヘシ但携帶品ハ其所屬隊ニ返還セシムルモノトス

第十四條 兵卒ヨリ下士任官直ニ所管ヲ轉シ或ハ下士兵卒諸生徒ヨリ士官候補生トナリ配賦ノトキ其被服ノ製式及徽章ハ改修セシム其儘之ヲ携帶セシムヘシ

第十五條 上等兵ニシテ歸休中下士任官直ニ營外居住ノ職ニ轉スル者其携帶セシムヘキ被服ハ第十條ニ準シ從前給與ノ第二種帽第一種夏衣袴及外套ニ限リ原隊ヨリ該所管ニ送付スヘシ

其送付セシ被服品中製式ノ異ナルモノハ之ヲ改修交換シ更ニ被服代金ヲ給シ大小被服ヲ調辨セシムヘシ

第十六條 軍隊及官衙ヨリ學校學舍等ニ入學或ハ分遣中ノ者被服給與ハ總テ原所管ノ經理ニ屬ス

營內居住下士以下入學分遣ノ節被服ハ第十條ニ準シ携帶セシム其他所管ノ被服及後次給與ノ被服ハ原所管ヨリ學校學舍等ニ現品ヲ以テ送付シ或ハ其調製ヲ委託セシムト雖モ士官候補生入校

中給與ノ被服ハ其調製ヲ該校ニ委託スヘシ
 士官候補生入校中所要ノ背囊被服手入具飯盒水筒ハ士官學校ニ於テ之ヲ貸與ス
 第十七條 下士以下不注意若クハ故意ニ依リ給與ノ被服ヲ損壞遺失投棄シタル者ハ左ノ例ニ準シ
 之ヲ補償セシムヘシ
 一 損壞ノ被服新調ヲ要スルトキハ其新調代價損壞品或ク修理ニ止マルトキハ其修理全價
 二 遺失投棄ノ被服ハ其新古ニ應シ相當代價相償代價ト同期給與ノ被服ヲ以テ評價セシム軍隊手
 躰ハ新古ヲ問ハス新調代價
 第十八條 遺失投棄ノ被服補償ノ後發見シタルトキハ徽章ヲ除去シ之ヲ本人ニ下付スル歟或ハ之
 ヲ賣却シ其代金ヲ以テ下付スル等ハ該所管ノ便宜ニ任ス其發見品遞送ニ係ル費用ハ自辨セシム
 第十九條 損壞遺失投棄ニ係ル被服ハ左ノ例ニ依リ之ヲ補償スヘシ
 一 軍隊ニ在テ遺失投棄ニ係ル被服ノ代品ハ貯藏品貯藏品ナキトヲ以テ之ヲ補給シ損壞品ハ之ヲ
 修理シ其補償金ハ總テ委任經理ニ屬スル積立金ニ組入ルヘシ若シ新調ノ費用補償金額ニテ不
 足スル歟又ハ補償金額ヲ全納シ能ハサルトキ其不足ハ委任經理ニ屬スル積立金ヨリ之ヲ補填
 スルモノトス但補償金ヲ以テ直ニ新調修理ノ費用ニ充ツルモ妨ケナシ
 二 諸官衙ニ在テ遺失投棄ニ係ル被服ノ代品ハ貯藏品貯藏品ナキトヲ以テ之ヲ補給シ損壞品ハ之
 ヲ修理シ其補償金ハ總テ廢入トナシ其新調修理ノ費用ハ被服費ヨリ之ヲ支出スヘシ
 三 營外居住下士兵卒ニ在テ被服代金ヲ以テ調辨セシ被服ヲ損壞遺失投棄シタルトキ其新調修理
 ハ總テ自辨セシムヘシ
 第二十條 下士以下所持ノ被服品中水火盜難等ニ罹ル者ハ其狀況ヲ具申セシメ直屬長官ニ於テ事
 由確實ト認定シタルトキハ貯藏品ヲ以テ之ヲ補給スルコトヲ得

其被服ノ新調ヲ要スル場合ニ在テハ所管長官ノ許可ヲ得テ之ヲ補給シ其費用ハ被服費ヨリ之ヲ
 支出スヘシ但軍隊ニ在テハ其費目ニ屬スル積立金ヨリ支出スルモノトス
 第二十一條 下士以下傷病疾病ニ罹リ療養中若クハ收禁留置營倉拘留禁錮中又ハ擅ニ職役屯營本
 隊ヲ離レタル者ノ被服現品及被服代金ハ給與年月ニ當ルモ之ヲ給セス全廢若クハ復歸ノ月ニ之
 ヲ給シ爾後更ニ年月ヲ逐テ其給與ヲナスヘシ
 第二十二條 下士以下刑罰滿限又ハ無罪免訴等ニ依テ監獄若クハ憲兵隊ヨリ原所管ニ復歸ノトキ
 著服ナキ者ハ第二種帽第二種帽ヲ給セシム第二種衣袴又ハ衣袴袖章ヲ除ク襦袢袴下ズルモノ短靴及
 兩著各一著ヲ給ス其費用ハ現品給與ニ屬スルモノハ原所管ニ於テ之ヲ仕拂ヒ被服代金給與ニ屬
 スルモノハ本人ヲシテ之ヲ自辨セシムヘシ
 第二十三條 本令第三十八條ノ被服地質ハ陸軍被服廠ヨリ交付ス
 第二十四條 下士以下被服現品給與ノトキ所持定數ニ超過ノ古品ハ之ヲ返還セシメ下士及士官候
 補生ニ限り下著類ハ之ヲ本人ニ附與スト雖モ所持定數ハ常ニ存在セシムヘシ
 被服代金ヲ以テ調製セシ被服所持定數ニ超過ノ古品ハ之ヲ本人ニ付與スト雖モ徽章ハ必ス除去
 セシムヘシ
 第二十五條 見習士官見習醫官見習藥劑官見習獸醫官若クハ下士ヨリ士官准士官ニ任スル者又ハ
 下士滿期及事故ニ依リ豫備役後備役ニ入ル者又ハ下士以下免官免役退學死亡等ノ者其給與ノ被
 服ハ悉皆ハ下著類ヲ除ク返還セシムヘシ但被服代金ヲ以テ調辨ノ者ハ大被服並ニ第二種衣袴
 ニ限り所持定數ヲ返還セシムルモノトス
 第二十六條 營内居住ノ下士現役滿期及事故ニ依リ豫備役後備役ニ入ル者並ニ免官ノ者ハ第二種
 帽第二種帽ヲ給セシム第一種衣袴自六月至九月間ハ夏衣袴又ハ靴半長靴ハ各一著ヲ附與スヘシ
 其兵卒現役滿期事故免役及現役中歸休ヲ命スル者若クハ諸生徒疾病事故ニ依リ退學ノ者ハ第二

種帽第二種帽ヲ給セサ第一種衣袴自六月至九月間ハ靴騎兵科ハ襦袢袴下等類ニ應各一著ヲ附與スヘシ但六週間現役兵及一年志願兵ハ此限ニアラス

第二十七條 下士以下死亡ノトキハ其返還スヘキ被服品中第二種帽第二種帽ヲ給セサ及衣袴下等類種衣袴或ハ第二種衣袴靴現品給與ノ各一著ヲ以テ裝殮ノ用ニ供セシム豫備役下士兵卒召集中モ亦之ニ準ス

第二十八條 總テ貸與ノ被服ハ所管ヲ轉シ若クハ復歸等ノ際之ヲ返還セシムト雖モ士官候補生ニシテ士官學校生徒トナリ該校ニ於テ貸與セシ被服品中修學上尙必要ト認ムル品種ハ復歸ノ際其儘携帶セシメ應用スルモ妨ケナシ

第二十九條 本令第四十條ノ被服修理料及被服手入具永續料定額ノ計算法ハ左ノ例ニ依ル

一 軍隊ニ在テハ營內居住ノ下士兵卒定員一箇年間歸休セシニ各其月額ヲ乘シ之ヲ毎月ノ定額トス

二 軍隊新設若クハ増設ニ係リ漸次兵員ヲ增加スル場合ニ在テハ其增加スヘキ營內居住下士兵卒定員一箇年間歸休セシニ各其月額ヲ乘シ之ヲ毎月ノ定額トス

三 軍隊及學校學舍等ニ在テハ營內居住ノ下士以下現人員ニ各其月額ヲ乘シ之ヲ毎月ノ定額トス但一箇月未滿ノ端日數ハ總テ月額ニ依ル

第三十條 軍隊及學校學舍等ニ於テ備附被服ニ係ル修理永續ノ費用ハ被服修理料及被服手入具永續料定額ヲ以テ支辨スヘシ但貸與被服及體操軍用被服ニ係ルモノハ此限ニアラス

第三十一條 軍隊ヨリ學校學舍ニ入學或ハ分遣ノ者ニ係ル被服修理永續ノ費用ハ被服修理料被服手入具永續料ノ定額士官候補生ハ其兵科下ヲ拂切リ毎月之ヲ學校學舍ニ送付シ學校學舍ニ於テハ該定額ヲ以テ支辨シ殘餘アルトキハ該費目ノ積立金トナシ各其費途ニ充ツルコトヲ得但入學分遣及復歸ノ月ハ現ニ學校學舍ヲ出入シタル日ヲ學校學舍ヨリ原隊ニ通報シ原隊ニ在テハ之ヲ

十五日前後ニ區別シ全額或ハ半額ヲ送付スルモノトス

第三十二條 各兵科士官候補生ノ被服料ハ其定額ハラスニテ現人員ニ應シ六週間現役兵ノ被服料及豫備役下士兵卒ノ被服保續料ハ其定額ヲ現人員ノ在營日數入營當日ヨリニ應シ該隊ニ交付ス該隊ハ之ヲ被服積立金ニ組入該被服一切ノ費用ニ充ツヘシ

第三十三條 委任經理ニ屬スル定額ニ殘餘アルトキハ其殘金及被服物品ノ賣却代ハ之ヲ委任經理ノ費目毎ニ區分シ被服積立金被服修理料積立金被服手入具永續料積立金トナシ其費途ニ充ツヘシ

分區		品名	稱	調製	順	序
被	第一種帽	步騎砲工輜重兵曹長軍曹火工曹長軍曹砲工兵	監護砲臺監守銃銃木銃鑄鑄鐵工長下長二三	等書記同若護長同調劑手鑄鐵工	初度一箇ヲ調製シ爾後滿七年毎二一箇ヲ調製スルモノトス	
		步騎砲工輜重兵曹長軍曹火工曹長軍曹砲工兵	監護砲臺監守銃銃木銃鑄鑄鐵工長下長二三	等書記同若護長同調劑手鑄鐵工	初度一箇ヲ調製シ爾後滿二年毎二一箇ヲ調製スルモノトス	
	第二種帽	看守卒調馬卒鑄鐵工			初度一箇ヲ調製シ爾後滿二年毎二一箇ヲ調製スルモノトス	
		看守卒調馬卒鑄鐵工			初度一箇ヲ調製シ爾後滿二年毎二一箇ヲ調製スルモノトス	
	第一種衣袴	步騎砲工輜重兵曹長軍曹火工曹長軍曹砲工兵	監護砲臺監守銃銃木銃鑄鑄鐵工長下長二三	等書記同若護長同調劑手鑄鐵工	初度一組ヲ調製シ爾後滿三年毎二一組ニ至リ同組ヲ調製スルモノトス	
		看守卒調馬卒鑄鐵工			初度一組ヲ調製シ爾後滿四年毎二一組ヲ調製スルモノトス	
肩章	騎兵曹長軍曹騎兵鑄鐵工長下長			初度一組ヲ調製シ爾後滿三年毎二一組ヲ調製スルモノトス		
肩章	步騎砲工輜重兵曹長軍曹火工曹長軍曹砲工兵	監護砲臺監守銃銃木銃鑄鑄鐵工長下長二三	等書記同若護長同調劑手鑄鐵工	初度二箇ヲ調製シ爾後滿七年毎二一箇ヲ調製スルモノトス		

服		小		被	
夏衣袴	外袴	下襟	襪	白下袴	火織袴袴下
歩隊砲工砲重兵曹長軍曹火工曹長軍曹砲工兵	歩隊砲工砲重兵曹長軍曹火工曹長軍曹砲工兵	歩隊砲工砲重兵曹長軍曹火工曹長軍曹砲工兵	歩隊砲工砲重兵曹長軍曹火工曹長軍曹砲工兵	歩隊砲工砲重兵曹長軍曹火工曹長軍曹砲工兵	歩隊砲工砲重兵曹長軍曹火工曹長軍曹砲工兵
初度二組ヲ附後滿三年目ニ至リ尚一組ヲ附後滿一年毎ニ一組ヲ附製スルモノトス	初度一組ヲ附後滿四年毎ニ一組ヲ附製スルモノトス	初度二組ヲ附後滿二年毎ニ一組ヲ附製スルモノトス	初度一組ヲ附後滿三年毎ニ一組ヲ附製スルモノトス	初度一組ヲ附後滿三年毎ニ一組ヲ附製スルモノトス	初度一組ヲ附後滿三年毎ニ一組ヲ附製スルモノトス

服		大		被	
靴	靴	前立	第一種衣袴	第二種衣袴	外袴
歩隊砲工砲重兵曹長軍曹火工曹長軍曹砲工兵	歩隊砲工砲重兵曹長軍曹火工曹長軍曹砲工兵	歩隊砲工砲重兵曹長軍曹火工曹長軍曹砲工兵	歩隊砲工砲重兵曹長軍曹火工曹長軍曹砲工兵	歩隊砲工砲重兵曹長軍曹火工曹長軍曹砲工兵	歩隊砲工砲重兵曹長軍曹火工曹長軍曹砲工兵
初度一組ヲ給シ爾後滿六年毎ニ交換ス	初度一組ヲ給シ爾後滿一年毎ニ一組ヲ給ス	初度一組ヲ給シ爾後滿三年毎ニ一組ヲ給ス	初度一組ヲ給シ爾後滿三年毎ニ一組ヲ給ス	初度一組ヲ給シ爾後滿三年毎ニ一組ヲ給ス	初度一組ヲ給シ爾後滿三年毎ニ一組ヲ給ス

具	蚊帳	青森也在歩兵科士官候補生	初度一箇ヲ備付爾後十二年毎ニ交換ス
具	防寒用木屨	高崎仙臺青森新發田金澤也在歩騎砲工兵科士官候補生	初度一箇ヲ備付爾後十五年毎ニ交換ス
具	厚毛布	兵科士官候補生	初度一箇ヲ備付爾後二十四年毎ニ交換ス

丙表

大 被 服										區分		
雨	外	夏	日	肩	第	軍	正	前	第	第	品	目
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	所持	定數
一箇	一箇	一組	一箇	一組	一組	一組	一組	一箇	一箇	一箇		
小 被 服										區分		
長	半	工	短	手	夏	冬	白	襟	下	第	品	目
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	所持	定數
一組	一組	一組	一組	一組	一組	一組	一箇	一箇	一箇	一組		

小 被 服				具			
絨	麻	木	靴	背	背	飯	水
一	一	一	一	一	一	一	一
一組	一組	一組	一組	一箇	一箇	一箇	一箇

〔參照〕

陸軍給與令細則第五章ハ明治二十三年四月十九日陸軍第七十七號ナリ

○陸軍第五十號

明治二十三年十一月 陸軍第二百二號陸軍經理學校學生召集規則中左ノ通追加ス

明治二十四年四月一日

陸軍大臣伯耆大山 燾

第一條第一項末尾ハ但陸軍大學校卒業者ニ限リ入學試験ヲ要セスノ二十字ヲ加フ

第十三條第二項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

前二項ニ於テ學生人員ノ率ヲ定ムト雖モ試験ノ成績ニ依リ所要ノ人員ニ充タサルトキハ互ニ増減補充スルコトヲ得

〔參照〕

陸軍第二百二號陸軍經理學校學生召集規則(明治二十三年十一月七日抄録)

第一條第一項

明治二十四年四月 陸軍省陸軍部第五十號

監督學生ハ各兵科中尉ノ内二箇年以上(註明一)現官ニ在リテ奉職シ監督部勤務ヲ志願シ暇時勤務ニ堪ヘ入學試験ニ合格スル者ヨリ採用ス

第十三條 軍吏學生ハ一等書記ノ内一箇年以上(註明二)現官ニアリテ將來ニ望ミアル者ヲ選抜シ入學試験ニ合格スル者ヨリ採用ス

各兵科曹長ノ内二箇年以上(註明一)現官ニアル者ハ志願ニ依リ前項ニ準シ學生總員ノ四分ノ一ヲ採用ス

○陸軍第五十一號

屯田兵軍醫部服務規則左ノ通定メラレ本年四月一日ヨリ施行セラル

明治二十四年四月一日

陸軍大臣伯爵大山 巖

屯田兵軍醫部服務規則

第一條 屯田兵軍醫部ハ其管内ノ衛生事務ヲ統轄スル所トス

第二條 軍醫長ハ屯田兵司令官ニ隸シ管内ノ衛生事務ヲ總理シ衛生部員ヲ監督シ及下士以下ノ補充教育ヲ管掌ス

衛生事務及下士以下補充教育ノ事ニ就テハ陸軍省醫務局長ノ區處ヲ承ク

第三條 軍醫長ハ前條ノ外近衛各師團軍醫部服務規則第三條乃至第十一條及第十二條第二項第十

四條乃至第十七條ニ依テ其職務ヲ執ル

第四條 軍醫長不在ノトキハ軍醫部所在地ノ高級醫官之カ代理ヲナス

第五條 部員ハ軍醫長ノ命ヲ承ケ各其事ニ服行ス又部員ノ内一名ハ衛生材料廠ヲ管理ス

第六條 書記ハ上官ノ命ヲ奉シ文書ヲ送達其他記注等ニ従事ス

第七條 軍醫部ニ於テハ近衛各師團軍醫部服務規則第二十一條ノ各項(第十六項第十二條ノ事務ヲ

掌リ且部隊ニ藥物治療消耗品及治療器械調劑器械ノ配與並ニ該器械ノ修理交換ノ事ヲ掌ル

第八條 戰用衛生材料ハ衛生材料廠ニ格納スト雖モ軍醫部所在地外ノ隊用ニ充ツヘキモノハ司令官ノ認可ヲ經テ該隊ノ倉庫ニ分納スルコトヲ得

○海軍省達第六十三號

明治二十三年達第二十一號委任仕拂命令官中及同年達第二十三號收入監督官吏中「大學校次長」ヲ「大學校長」ト改ム

明治二十四年四月一日

海軍大臣子爵樺山資紀

○海軍省達第六十四號

佐世保村赤崎免ニ新築ノ火藥庫ヲ赤崎火藥庫ト稱ス

明治二十四年四月一日

海軍大臣子爵樺山資紀

○海軍省達第六十五號

本年達第五十二號ヲ以テ改正シタル需用品定額表中朱硯箱外七品及西洋紙ノ下ノ文字左記ノ通稱除シ硯箱外十二品ノ數量ヲ改定ス

但改定數量表ハ第二局ヨリ送付ス (左記及數量表略ス)

明治二十四年四月一日

海軍大臣子爵樺山資紀

○陸軍第五十二號

明治二十二年陸軍第二十號休職並停職者取扱ニ左ノ一項ヲ追加ス

明治二十四年四月二日

陸軍大臣伯爵大山 巖

第八項 前諸項中師團司令部トアルハ北海道(徵兵令ニ在テハ屯田兵司令部トシ又師管トアルハ北海道ニ在テハ徵兵令未行地)トス

○海軍省達第六十六號

佐世保鎮守府所管測量艦磐城第三検査施行ニ付役務ヲ解カル

明治二十四年四月六日

海軍大臣子爵樺山資紀

○海軍省達第六十七號

明治二十四年四月 陸軍省第六十三號 第六十四號 第六十五號 第六十六號

海軍省第六十三號 陸軍省陸軍第五十二號

明治二十四年四月 海軍省第六十八號 第六十九號 第七十號

海軍下士學術檢査規則第一條ニ左ノ二項ヲ加フ

明治二十四年四月六日

學術檢査ハ毎年四月一日十月一日後ニ於テ施行ス

海軍大臣子爵樺山資紀

〔參照〕

海軍省第九十號海軍下士學術檢査規則(明治二十二年四月十八日)抄録

第一條 下士等ノ學術檢査ハ進級資格ヲ備フル者ニ限リ之ヲ行フ而シテ下士ノ學術檢査ハ毎年一回卒ノ學術檢査ハ毎年二回トス

學術檢査ニ回合格シタル者ハ上級ニ進級スルマテ檢査ヲ受ケシメス

○海軍省第六十八號

海軍卒進級條例第二條第二項左ノ通改正ス

明治二十四年四月六日

停年ヲ算スルニハ四月一日及十月一日ヲ以テ終期トス

海軍大臣子爵樺山資紀

〔參照〕

海軍省第二百八十四號海軍卒進級條例(明治二十三年八月四日)抄録

第二條第二項 海軍卒算スルニハ五月一日及十一月一日ヲ以テ終期トス

○海軍省第六十九號

海軍省第六十九號海軍下士學術檢査規則(明治二十二年四月十八日)抄録

艦營需品中左記ノ物件ハ艦船附屬物トシ二十四年度中ハ鎮守府艦營需品倉庫ヨリ供給ス但其取扱

整理ハ需品經理規程ニ據ルベシ(物件種目略ス)

○海軍省第七十號

海軍省第七十號海軍水雷術練習規則(明治二十四年四月六日)抄録

海軍大臣子爵樺山資紀

四項主計學校練習生規則第二條第四項同第三條第四項鍛冶木工練習生規則第三條第四項ヲ削除ス
明治二十四年四月八日 海軍大臣子爵樺山資紀

〔參照〕

海軍省第五號砲術練習規則(明治二十三年一月十日)抄録

第二條 擊砲兵ト爲ルベキ者ハ三等以上ノ水兵ニシテ左ノ諸項ニ適合ノ者タル可シ

四 處刑及賭博犯ノ處分ヲ受ケサル者

海軍省第二十號水雷術練習規則(明治二十三年二月十七日)抄録

第二條 擊水雷兵ト爲ルベキ者ハ三等以上ノ水兵ニシテ左ノ諸項ニ適合ノ者タル可シ

四 處刑及賭博犯ノ處分ヲ受ケサル者

海軍省第三百八十三號海軍機關學校規則(明治二十三年十一月二十日)抄録

第四條 練習生ト爲スベキ機關手ハ左ノ諸項ニ適合ノ者タル可シ

第四 處刑及賭博犯ノ處分ヲ受ケサル者

第五條 練習生ト爲スベキ火夫ハ左ノ諸項ニ適合ノ者タル可シ

第四 處刑及賭博犯ノ處分ヲ受ケサル者

海軍省第三百六十二號海軍主計學校練習生規則(明治二十三年十月三十日)抄録

第二條 練習生ト爲スベキ主帳ハ左ノ諸項ニ適合ノ者タル可シ

第四 處刑及賭博犯ノ處分ヲ受ケサル者

第三條 練習生ト爲スベキ廚夫ハ左ノ諸項ニ適合ノ者タル可シ

海軍省第二十號水工練習生檢査規則(明治二十四年二月二十一日)抄録

第三條 練習生ト爲スベキ水工檢査ハ左ノ諸項ニ適合ノ者タル可シ

明治二十四年四月 海軍省第七十號

一六五

一六四

第四 處刑及賭博犯ノ處分ヲ受ケサル者

○海軍省達第七十一號

兵備品測器定數表中經線儀ノ欄内横須賀水雷隊佐世保水雷隊對馬水雷隊各布設部ノ定數ヲ刪除ス
明治二十四年四月八日
海軍大臣子爵樺山資紀

○陸軍第五十三號

明治二十三年度以降ニ係ル物品中左ノ計算ノ検査及責任解除ヲ會計検査院法第十六條ニ據リ會計
検査院ヨリ委託セラレタリ依テ之ヲ更ニ近衛各師團及屯田兵監督部ニ委託ス
明治二十四年四月九日
陸軍大臣伯爵大山 巖

一 陸軍軍隊ノ委任經理ニ屬スル糧食、被服、消耗品、陣營具、及馬匹ニ係ル物品
二 各軍樂隊、野戰電信隊、諸學校、諸學舎、要塞砲兵幹部練習所、教導團、監獄ニ於テ前項軍隊ニ準シ
委任經理ニ屬スル物品
三 各衛戍病院ノ糧食ニ屬スル物品

○陸軍第五十四號

明治二十三年勅令第八十五號陸軍各兵科現役下士補充條例改正前屯田兵ヘ轉科シタル下士ニシ
テ目下現役中及再服役中ノ者ニ更ニ平吏部下士ハ舊屯田兵條例第二十四條第二項ノ年期ヲ保ツモノ
トス但其現役又ハ再服役滿期ノ後ハ陸軍現役下士ニ等兵再服役條例ニ依ル
明治二十四年四月九日
陸軍大臣伯爵大山 巖

(參照)

勅令第二百二號屯田兵條例(明治二十二年七月三十日官報)抄錄
第二十四條第二項
一 各兵科現役下士ヨリ轉科シタル者ハ轉科ノ日ヨリ更ニ七箇年間服役セシム

但向ニ服役志願ノ者ハ更ニ三箇年間服役ヲ許スコトアルヘシ

○海軍省達第七十二號

艦國隊校屬需品出納整理規程左ノ通定ス
明治二十四年四月九日
海軍大臣子爵樺山資紀

艦國隊校屬需品出納整理規程

第一條 艦國隊校屬ニ於テ需品ノ出納簿記ハ各主管者之ヲ整理シ現品ノ出納受拂支出ノ記帳及報
告ノ調製等ハ各分擔者當該主管者ノ指揮ヲ受ケ之ヲ取扱フモノトス

第二條 艦國隊校屬ニ於テ需品經理規程第二十八條ニ依リ需品ノ供給ヲ鎮守府司令長官ニ要請ス
ルトキハ第一號書式ニ據ルヘシ

第三條 艦國隊校屬ニ於テ定備品ヲ受込ニ若クハ之ヲ還納亡失修補ナル等ノコトアルトキハ第二
號書式ニ據リ總テ定備品明細簿ニ其員數及摘要ヲ登記スヘシ

第四條 艦國隊校屬ニ於テ定備品ノ供給ヲ要スルニ當リ之ヲ製作スヘキ材料ヲ受込ニ諸工ヲシテ
製作セシメタルモノアルトキハ前條ノ例ニ依リ該定備品ニ關スル事項ヲ記帳スヘシ

第五條 艦國隊校屬ニ於テ豫備品ヲ供用シ又ハ其補充ヲ受込タルトキハ第三號書式ニ據リ豫備品
明細簿ニ其員數及摘要ヲ登記スヘシ

第六條 艦國隊校屬ニ於テ消耗品ヲ受込タルトキハ第四號書式ニ據リ消耗品受拂簿ニ其員數及摘
要ヲ登記シ消耗品ヲ支出シタルトキハ第五號書式ニ據リ消耗品ヲ支出簿ニ其員數摘要ヲ登記ス
ヘシ

第七條 消耗品受拂簿ハ毎月計算シ毎年度末ニ於テ之ヲ通算シ殘額アルトキハ之ヲ翌年度ノ元受
ト爲スヘシ

第八條 靜動率滑車定額表ニヨリ受込タル需品及豫備品ニシテ船體檣桁汽機汽罐ニ取附クルノ用

ニ供スル爲メ受込タル需品ハ第六號書式ニ據リ艦船附屬物明細簿ニ記帳スヘシ
第九條 艦隊校廳ニ於テ需品ヲ受込タルトキハ供給票ニ依リ之ヲ各簿ニ記註シ又需品ヲ支出シタルモノハ支出簿ニ依リ之ヲ各簿ニ記註シ供給票及支出簿ハ各年度毎ニ一括シ保存スヘシ
(第一號乃至第六號書式略ス)

○海軍省達第七十二號

海軍兵學校附屬練習艦天龍第二檢査施行ニ付役務ヲ解カル

明治二十四年四月十日

海軍大臣子爵樺山資紀

○海軍省達第七十四號

五等火夫教育規則第三條實地修業ハ云々ノ項左ノ通改正ス

明治二十四年四月十日

海軍大臣子爵樺山資紀

實地修業ハ學期中終リノ二箇月間練習艦ニ於テ六晝夜以上ノ就業ヲ爲サシム但四箇月以上ノ教育ヲ終リタル者ニシテ學力優等ナル者ハ練習艦ニ於テ教育スルコトヲ得

〔參照〕

海軍省達第十四號五等火夫教育規則(明治二十三年一月十四日)抄録

第三條中

實地修業ハ學期中終リノ二箇月間練習艦ニ於テ爲サシム但航海ノ時間ハ六晝夜以上トス

○陸軍第五十五號

七珊米野砲豫備品軍制式別紙圖面ノ通定ム (別紙略ス)

明治二十四年四月十一日

陸軍大臣伯爵大山 巖

○陸軍第五十六號

明治二十四年度以降ニ係ル經費中左ノ計算ノ檢査及責任解除ヲ會計檢査院法第十五條ニ據リ會計

檢査院ヨリ委託セラレタリ仍テ之ヲ更ニ當該監督部ニ委託ス

明治二十四年四月十一日

陸軍大臣伯爵大山 巖

一 陸軍々隊ノ委任經理ニ屬スル糧食、被服、消耗品、陣營具及馬匹ニ係ル定額

二 各軍樂隊、諸學校、諸學舎、要塞砲兵幹部練習所、教導團、監獄ニ於テ前項軍隊ニ準シ委任經理ニ屬スル給與

三 將校飼養馬匹事務取扱委員ノ委任經理ニ係ル馬料

四 各衛戍病院ノ糧食

○陸軍第五十七號

明治二十二年七月陸軍第八十八號工兵大隊作業器具表電信材料中電槽ノ員數「二」ヲ「一六」ニ改ム

明治二十四年四月十一日

陸軍大臣伯爵大山 巖

○海軍省達第七十五號

計算帳簿規程第五條ニ左ノ一項ヲ加フ

明治二十四年四月十三日

海軍大臣子爵樺山資紀

四 艦隊經費各節整理簿

〔參照〕

海軍省達第五十七號計算帳簿規程(明治二十三年二月十四日)抄録

第五條 艦守府ニ於テハ前條ニ掲タルモノ、外左ノ帳簿ヲ設備シテ府經費ト艦隊經費トヲ區別シ其計算ヲ整理スヘシ

一 歳出豫算内閣簿

二 艦隊前渡金整理簿

三 艦隊前渡金内閣簿

○海軍省達第七十六號

歳入歳出豫算調理規程中左ノ通改正追加ス

明治二十四年四月十三日

海軍大臣子爵樺山資紀

第九條 委任仕拂命令官ハ豫算額ニ對シ目節ノ金額ヲ流用スルコトヲ得ス増減ヲ生スヘキ見込アルトキハ事由ヲ詳記シ其増減ヲ主務局長ニ請求スヘシ但俸給及諸給並艦隊經費ニ限リ各節ノ流用ハ委任仕拂命令官ニ於テ流用シ其都度主務局長ニ其金額科目及事由ヲ具シ之ヲ報告スヘシ

鎮守府委任仕拂命令官ハ艦隊ヨリ項目節増減ノ請求ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ適當ト認ルモノハ艦隊經費豫算各項各節中ニ於テ差繰處辨スヘシ
第十條 主務局長前條豫算増減ノ請求ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ適當ト認ルモノハ艦隊經費豫算各項各節中ニ於テ差繰處辨スヘシ

但各節流用ノ請求又ハ報告ニ對シテハ主務局長第三局長ト協議シ之カ處分ヲ爲スヘシ

〔參照〕

海軍省達第十六號歳入歳出豫算調理規程(明治二十三年一月十四日抄録)

第九條 委任仕拂命令官ハ豫算額ニ對シ目ノ金額ヲ流用スルコトヲ得ス増減ヲ生スヘキ見込アルトキハ事由ヲ詳記シ其増減ヲ主務局長ニ請求スヘシ

鎮守府委任仕拂命令官ハ艦隊ヨリ項目節増減ノ請求ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ適當ト認ルモノハ艦隊經費豫算各項各節中ニ於テ差繰處辨スヘシ

第十條 主務局長前條豫算増減ノ請求ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ適當ト認ルモノハ艦隊經費豫算各項各節中ニ於テ差繰處辨スヘシ

○海軍省達第七十七號

歳入歳出取扱規程書式第十五號及第十六號ヲ別紙ノ通改正ス

明治二十四年四月十三日

海軍大臣子爵樺山資紀

○海軍省達第七十八號

艦隊金銭出納規程第七條ニ左ノ但書ヲ加ヘ該規程書式第四號第五號及第六號甲乙ヲ別紙ノ通改正ス (別紙略ス)

明治二十四年四月十三日

海軍大臣子爵樺山資紀

但一各節ノ流用ヲ要スルトキハ其金額並ニ事由ヲ詳記シ其都度仕拂命令官ニ報告ス可シ

〔參照〕

海軍省達第八十一號艦隊金銭出納規程(明治二十三年三月三日抄録)

第七條 主計長本管鎮守府委任仕拂命令官ヨリ通知セル明細仕拂豫算額ニ對シ増額ヲ要スルモノアルトキハ第四號書式ニ據リ經費増額請求書ヲ作り又一項中各目ノ流用ノミヲ要スルモノアルトキハ第五號書式ニ據リ増減計算書ヲ作り該鎮守府委任仕拂命令官ニ請求スヘシ

○海軍省達第七十九號

艦隊校需用品定額表中航海長主管船匠師ノ部定備第十五類火酒樽及消耗品第五類白塗具中鋼鐵線用ノモノヲ删除ス

但端艇用ノ火酒ハ艦隊校應ニ於テ適宜木函ノ内ニ格納シ辨用スヘシ

明治二十四年四月十四日

海軍大臣子爵樺山資紀

○海軍省達第八十號

艦隊校應需用品出納整理規程書式用紙第二號以下四廉ノ數量別表ノ通定ム

但別表ハ之ヲ要スル艦隊校應へ第二局ヨリ送付ス (別表略ス)

明治二十四年四月十四日

海軍大臣子爵樺山資紀

○陸達第五十八號

近衛各師團騎兵隊増設人員數表中二十四年十二月乃至二十七年十二月ノ横畫縫工靴工及計ノ縱

第四 試驗ニ合格ノ者

- 志願者機關師適任證書又ハ機關手適任證書ヲ有スル者ナルトキハ前項ノ試驗ヲ要セス
- 第三條 練習生ニ採用スヘキ人員ハ其所要ニ應シ毎年鎮守府コトニ之ヲ定メ採用日限ハ横須賀鎮守府ヲシテ之ヲ定メシム
- 第四條 練習生採用ノ達アリタルトキハ艦隊校廳長ハ志願者ヲシテ出願セシメ第二條第四項ノ外各項ニ適合スル者ヲ調査シ其官職氏名ヲ水雷術練習艦長ニ通知ス可シ
- 第五條 水雷術練習艦長前條ノ通知ヲ得タルトキハ試驗問題ヲ作り艦隊校廳長ニ送付ス各長ハ試驗ヲ行ヒ其答書ヲ練習艦長ニ送付ス可シ
- 第六條 試驗ハ作文算術ノ二科トス
作文ハ通俗算術ハ分數ヲ程度トス
- 第七條 水雷術練習艦長ハ各鎮守府コトニ練習生ト爲ルヘキ者ヲ區別シ試驗合格者ハ成績ノ順序ヲ以テ職氏名ヲ列記シ乘艦期日ヲ定メ軍港司令官ヲ經由シ司令長官ニ進達ス可シ
- 第八條 横須賀鎮守府司令長官前條ノ進達書ヲ受タルトキハ他鎮守府海兵團ニ屬スルモノヲ各其司令長官ニ送附ス可シ
- 鎮守府司令長官ハ所定ノ人員ニ從ヒ艦隊校廳長ヲシテ練習生ヲ命シ期日以内ニ乘艦セシム可シ
- 第九條 合格者ノ數所要ノ人員ニ超過スルトキハ試驗成績ノ順序ニ依リ成績同シキ者ハ等級ノ順序ニ依リ練習生ヲ命ス
- 合格者中機關師適任證書又ハ機關手適任證書ヲ有スル者アルトキハ前項ノ順序ニ拘ハラズ練習生ヲ命ス可シ
- 第十條 練習生ノ教科及練習日數ハ左ノ如シ

教科日數	項目
電氣 三十五日	定額電氣及磁氣ノ大意 各種電池ノ構造 電流誘導器 電氣通管器 電線 大電路裝置 電氣燈 水雷船ノ種類
防禦水雷 五日	水雷船ノ種類 水雷船ノ構造 水雷船ノ防禦法
攻撃水雷 五十五日	外裝水雷 反裝水雷及深溝水雷ノ大意 魚形水雷 各種發射機 壓搾機 水雷艇機關取扱 水雷防禦網
實地工業 百 日	電氣工業 水雷及器具ノ製作並修理 魚形水雷ニ關スル修理發電機ノ修理
總計 百九十五日	

實地工業ハ長浦兵器部工場ニ於テ教授スルモノトス

- 第十一條 試驗ハ分テ小試驗大試驗ノ二種トス
- 第十二條 小試驗ハ一教科ノ終リニ之ヲ行ヒ大試驗ハ全教科ノ終リニ之ヲ行フ
- 第十三條 小試驗及大試驗ニ於ケル及第點數ハ各教科全點數十分四以上ヲ得其點數ヲ合算シ總點數ノ十分五以上トス
- 第十四條 大試驗ノ成績ハ全科小試驗平均ノ得點ト大試驗得點トヲ合算シテ之ヲ定ム
- 第十五條 大試驗ニ及第シタル者ニハ水雷工卒業證書ヲ授與ス
- 第十六條 卒業證書ハ一等二等ノ二種トス
一等卒業證書ハ全點數十分七以上ヲ得タル者ニ授與シ二等卒業證書ハ全點數十分五以上ヲ得タル者ニ授與ス
- 第十七條 大試驗ニ落第シタル者ハ若干日ノ復習ヲ爲サシメ再試驗ヲ行フコトヲ得而シテ及第ノ者ニハ二等卒業證書ヲ授與ス
- 第十八條 大試驗又ハ其再試驗ニ落第シタル練習生修學中傷痍疾病若クハ怠慢ニシテ卒業ノ目途

ナキ者又ハ處罰ヲ受ケ改竄ノ狀ナキ者ハ水雷術練習艦長練習生ヲ免シ軍港司令官ヲ經由シ司令長官ニ届出ツ可シ他團在籍ノ者ナルトキハ本籍海兵團ニ送附シ之ヲ該團長ニ通知ス可シ該團長ハ各其所屬軍港司令官ヲ經由シ司令長官ニ届出ツ可シ

○海軍省達第八十五號

還納小蒸汽船端舟雜種船取扱手續左ノ通定ム

明治二十四年四月十八日

海軍大臣子爵樺山資紀

還納小蒸汽船端舟雜種船取扱手續

- 第一條 艦團隊校ニ於テ備附ノ小蒸汽船端舟若クハ雜種船ヲ還納セントスルトキハ之ヲ知港事ニ交附シ知港事ニ於テ其保管ヲ爲スモノトス
- 第二條 知港事ハ適宜帳簿ヲ備ヘ保管舟類ノ授受ヲ明記シ又還納ニ係ル舟類ヲ領收シタルトキハ直ニ還納元艦團隊校名船種(船名又ハ番號アルモ)並其理由ヲ記シ第二局ニ報告ス可シ
- 第三條 還納舟類ノ内後來使用ノ見込ナキモノト知港事ニ於テ認定シタルトキハ司令長官ノ認可ヲ得テ賣却處分ヲ主計部ニ請求ス可シ
- 第四條 司令長官知港事ノ保管ニ係ル小蒸汽船端舟雜種船ノ内他ニ供用ヲ要スルトキハ理由ヲ附シ認可ヲ受ク可シ
- 第五條 知港事保管舟類ノ内第三條並第四條ニ依リ賣却處分濟トナリタルトキ又ハ他ニ供用シタルトキハ其時々事由ヲ記シ第二局ニ報告ス可シ

○海軍省達第八十六號

明治二十二年九月達第三百三十五號海軍通常物品會計規程附則ヲ刪除シ左ノ各條ヲ加フ

明治二十四年四月十八日

海軍大臣子爵樺山資紀

第二十五條 物品會計官吏保管品ノ亡失其他官損アリタルトキハ其品目數量代價及其事由ヲ詳

記シ命令官ニ出シ命令官ハ之ヲ調査シ意見ヲ附シ大臣ニ届出ツ可シ此場合ニ於テ物品會計官吏負擔ノ責ヲ免ルヘキ理由アリト信スルトキハ計算書ヲ作り之ニ證據書類ヲ添ヘ會計監督部ヲ經テ會計検査院ニ其判決ヲ求ム可シ

第二十六條 供用品取扱主任其他物品ノ保管者其保管ニ係ル物品ノ亡失毀損アリタルトキハ直チニ品名數量及其事由ヲ詳記シ物品會計官吏ニ報告ス可シ

第二十七條 物品會計官吏前條ノ報告書ヲ得タルトキハ之ヲ審査シ至當ノ理由アルモノト見認メタルトキ亡失品ニ在テハ命令官ノ承認ヲ受ケ第二十五條ノ手續ヲ爲シ毀損品ニ在テハ修理等ノ手續ヲ爲スモノトス其理由不充分ナリト見認メタルトキハ意見ヲ附シ命令官ノ處分ヲ乞フ可シ

第二十八條 物品出納命令官物品ノ出納整理ニ誤謬アルヲ知リタルトキハ大臣ニ上申スルノ前會計監督部ノ調査ヲ受ケ其意見書ヲ附シ上申ス可シ

〔參照〕

海軍省達第三百三十五號海軍通常物品會計規程(明治二十二年九月六日)抄録

附則

第二十五條 本規程ハ物品會計規則實施ノ日ヨリ施行ス

○海軍省達第八十七號

艦團隊校應需用品定額表中左ノ通改正追加ス

但薪及紙ノ數量表ハ之ヲ要スル艦團隊校應ニ第二局ヨリ送付セシム(數量表略ス)

明治二十四年四月二十日

海軍大臣子爵樺山資紀

機關長主管消耗第八類中薪ヲ「雜薪」ニ同第十二類石炭ノ備考ヲ「航海用其他必要ノ數量適宜ニ給ス」ニ改ム

陸軍省所管歲入歲出各局課擔任區分別册ノ通改正ス
明治二十四年四月二十七日

陸軍大臣伯爵大山 巖
(△印、朱書)

陸軍省所管歲入歲出各局課擔任區分		
局	課名	
軍務局	第一軍事課	監軍部、砲工學校、士官學校、幼年學校、砲兵射的學校、要塞砲兵幹部練習所、旅團司令部、近衛司令部、師團司令部、旅團司令部、步兵隊、警備隊、軍樂隊、大學校、大隊區司令部、警備隊司令部、憲兵司令部、憲兵隊、屯田兵司令部、屯田各兵隊、屯田兵監督部、衛戍監獄署
	第二軍事課	參謀本部、近衛司令部、師團司令部、旅團司令部、軍法會議所、步兵隊、警備隊、軍樂隊、大學校、大隊區司令部、警備隊司令部、憲兵司令部、憲兵隊、屯田兵司令部、屯田各兵隊、屯田兵監督部、衛戍監獄署
	馬政課	騎兵隊、騎重兵隊、乘馬學校、騎鐵學舍、軍馬育成所、騎重廠、調馬主管
	砲兵事務課	各砲兵隊、砲兵會議、砲兵方面本署、砲兵方面支署、武庫、砲兵工廠、砲兵工廠學舍
	工兵事務課	工兵隊、工兵會議、工兵方面本署、工兵方面支署
	獸醫課	重疫病馬治療所
	第一課	監督部、經理學校、司計部
	第二課	陸地測量部、被服廠、被服工長學舍、千住製絨所作業
	第三課	大臣官房各局法官部、經營部
	第四課	衛戍病院、衛戍病室、分遣隊病室、軍醫學校
會計局		
醫務局		

局	課名	擔任區分
軍務局	第一軍事課	「軍事費」中俸給及諸給、馬匹費中馬鞍器械水料、裝飾別毛料、馬藥料、應費(治療器械、馬鞍器械、裝飾器、裝飾器) 雜給(監軍部、砲工學校、士官學校、幼年學校、戶山學校、砲兵射的學校、要塞砲兵幹部練習所、教導團、軍樂學舍、外國留學生、士官候補生、
	第二軍事課	「軍事費」中俸給及諸給、因徒費、應費(治療器械、馬鞍器械、裝飾器、裝飾器) 雜給(參謀本部、近衛司令部、師團司令部、旅團司令部、參謀本部、近衛司令部、師團司令部、旅團司令部、軍法會議所、步兵隊、警備隊、軍樂隊、大學校、大隊區司令部、警備隊司令部、憲兵司令部、憲兵隊、屯田兵司令部、屯田各兵隊、屯田兵監督部、衛戍監獄署、六週間現役兵、法科大學委託生)
		「軍事費」中演習及復習費中復習費(近衛師團)
		「軍事費」中俸給及諸給、馬匹費中裝飾別毛料、馬藥料、因徒費、應費(治療器械、馬鞍器械、裝飾器、裝飾器) 雜給(監軍部、砲工學校、士官學校、幼年學校、戶山學校、砲兵射的學校、要塞砲兵幹部練習所、教導團、軍樂學舍、外國留學生、士官候補生、
		「軍事費」中俸給及諸給、馬匹費中裝飾別毛料、馬藥料、因徒費、應費(治療器械、馬鞍器械、裝飾器、裝飾器) 雜給(監軍部、砲工學校、士官學校、幼年學校、戶山學校、砲兵射的學校、要塞砲兵幹部練習所、教導團、軍樂學舍、外國留學生、士官候補生、
		「陸軍本省」軍事費「憲兵費」屯田兵費「中馬匹費中將校馬匹費、馬匹買上代、馬匹用初度備附費中裝飾器械、別毛器械、透馬諸費、應費中裝飾器械、別毛器械、各官衙各隊)

佐世保鎮守府		造船部	技監	一	大技監
造船部製造科		主幹	技監或ハ技士	一	少技監
兵器部		主幹	少佐或ハ大尉	二	大少尉
兵器部		主幹	技士	一	少技士
主計部		主幹	主計監	一	主計大監
新原探炭所		所長	機關少監或ハ大機關士	一	大機關士

○陸軍第七十號
陸軍下士以下任免命課等ニ辭令書ヲ發スルモノト發セサルモノノ區分左ノ通定ム

明治二十四年五月二日

辭令書ヲ發スルモノ

定式用紙

一 任官

一一 等給

一下 副官、教官補、補職免職

一下 士轉隊及轉職

一新任下士ニ隊附並職務ヲ命スルトキ

一 士官候補生ヲ命スルトキ

野紙

一下 士現役ヲ離レタルモノ事務引渡ノ爲メ特ニ執務ヲ命スルトキ

一下 士單行出張若クハ上官ノ隨行ヲ命スルトキ

辭令書ヲ發セサルモノ

口達レテ手帖ニ記載スベキ分

一下 士聯大隊中ニ於テ分課及轉隊ヲ命スルトキ

一下 士兵卒ニ學生及諸生徒^{士官候補生ヲ除ク}ヲ命スルトキ

一下 士滿役^{後備役ヲ除ク}疾病傷痍ニ依リ免官ノトキ

一下 士兵卒現役ヨリ豫備(後備)へ轉役^{中務及免役並歸休ヲ命スルトキ}

明治二十四年五月 陸軍省陸軍第七十號

陸軍大臣 伯耆大山 巖

一 曹長火工曹長一等軍曹火工二等軍曹二等軍曹火工二等軍曹ニシテ現役中七箇年若クハ十箇年ヲ經過シ年功加俸ヲ給スルトキ

一 警備隊附曹長一等軍曹二等軍曹上等兵看護手ニ在隊加俸ヲ給スルトキ及外泊ヲ命スルトキ

一 軍樂次長以下樂手補以上技術加俸ヲ給スルトキ

一 下士兵卒ニ教導隊ヘ分遣ヲ命スルトキ

一 兵卒ニ分課及轉科轉隊ヲ命スルトキ

一 諸生徒及兵卒ノ進級

一 疾病傷痍等ニ依リ生徒ヲ免スルトキ

一 志願軍醫生志願藥劑生志願獸醫生志願軍吏生ヲ命スルトキ

一 憲兵下士兵卒原兵科ニ復スルトキ

口達ノミノ分

一 下士職務増俸ヲ給スヘキ者缺員又ハ事故アリ餘人ニ代理ヲ命スルトキ及免スルトキ

○陸達第七十一號

各兵科士官候補生並豫備見習士官ノ被服ニ附著セムヘキ徽章左ノ通定ム

但豫備見習士官中衛生部獸醫部及軍吏部ノ勤務ヲ爲ス者ハ二十三年十二月陸達第二百二十九號ノ徽章ヲ附スヘシ

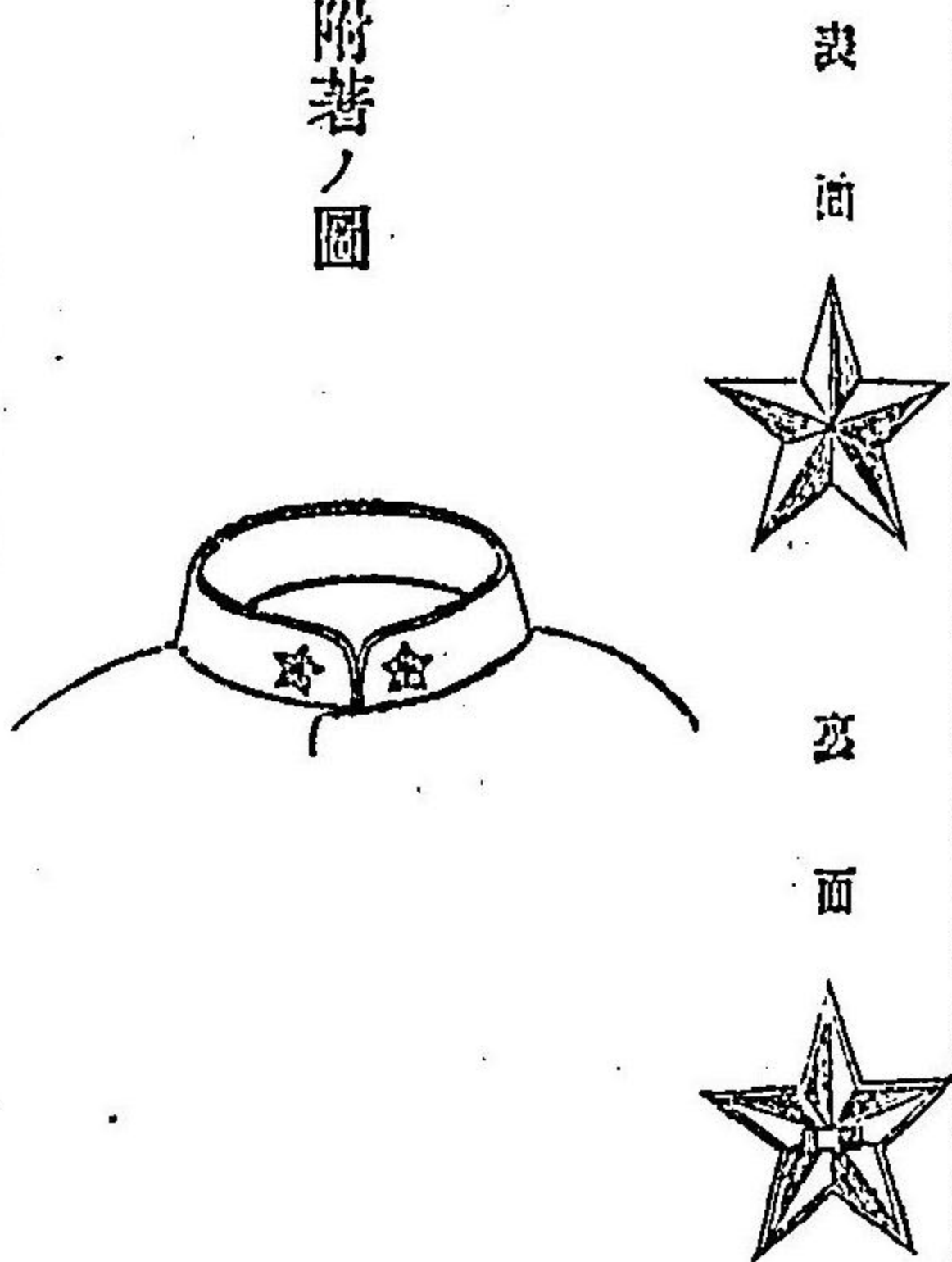
二十年十一月陸達第二百二十九號ハ廢止ス

明治二十四年五月四日

陸軍大臣 伯爵 大山 巖

各兵科士官候補生及徽章ノ圖
 各兵科豫備見習士官
 眞鍮士官候補生ハ鍍銀
 中心ヨリ尖頭ニ至ル五分

同 附著ノ圖



〔參照〕

陸達第二百二十九號(明治二十年十一月十六日)
 陸軍各兵科現役士官補充條例第十七條ニ依リ士官候補生被服ニ附著セムヘキ徽章左圖ノ通定ム(徽章圖略ス)

陸達第二百二十九號(明治二十三年十二月二十七日)
 一年志願軍中志願軍吏生志願軍醫生志願藥劑生志願獸醫生ハ衣ノ襟部ニ左ノ徽章ヲ付ス(徽章圖略ス)

○海軍省達第九十號

鳥羽港相島ニ新築ノ石炭庫ヲ鳥羽炭庫ト稱シ奄美大島久慈村ニ新築ノ石炭庫ヲ大島炭庫ト稱シ舞鶴港倉梯村ニ新築ノ石炭庫ヲ舞鶴炭庫ト稱ス

明治二十四年五月五日

○海軍省達第九十一號

海軍大臣 子爵 樺山 資紀

會計規則第九十三條ニ依リ調製スヘキ檢定書書式左ノ通定ム
明治二十四年五月五日

海軍大臣子爵樺山資紀

(一内ハ朱)

檢定書

一金何程 何年何月何日現金出納簿殘高
一金何程 何年何月何日金權現在金高

内

金貨何程

銀貨何程

紙幣何程

兌換銀券何程

銅貨何程(自封封)

爲替手形何程

(右ノ外現金ノ種類アルトキハ一々之ヲ掲ケヘシ)

何金庫へ委託金何程

何(糧團隊)出納官吏何某取扱ニ係ル帳簿及自封封ヲ檢査候處書面ノ通相違無之候也
明治何年何月何日

本日前付ノ通檢査ヲ受候也

檢査員

職官氏名()

出納官吏

職官氏名()

備考

一 檢査員ハ帳簿及金權ヲ檢査ヲ了シタルトキハ此書式ニ依リ檢定書ニ通シテ製シ出納官吏若クハ其代理官ヲシテ之ニ署名捺印セシメ共一通ハ出納官吏若クハ其代理官ニ交付シ一通ハ直ニ海軍大臣ニ送付スルモノトス
二 收入官吏ト現金出納官吏ノ分トハ各別ニ調製スルモノトス

○陸軍第七十二號

明治二十二年九月陸軍第三百二十八號陸軍物品會計規程左ノ通改正ス

陸軍大臣伯爵大山 巖

明治二十四年五月十一日

陸軍物品會計規程

第一條 此規程ニ於テ官衙トハ陸軍省參謀本部監軍部近衛師團屯田兵司令部及陸軍大臣直轄ノ官衙各所トハ參謀本部ノ大學校陸地測量部監軍部ノ諸學校砲兵會議工兵會議近衛師團ノ各部及本省各局ノ附屬官衙ノ類ヲ云フ

第二條 此規程ニ於テ物品ヲ左ノ如ク分ツ

- 一 器具器械
- 一 圖書
- 一 筆紙墨文具
- 一 消耗品
- 一 糧秣
- 一 藥物及治療用消耗品
- 一 被服品
- 一 製作品及製作物ノ原材
- 一 建築及營造用材料
- 一 郵便切手及證券印紙
- 一 雜品
- 一 動物
- 一 練習用具

第三條 物品ノ管理ハ陸軍省ハ會計局長參謀本部監軍部ハ高級副官其他各官衙各所各隊ハ該長其

責任

第四條 物品出納ノ命令ハ陸軍省ハ會計局長參謀本部監軍部ハ高級副官其他各官衙各所各隊ハ隊長之ヲ執行スヘシ但其出納命令權ヲ部下ニ分ツコトヲ得

物品出納命令ハ前項ノ如シト雖別ニ規則アルモノハ本條ノ限外トス

第五條 各官衙各所各隊ニ於テ物品會計官吏ヲ定メタル時又ハ該官吏交替事務引繼ノ時其官氏名並ニ年月日及當時保管物品ノ價格ヲ各順序ヲ經テ陸軍省ニ報告シ尙當該監督部長ニ通報スヘシ

第六條 陸軍省會計局長各官衙各所各隊長ハ物品會計規則第十四條ニ準シ報告書ヲ製シ年度經過後三箇月以内ニ順序ヲ經テ之ヲ陸軍大臣ニ出スヘシ

第七條 陸軍大臣ハ前條報告書ヲ經費分擔ノ各局課ニ下シ査閲ヲ爲サシメ會計局ニ取纏メ大藏省ヘ送付ノ手順ヲ爲サシム

第八條 物品會計官吏ハ物品會計規則第十五條ニ依リ計算書ヲ製シ年度經過後二箇月以内ニ於テ陸軍省會計局長參謀本部監軍部中央ニアリテハ會計局長各官衙各所各隊長ニ出スヘシ但作業場ニ在リテハ作業及鐵道物品出納證明程式ニ定ムル所ノ書式ニ依ル

前項計算書ハ検査ノ爲メ其受領後五日以内ニ會計局長ハ同局各課長ニ下シ各官衙各所各隊長ハ當該監督部長ニ移スヘシ但作業ニ屬スル物品ニ就テ千住製絨所ニアリテハ會計局第二課長砲兵工廠ニアリテハ軍務局砲兵事務課長ニ移スヘシ

前項検査ノ任アル官吏ハ計算書ヲ検査シ下検査書ヲ作り計算書ト共ニ會計検査院ニ送付スヘシ

第九條 物品會計官吏ハ左ノ簿票證ヲ備フヘシ但各作業場ニ在テハ左ノ書式ニ依ラス便宜ノ簿及傳票ヲ定ムルモ妨ケナシ

一物品出納簿
一物品配與牒

一傳票
一領收證

第十條 物品出納簿第一號ニハ各官衙各所各隊ニ屬スル物品ノ總數ヲ明瞭ニ記載スヘシ

物品配與牒第二號ニハ各官衙各所各隊ニ於テ分配供用ノ數ヲ明瞭ニ記載スヘシ

物品ノ出納ハ傳票第三號乃至領收證第七號ヲ以テ票證ト爲スヘシ

第十一條 各官衙各所各隊ニ於テ所要物品ノ中職員各自ニ專用スルモノハ當該使用者之ヲ保管シ又供用ニ係ルモノハ其監守者ヲ定メ保管セシムヘシ

各官衙各所各隊中供用ノ各室ニ備ヘ置ク物品ハ第二條ニ掲クル諸官特ニ其監守者ヲ定メ保管セシムヘシ

總テ備付物品ノ員數及其監守者ノ姓名ヲ各室ニ揭示スヘシ但事實執行シ難キ場合ニ於テハ監守者ノ姓名ノミヲ揭示シ物品ノ員數ハ之ヲ掲ケサルモ妨ケナシ

官舎備付ノ物品ハ居住者ヲシテ保管セシムヘシ

前各項ノ使用者及監守者ハ當該物品ニ就キ保管ノ責任スヘシ

第十二條 陸軍省各部局課ニ傳票ヲ備ヘ物品又ハ其修理ヲ要スルトキハ其品目員數ヲ該傳票ニ記入シ當該課長官房ニアリテハ副官法ニ捺印シ會計局ニ請求スヘシ但臨時物品ヲ請求スルトキハ其必要ノ理由ヲ傳票ニ記入シ當該局長官房ニアリテハ高級副官ノ檢印ヲ要ス

會計局ハ前項請求ニ對シ調査ヲ爲シ支給又ハ修理命令ヲ執行スヘシ

各官衙各所各隊ハ前項ニ準シ適宜支給順序ヲ定ムヘシ

第十三條 陸軍省各部局課ニ於テ不用ニ屬スル物品アルトキハ還納傳票ニ其員數ヲ記シ前條ノ手續ニ依リ會計局ニ之ヲ返付スヘシ該局ニ於テ審査ノ上爾後使用ニ堪ユヘキモノハ之ヲ保管シ其使用ニ堪ヘサル歟又ハ向來所要ノ目的ナシト認ムルモノハ賣却スル等適宜其處分ヲナスヘシ

各官衙各所各隊ニ於テハ前項ノ趣旨ニ基キ該長其處分ヲ爲スヘシ但物品ノ賣却ハ別ニ定ムル所ノ規則ニ依ルヘシ

第十四條 第十一條ニ依リ當該者其辨償ノ責ニ任スヘシ
規則第七條ノ例ニ依リ當該者其辨償ノ責ニ任スヘシ

第十五條 物品會計規則第十一條第十二條ノ検査官吏ハ陸軍省ニアリテハ會計局各課長ノ中各官衙各所各隊ニアリテハ當該監督部長作業ニ關スル物品ニ就テ于住製鐵所ニアリテハ會計トス但遠隔ノ地ニアリテハ當該官衙ノ長ニ其検査ヲ委任スルコトヲ得

第十六條 物品會計整理ノ方法ハ前各條ノ如シト雖軍隊及其他ニ於テ委任經理ニ屬スル物品ノ會計ハ左ノ各項ニ依ル但シ物品出納報告書ハ第六條ニ據ルヘシ

一 軍隊其他委任經理ニ屬スル物品ヲ左ノ如ク分ツ

一 糧食

一 被服

一 消耗品

一 陣營具

一 馬匹ニ係ル物品

一 物品ハ其委任ヲ受ケタル隊長若クハ當該長之ヲ管理シ且出納ノ命令ヲ執行スヘシ但恆例アルモノハ其出納命令權ヲ部下ニ分ツコトヲ得

一 軍隊ノ物品會計官吏ハ各委員連帶ヲ以テ其責ニ任ス

一 帳簿票證ハ陸軍會計簿規程ノ定ムル所ニ依ル

一 物品及其計算ノ検査ハ毎年當該監督部長閣檢ノ際若クハ隨時之ヲ執行スヘシ

第十七條 此規程ニ定メタルモノノ外ハ物品會計規則ノ各條ニ據ルヘシ
(第一號乃至第八號書式略ス)

○陸軍第七十三號
本年四月陸軍第六十五號陸軍省所管歳入歳出各局課擔任區分中左ノ通加除ス

明治二十四年五月十二日 陸軍大臣伯爵大山 巖

歳出ノ部

第二軍事課擔任區分中軍事費中俸給及諸給ノ下ニ馬匹費中馬療器械永續料裝蹄羽毛料馬藥料ノ十九字ヲ挿入ス

砲兵事務課擔任區分中軍事費中修繕費ノ割注砲兵方面本署同支署ノ九字及營繕費(臨時)ノ下括弧

朱書中砲兵方面本署砲兵方面支署ノ十二字ヲ削除ス

○陸軍第七十四號

輜重廠職工器具備附定數表別紙ノ通定ム(別紙略ス)

明治二十四年五月十二日 陸軍大臣伯爵大山 巖

○陸軍第七十五號

三本木軍馬育成所支所ヲ巖手縣下二ノ戸郡小島谷村ニ置キ三本木軍馬育成所十三本木支所ト稱ス

明治二十四年五月十六日 陸軍大臣伯爵大山 巖

○陸軍第七十六號

明治二十四年五月ヨリ神奈川縣橫須賀山口縣赤間關長崎縣對馬ニ砲兵方面支署ヲ置キ其稱呼ハ砲兵第一方面橫須賀支署砲兵第二方面下ノ關支署砲兵第一方面對馬支署トス

但對馬支署ニハ署員ヲ置カス又橫須賀支署ハ當分ノ内神奈川縣浦賀ニ置ク

明治二十四年五月十六日 陸軍大臣伯爵大山 巖

明治二十四年五月 陸軍省陸軍第七十三號 陸軍第七十四號 陸軍第七十五號 陸軍第七十六號 一九九